

IBM ThinkPad 600E
ユーザーズ・リファレンス

IBM

IBM ThinkPad 600E

ユーザーズ・リファレンス

注

本書および本書でサポートされている製品をご使用になる前に、xiiページの『安全に正しくお使いいただくために』に記載されている一般情報、および163ページの付録B、『特記事項』を必ずお読みください。

日本国内で内蔵モデムをご使用になる場合の注意

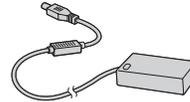
ThinkPad 内蔵モデムを日本国内でご使用になる場合は、必ず日本国モードでご使用ください。他国のモードでご使用になると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

注）本製品をご購入時は初期値が日本国モードとなっていますので、そのままご使用になれます。

AC アダプターについて

ThinkPad の AC アダプターは、日本国内での使用を前提として、次の規格に適合しています。

- 定格：
 - 入力: AC 100V 50/60Hz
 - 出力: DC 16V
- 型式認可番号：第91 - 56010号、第91 - 56011号、第91 - 56012、第91 - 56055号、第91 - 56887号、第91 - 56271号

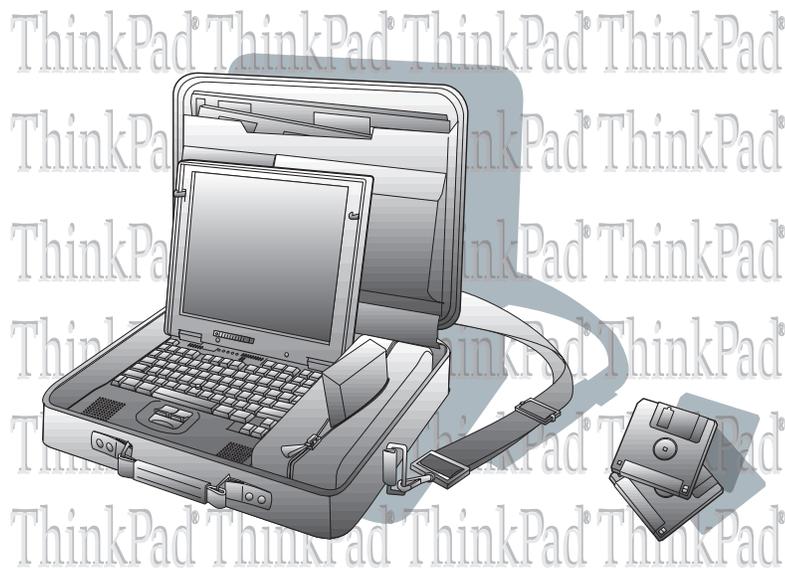


第 1 版 (1998 年 10 月)

原典	27L8078 IBM ThinkPad 600E User's Reference
発行	日本アイ・ピー・エム株式会社
担当	ナショナル・ランゲージ・サポート

このたびは
IBM ThinkPad 600Eをお買い上げいただき
ありがとうございます。

この ThinkPad は、
お客様の技術的要件と高い信頼にお応えできるよう開発されました。
モバイル・コンピューターのニーズにしっかりと取り組んだ製品を
今後も作り続けるため、**セットアップ・ガイド**を参照して、
IBM にお客様登録をしていただくようお願いいたします。



機能の特徴

高度なテクノロジーを集積したコンパクト設計

薄型、軽量で持ち運びに適した ThinkPad 600E は、コンピューターを携帯しての出張や旅行に最適です。いつでもどこでも必要なときに ThinkPad をお使いいただけます。

高速プロセッサー

Intel®高速プロセッサー搭載により、高速データ処理が可能になり、パフォーマンスが向上しました。

大容量のハード・ディスク・ドライブ

大容量のハードディスク・ドライブが、お客さまのさまざまなビジネス・ニーズに対応します。

大型カラー液晶ディスプレイ (LCD)

大型の TFT (Thin-Film Transistor) 液晶ディスプレイは、鮮明でクリアな文字とグラフィックスを表示できます。

リチウム・イオン・バッテリー・パック

大容量のリチウム・イオン・バッテリー・パックによって、ThinkPad を長時間携帯して使用できます。

DVD ドライブ

DVD (Digital Versatile Disc) ドライブによって、DVD 形式で記録されたプレゼンテーションが再生できるだけでなく、標準 CD-ROM ディスクの再生もできます。

3D ステレオ・サウンド搭載のオーディオ機能

ThinkPad にはオーディオ録音および再生機能が内蔵されており、3D ステレオ機能を使用可能にすると、2 つのスピーカーからのサウンドが立体的に生成されます。

オーディオ機能は、次のものをサポートします。

- 最大 16 ビット、ステレオ、44 kHz サンプリングによるウェーブ・オーディオ録音および再生
- Sound Blaster Pro** インターフェースを使った DOS 用のゲーム。

オーディオ機能の使用方法 → ステップ・アップ・ガイド。

ThinkPad モデム

ThinkPad モデムにより、電話回線を介したデータ、ファックス、および音声の送受信が可能です。このモデムは、IBM Advanced Communication Processor と呼ばれる DSP (デジタル・シグナル・プロセッサ) を使用しており、専用のソフトウェアをアップグレードすることで、より多くの柔軟性を持たせることができます。

ThinkPad モデム機能の使用方法 → ステップ・アップ・ガイド。

拡張制御付きのトラックポイント*

ThinkPad には、トラックポイントを押すだけで選択操作のできる拡張トラックポイント機能が付いています。新しく設けられたセンターボタンによって、トラックポイントが、スクロール制御デバイスや拡大鏡に変わります。

トラックポイントの使用方法 → 9ページの『トラックポイント』。

PC カード・サポート

ThinkPad には 16 ビット PC カード、CardBus カード、および ZV (Zoomed Video) カードを取り付けられる、PC カード用スロットを 2 つ装備しています。

PC カードの取り付け方法 → 74ページの『PC カードの取り付け』。

機能の特徴	iv
本書について	x
安全に正しくお使いいただくために	xii
絵表示について	xii
危険/注意ラベルの表示について	xii
レーザーに関する承諾事項	xv
第1章 ご使用の ThinkPad について	1
各部の機能と名称	2
システム状況インジケータ	6
ThinkPad の機能	9
キーボードの機能	9
ウルトラスリムベイ	16
ThinkPad ユーティリティ・プログラム	17
ソフトウェアの再設定	33
ConfigSafe	34
最新のソフトウェアの入手先	34
バッテリー・パックの交換	35
サービス体制	37
記録用紙	37
第2章 トラックポイントの設定とオプションの使用	39
トラックポイントの設定	40
メモリーの増設	45
DIMM の取り付け	46
DIMM の取り外し方法	51
ハードディスク・ドライブのアップグレード	52
ディスク・ドライブの外付け接続	55
外付けディスク・ドライブのウォーム接続を使用可能にするには	56
外付けディスク・ドライブ取り付けキットからディスク・ドライブを取り外すには	57
マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続	58
マウスまたは数値キーパッドの接続	58
外付けキーボードとマウスの接続	60
トラックポイントの使用不可	62

外付けディスプレイの接続	63
ThinkPad への TV の接続	67
マルチモニタ機能の使用	69
PC カードの取り付け	74
PC カードの取り外し	76
拡張ユニットの使用	77
ThinkPad の電源をオフにしてのドッキング (コールド・ドッキング)	78
ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング)	78
. 81	
リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定	83
拡張ユニットの IDE ドライブの使用	84
ウルトラスリムベイ・デバイスの交換	88
ウルトラスリムベイのデバイスのウォーム・スワップ	89
第3章 ThinkPad の保護	91
パスワードの使用	92
パスワードの入力	93
パスワードの設定	94
パスワードの変更または消去	96
パーソナライゼーション・エディターの使用	103
パーソナル・データの入力	103
パーソナル・データの削除	106
ロック機能の使用	107
セキュリティーねじの使用	108
第4章 問題が起こったら...	109
ヒントおよび制限事項	111
ハードディスク・ドライブの使用	115
拡張ユニットの使用	115
汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用	116
DVD ドライブの使用	116
PC カードの使用	116
2 枚目の CardBus カードの使用	117
マイクロホンの使用	118
問題判別ガイド	119
問題判別表	120
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	122

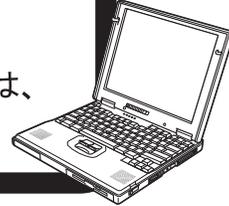
エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題	129
入力装置の問題	129
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	131
液晶ディスプレイ (LCD) の問題	134
インジケータの問題	135
バッテリーの問題	135
ハードディスク・ドライブの問題	136
CD-ROM ドライブの問題	137
DVD ドライブの問題	138
赤外線通信の問題	139
オーディオまたは電話機能の問題	141
汎用シリアル・バス (USB) の問題	142
PC カードまたは内蔵モデムの問題	142
その他の PC カードの問題	143
拡張ユニットまたはセクタベースの問題	147
プリンターの問題	148
外付けディスプレイの問題	149
TV の問題	152
その他のオプションの問題	153
ソフトウェアの問題	155
その他の問題	156
ThinkPad のテスト	157
付録A. 製品仕様	159
機能	159
仕様	162
付録B. 特記事項	163
西暦 2000 年対応および説明	163
商標	164
製品の注記要件	165
索引	167

本書について

本書には、IBM ThinkPad 600E を操作する上で役立つ情報が記載されています。ThinkPad を実際にお使いになる前に、*ThinkPad セットアップ・ガイド*と本書の第 1 章を必ずお読みください。

第 1 章

「ご使用の ThinkPad について」では、ThinkPad の基本機能を紹介します。



第 2 章

「トラックポイントの設定とオプションの使用」では、オプションの取り付け方法および ThinkPad の先端技術を取り入れた機能の使用方法について説明します。

第 3 章

「システムの保護」では、パスワードの使用、パーソナライゼーション機能、およびロックの使用について説明します。

第 4 章

「問題が起こったら・・・」では、ThinkPad に問題が起こった場合の対処方法について説明します。本章には、問題判別ガイドが含まれます。

「付録 A 製品仕様」では、ThinkPad に関する機能と仕様について説明します。

「付録 B 特記事項」には、本書に関する特記事項が記載してあります。

また、本書の最後には「索引」が付いています。

本書で使用されているアイコン

次は、ThinkPad で使用する各オペレーティング・システムに固有の手順や説明を表すためのものです。



Microsoft® Windows® 98 に関する情報



IBM Operating System/2® (OS/2) に関する情報



Microsoft® Windows® 95 に関する情報



IBM PC DOS に関する情報



Microsoft® Windows NT® に関する情報



Microsoft® Windows® 3.1 に関する情報

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、本製品を安全に正しくご使用いただくための安全表示が記述されています。この取扱説明書を保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への安全表示については、製品を正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

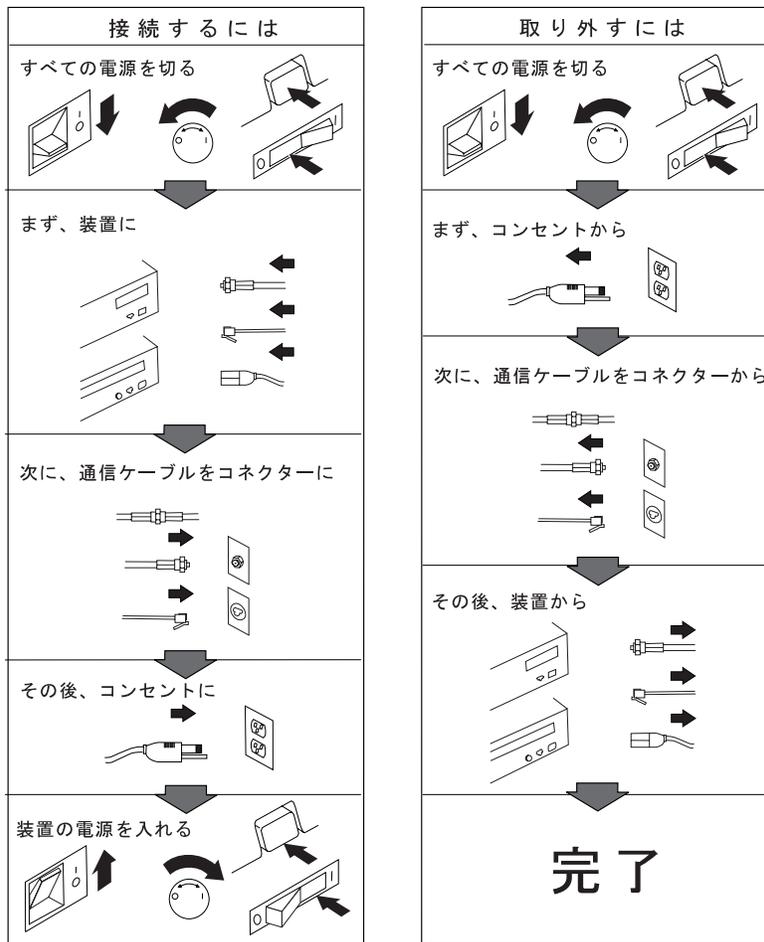
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

この製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがある場合は、安全上に関しての、危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。この取扱説明書に記述されている内容以外に、危険または注意ラベルによる表示がある場合は (たとえば製品上)、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

⚠危険

- 電源コードは、正しく設置された電源コンセントに接続してください。
- 電源コードは、電話ケーブル、および通信ケーブルには危険な電流が流れています。感電を防止するために、コンピューターまたは接続装置を設置または移動するとき、またはカバーを開ける際には、下記の手順でケーブルの接続および取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取り外しをしないでください。

⚠ 危険

充電式バッテリー・パックを分解、焼却、ショートさせないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に液晶ディスプレイを捨てないでください。液晶ディスプレイの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 危険

リチウム・バッテリー (IBM P/N 02K6502 UL- 認定済みコンポーネント—File No. MH12210) は、IBM 代理店または IBM 特約店でのみお求めになれます。これには、リチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄が原因で爆発する危険性があります。バッテリーを水に浸したり、**100°C**以上に熱したり、修理や分解をしないでください。バッテリーの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意

液晶ディスプレイ (LCD) 内の蛍光灯の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に LCD を捨てないでください。LCD の廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

LCD はガラス製なので、ThinkPad を乱暴に扱ったり落したりすると壊れることがあります。LCD が壊れて内部の液体が目に入ったり、手についたりした場合は、すぐに水で **15** 分以上洗ってください。その後、何らかの症状が現れた場合は、医師の診断を受けてください。

レーザーに関する承諾事項

IBM ThinkPad 600E に搭載されている CD-ROM または DVD ドライブには、レーザーが使用されています。次のようなドライブの分類ラベルがドライブの表面上部にはってあります。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1
LUOKAN 1 LASERLAITE
APPAREIL A LASER DE CLASSE 1
KLASS 1 LASER APPARAT

このドライブは EN60825 の要件に準拠していると認定されています。

危険

CD-ROM または **DVD** ドライブを分解しないでください。ドライブの内部にはお客さまによる調節や保守の必要な部品はありません。

本書で指定された内容以外のお客さまによる整備、調整、または手順を行った場合は、レーザーの放射および露出の危険があります。

Class 1 のレーザー製品は危険物と見なされていません。この CD-ROM または DVD-ROM ドライブには、760 ~ 810 ナノメートルの波長で作動する Class 1 の 0.5 ミリワットの aluminum gallium-arsenide レーザーが入っています。このレーザー・システムおよび CD-ROM または DVD ドライブでは、その設計上、通常の操作または保守条件が維持されている限り、Class 1 レベルを超えるレーザー放射は起こらないことを保証しています。

第1章 ご使用の ThinkPad について

本章では、ThinkPad の基本的な情報について説明します。

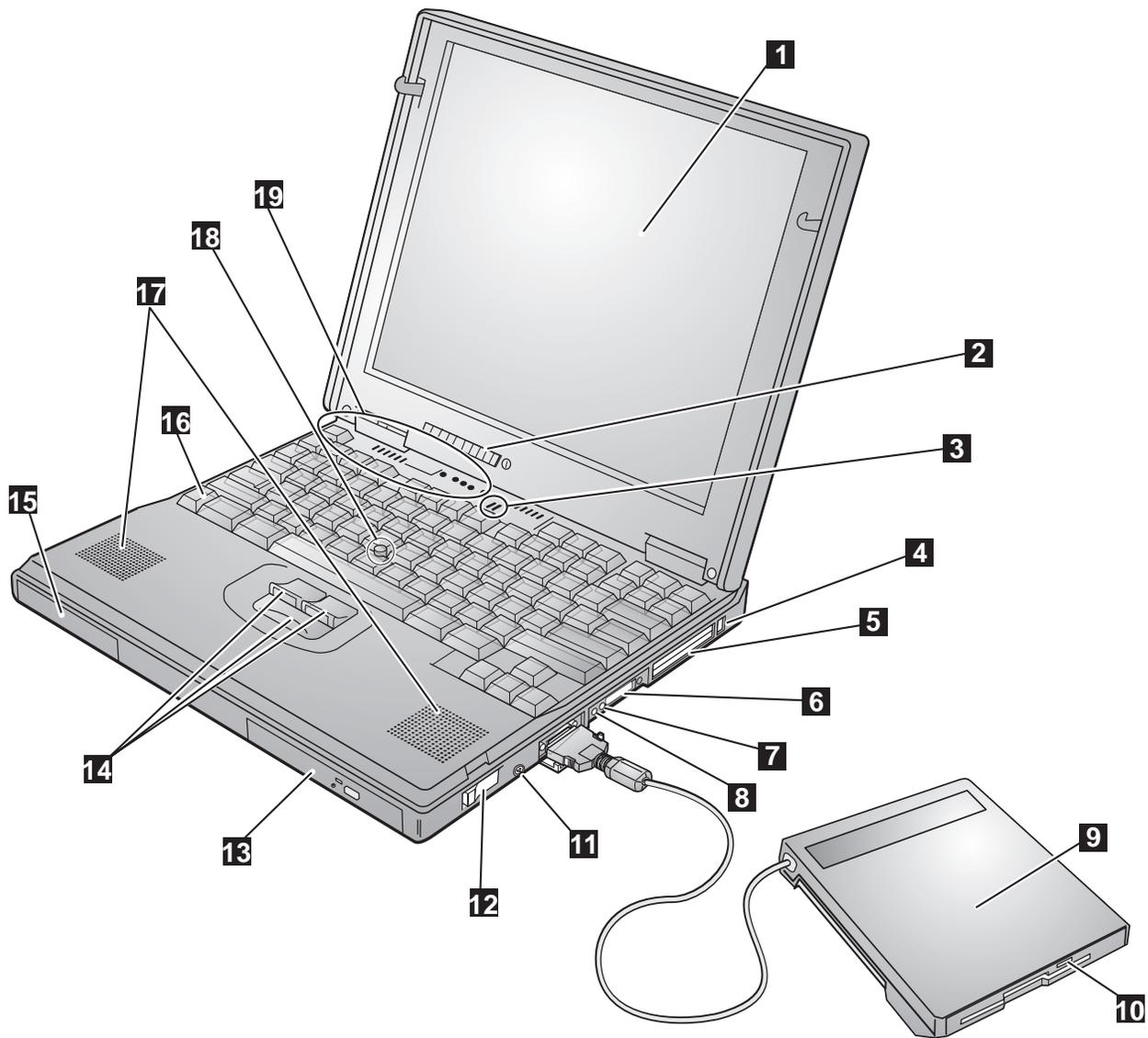
注

ThinkPad の電源をオフにした場合は、電源を再度オンにするのは、5 秒以上待ってからにします。また、ThinkPad をサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードにした場合も、5 秒以上待ってから通常の操作状態に戻してください。

各部の機能と名称	2
システム状況インジケータ	6
ThinkPad の機能	9
キーボードの機能	9
トラックポイント	9
Fn キー機能	12
数値キーパッド	15
ウルトラスリムベイ	16
ThinkPad ユーティリティ・プログラム	17
Easy-Setup	17
「ThinkPad 機能設定」プログラム	28
ソフトウェアの再設定	33
導入済みアプリケーション CD の使用	33
Product Recovery CD-ROM の使用	33
ディスクレット・ファクトリーの使用	33
ConfigSafe	34
最新のソフトウェアの入手先	34
バッテリー・パックの交換	35
サービス体制	37
記録用紙	37

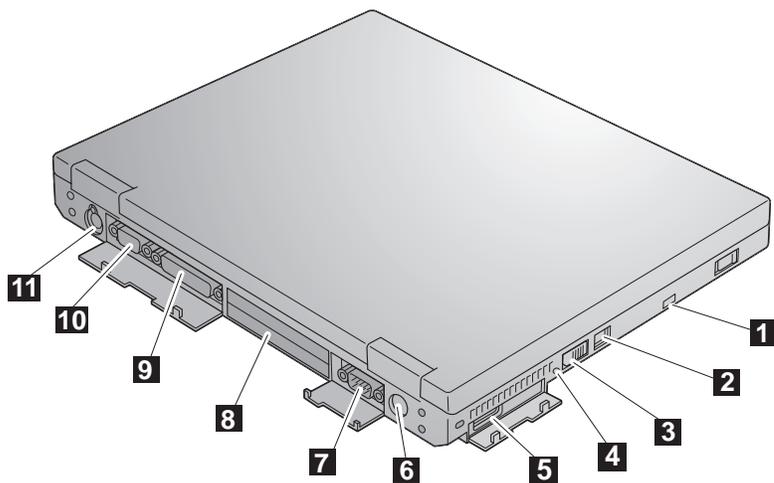
各部の機能と名称

正面図

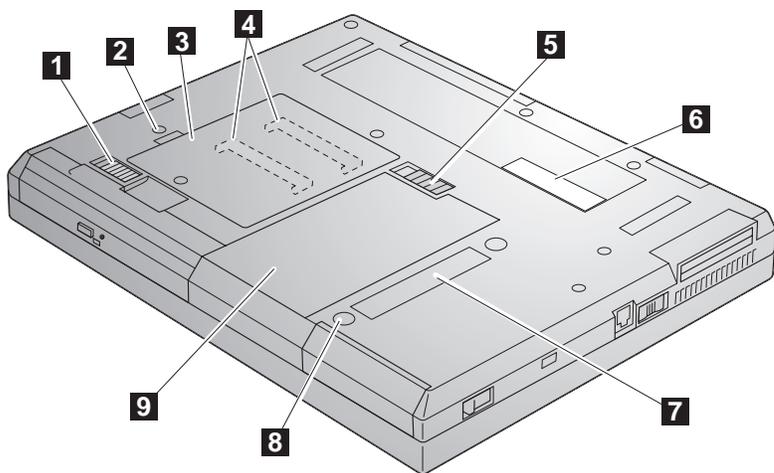


- 1** カラー液晶ディスプレイ (LCD) パネル。
ThinkPad の出力を表示します。
- 2** 輝度調節つまみ。ディスプレイの輝度を調節します。
- 3** 内蔵マイクロホン。オーディオ対応のアプリケーション・プログラムと共に使用することで、音声を ThinkPad に取り込めます。
- 4** PC カード・イジェクト・ボタン。PC カード・スロットから PC カードを取り出すときに押します。
- 5** PC カード・スロット。
PC カードを挿入します。
- 6** 赤外線ポート。赤外線通信機能をもつ他のデバイスと通信を行うことができます。
- 7** ヘッドホン・ジャック。直径 3.5 mm ($\frac{3}{8}$ インチ) のジャックで、ステレオのヘッドホンまたは外付けスピーカーを接続します。
- 8** マイクロホン/ライン入力ジャック。直径 3.5 mm ($\frac{3}{8}$ インチ) のジャックで、マイクロホンや外付けステレオ・オーディオ機器を接続します。
- 9** 外付けディスク・ドライブ取り付けキット。ウルトラスリムベイに別のデバイスを取り付けているときに、ディスク・ドライブを外付けで接続できません。
- 10** ディスク・イジェクト・ボタン。ディスク・ドライブからディスクを取り出すときに押します。
- 11** ビデオ出力コネクタ。
ThinkPad を TV や VTR に接続して、映像信号を送る場合に使用します。
- 12** LCD ラッチ。これを手前に引くと LCD が開きます。
- 13** ウルトラスリムベイ。
CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブなどのストレージ・デバイスを取り付けすることができます。
- 14** クリック・ボタン。トラックポイント **18** と一緒に使用することで、マウス・ボタンと同様の働きをします。
- 15** ハードディスク・ドライブ。ThinkPad に標準装備されているハードディスク・ドライブです。
- 16** Fn キー。ファンクション・キーと一緒に使用して、Fn キー機能を実行します。
- 17** 内蔵スピーカー。左右にあり、ステレオ・サウンドを生成します。
- 18** トラックポイント。組み込み式のポインティング・デバイスで、マウスと同様の働きをします。
- 19** システム状況インジケータ。対応する記号によってシステムの状況を示します。(➡ 6 ページ。)

背面図



底面図



ThinkPad の背面図

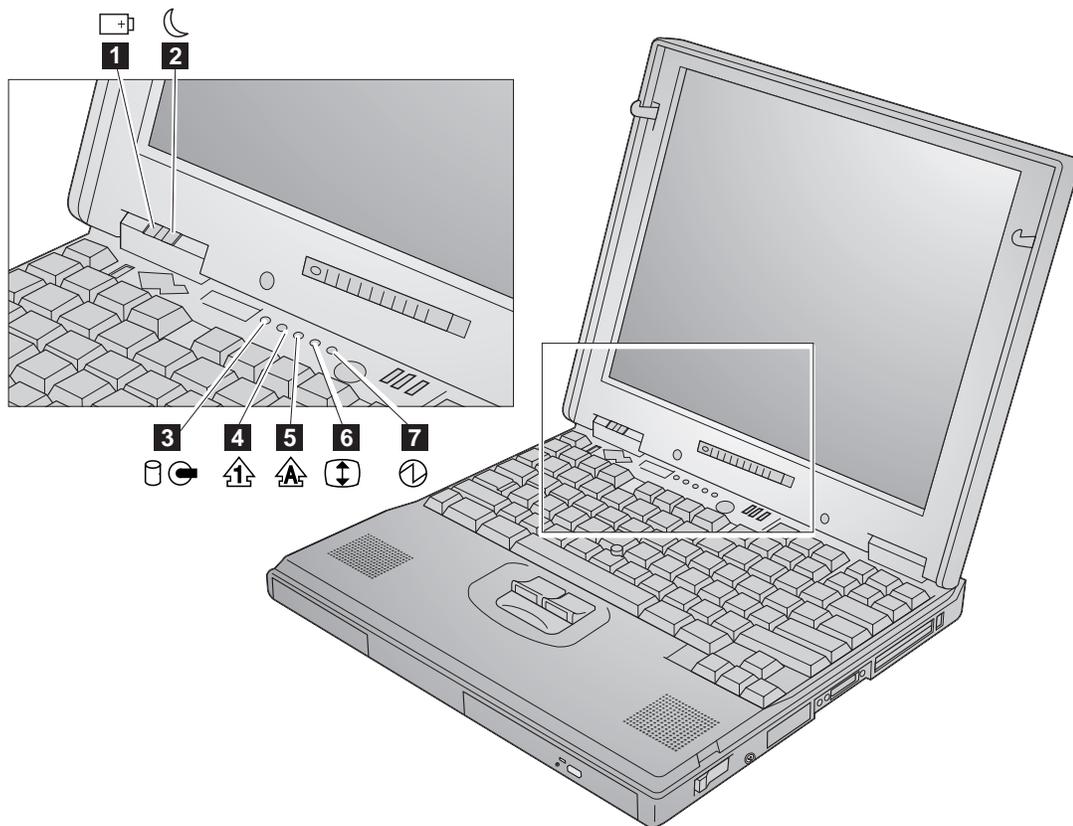
- 1 セキュリティー・キーホール。セキュリティー・システム・ロックをここに取り付けます。
- 2 モデム・コネクター。ThinkPad を電話回線に接続する場合に使用します。
- 3 電源スイッチ。ThinkPad の電源をオンまたはオフにします。
- 4 電源遮断スイッチ。アプリケーションが停止した場合や、ThinkPad が入力をまったく受け付けなくなった場合に、ThinkPad の電源をオフにするのに使用します。ボールペンなどの先でスイッチを押してください。
- 5 汎用シリアル・バス (USB) コネクター。USB インターフェースに対応するデバイスをここに接続できます。
- 6 電源ジャック。AC アダプターのケーブルをここに接続します。
- 7 シリアル・コネクター。シリアル・デバイス用の 9 ピンのケーブルをここに接続します。
- 8 システム拡張コネクター (240 ピン)。セレクトアベス 600 (ポート・リプリケーター機能) や拡張ユニットを接続することができません。
- 9 パラレル・コネクター。パラレル・プリンターの信号ケーブルをここに接続します。
- 10 外付けディスプレイ・コネクター。外付けディスプレイ (CRT) をここに接続します。
- 11 外付け入力装置コネクター。マウス、外付けキーボード、または数値キーパッドを ThinkPad に外付けで接続する場合に使用します。

ThinkPad の底面図

- 1 ウルトラスリムベイ・デバイス・ロック。ウルトラスリムベイに取り付けられたデバイス用のロックです。
- 2 ベイ用 LED。点灯している場合は、システムが使用中であることを意味します。ベイにあるデバイスを取り外さないでください。
- 3 メモリー・スロット・カバー。メモリー・スロットのカバーです。
- 4 メモリー・スロット。それぞれにオプションの SDRAM DIMM (Dual Inline Memory Module) を 1 枚ずつ取り付けることができます。
- 5 バッテリー・パック・ラッチ。バッテリー・パックのロックまたは解除を行います。
- 6 製造番号ラベル。ThinkPad を識別するラベルです。サービスを受ける場合に、この番号が必要になります。
- 7 ここにネーム・プレートを貼ります。
- 8 ハードディスク用ねじ。ハードディスクを取り外す場合は、このねじを緩めません。ThinkPad に付属のセキュリティーねじをハードディスク用ねじとして使用することもできます。
- 9 バッテリー・パック。ThinkPad 用の内蔵電池です。

システム状況インジケータ

ThinkPad のシステム状況インジケータは、点灯または色（緑およびオレンジ）によって ThinkPad の現在の状況を示すものです。各インジケータの役割は記号で表されます。次に、各記号の位置と意味を示します。



記号	インジケータ ーの色	意味
1 バッテリー残量 	緑	操作に十分なバッテリー残量があります。
	オレンジ点滅	バッテリー・パックを充電する必要があります。このインジケータがオレンジ色の点滅を始めると、ThinkPad でピープ音が 3 回鳴ります。
	オレンジ	バッテリー・パックを充電しています。
2 サスペンド・モード 	緑	ThinkPad がサスペンド・モードであることを示します。(ステップ・アップ・ガイドを参照してください。)
	緑点滅	ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードに移行中である、あるいはサスペンド・モードやハイバネーション・モードから通常の操作状態へ移行中であることを示します。
3 ドライブ使用中 	オレンジ	ハードディスクに対するデータの読み書き中、または DVD または CD-ROM ドライブからのデータの読み取り中であることを示します。このインジケータが点灯しているときは、ThinkPad をサスペンド・モードにしたり、ThinkPad の電源をオフにしたりしないでください。
4 ナム・ロック 	緑	このインジケータが点灯している場合は、キーボードの一部のキーを数値キーパッドとして使用できます。 Shift キーを押しながら NumLk キーを押して、数値キーパッド機能を使用可能または使用不可にできます。詳細については、15ページの『数値キーパッド』を参照してください。
5 キャップス・ロック 	緑	このインジケータが点灯している場合は、Caps Lock (キャップス・ロック) モードで入力できます。このモードでは、 Shift キーを押さなくても、アルファベット (A ~ Z) はすべて大文字で入力されます。 Shift キーを押しながら Caps Lock キーを押すことによって、キャップス・ロック・モードを使用可能または使用不可にできます。

記号	インジケータ ーの色	意味
6 スクロール・ロック 	緑	<p>このインジケータが点灯している場合は、スクロール・ロック・モードが使用できます。</p> <p>矢印キー (、、、) が画面スクロール機能キーとして機能します。この状態では、矢印キーでマウス・ポインターを移動させることはできません。</p> <p>アプリケーション・プログラムによっては、この機能をサポートしません。 ScrLk キーを押すことによって、スクロール・ロック・モードを使用可または使用不可にすることができます。</p>
7 電源 	緑	<p>ThinkPad が使用できる状態であることを示します。</p> <p>ThinkPad の電源がオンで、サスペンド・モードに入っていないときに点灯します。</p>

ThinkPad の機能

ここでは、次の機能について説明します。

- キーボードの機能
- ウルトラスリムベイ
- ThinkPad ユーティリティ

キーボードの機能

ThinkPad のキーボードには、次の機能が付いています。

- トラックポイント
- **Fn** キー
- 数値キーパッド

トラックポイント

キーボードには、トラックポイントという特殊なポインティング・デバイスが組み込まれています。これを使うと、ポインティング、選択、ドラッグなどの操作を、通常のタイプ位置から指を離さずに一連の手順の中で行うことができます。

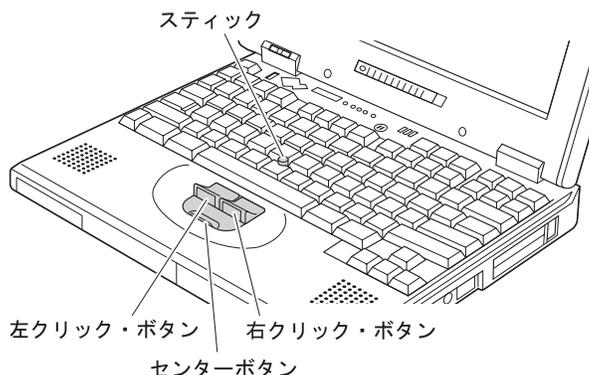


トラックポイントをカスタマイズすることによって、次の機能をカスタマイズできます。

- プレス・セレクト
- 感度
- スクロールまたは拡大表示

詳細情報 → 40ページの『トラックポイントの設定』

トラックポイントは、キーボード上のスティックとキーボード手前の 3 つのクリック・ボタンとで構成されています。画面上のマウス・ポインターの動きは、スティックの先についてるキャップを押す指の圧力の強さによってコントロールできます。圧力は、キーボード面に対して平行に前後左右に加えます。スティック自体は *動きません*。マウス・ポインターの移動速度は、スティックに加えられる圧力の強さによって決まります。左および右クリック・ボタンの機能は、通常のマウスの左および右ボタンの機能に対応し、使用するソフトウェアによって異なります。センターボタンの機能については、43 ページで説明します。



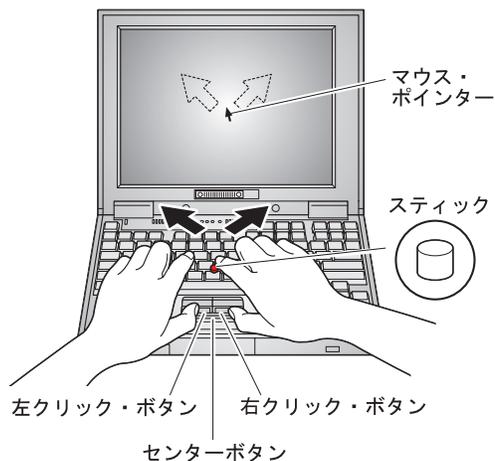
トラックポイントをはじめてお使いになる場合は、まず最初に次の説明をお読みください。

- 1 両手をタイプ位置に置き、マウス・ポインターを移動させたい方向に、人差し指でスティックをゆっくりと押します。

スティックを LCD 方向に押すと、マウス・ポインターが画面の上方向に移動します。スティックを手前に押すと、マウス・ポインターが画面の下方向に移動します。また、スティックを左右の方向に押すと、マウス・ポインターが左右の方向に移動します。



マウス・ポインターがドリフト (浮動) する場合があります。これは、故障ではありません。ただし、トラックポイントを使用するのは、マウス・ポインターの動きが止まってからにします。



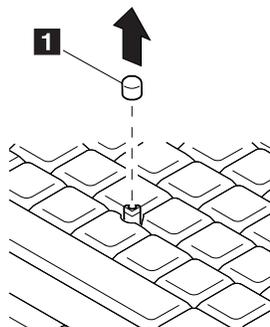
2 使用しているソフトウェアの指示に応じて、両手の親指で左右のクリック・ボタンを押して、選択およびドラッグ操作を行います。

プレス・セレクトを使用可能にすると、トラックポイントのスティックを、左クリック・ボタンまたは右クリック・ボタンと同じように機能させることができます。詳細情報 → 40ページの『トラックポイントの設定』



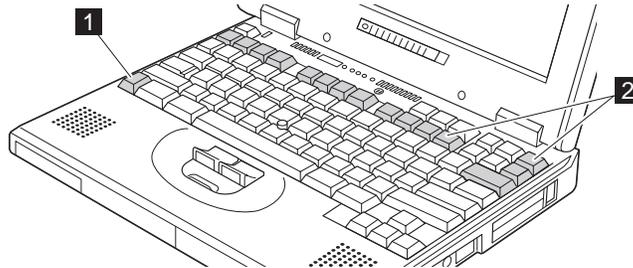
キャップの交換

トラックポイントのスティックの先に付いているキャップ **1** は着脱式です。必要に応じて、付属の予備キャップと交換できます。また、付属品を使い切ってしまった場合は、オプションでもご購入いただけます。



Fn キー機能

Fnキー機能は、特定の操作を瞬時に実行する便利な機能です。次の表で示す機能を使用するときは、**Fn** キー **1** を押しながら、対応するファンクション・キー **2** (**F1** ~ **F12**、**PgUp**、**PgDn**、または **BackSpace**) を押します。



Fn キー・ロック機能

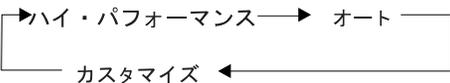
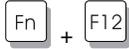
Fn キーを 1 回押すだけで **Fn** キーを押し続けたときと同じ状態になるように、ThinkPad を設定できます。

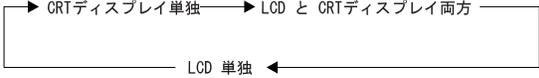
「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し(→ 28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』)「ユーザー補助」() アイコンをクリックしてから、「Fn キー・ロック」に対して「使用する」を選択します。また、コマンド・プロンプトで PS2 FNS E と入力しても同じように設定できます。

Fn キー・ロック機能を使用可能にしたあとで、**Fn** キーを 1 度だけ押してから、いずれかのファンクション・キーを押してください。ThinkPad は、**Fn** キー + ファンクション・キーが押されたときと同じように動作します。

Fn キー・ロック機能を使用可能にしたあとで **Fn** キーを 2 回押すと、それ以降はファンクション・キーを単独で押しても、**Fn** +ファンクション・キーとして認識されます。これを止めるには、もう一度 **Fn** キーを押す必要があります。

次の表で、**Fn** キーと組み合わせが可能なキーの機能を示します。

機能とアイコン	キーの組み合わせ	意味
省電力機能		
バッテリー・メーター・プログラム表示のオン/オフ 	 (OS/2 または Windows のユーザーのみ)	このキーの組み合わせを使用すると、バッテリーの残量を示すウィンドウが表示されます (または消えます)。 バッテリー残量のパラメーターをウィンドウで設定できます。 注: このキーの組み合わせを使用するには、事前にバッテリー・メーター・プログラムを始動しておく必要があります。 バッテリー・メーター・プログラムを始動する手順は、次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを、「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「バッテリー・メーター」をクリックします。
パワー・モードの切り替え 		パワー・モードは次のように変化します。 
バッテリー使用時の省電力機能		
スタンバイ・モード 		ThinkPad はスタンバイ・モードになります。このモードに関する詳細 ➡ ステップ・アップ・ガイド
サスペンド・モード 		ThinkPad はサスペンド・モードになります。このモードに関する詳細 ➡ ステップ・アップ・ガイド
ハイバネーション・モード 		ThinkPad はハイバネーション・モードになります。このモードに関する詳細 ➡ ステップ・アップ・ガイド

機能とアイコン	キーの組み合わせ	意味
その他の機能		
LCD と外付けディスプレイの切り替え 	 + 	外付けディスプレイ (CRT) が接続されている場合は、ThinkPad の出力は次の順序で表示されます。  注: TV がマルチモニタ機能のセカンダリ モニタであるか、同時ディスプレイとして使用されている場合は、これらのキーによる切り替えはサポートされません。
スクリーン・エクスパンション 	 + 	LCD のイメージのサイズが、実際の LCD のサイズよりも小さい場合に、LCD の画面イメージ・サイズが拡大モードと通常モードとで切り替わります。
音量アップ 	 + 	音量が上がります。
音量ダウン 	 + 	音量が下がります。
ミュート 	 + 	音声がおフになります。 注: <ul style="list-style-type: none"> ThinkPad の電源をいったんオフにし、電源を再度オンにしても、この機能は使用不可になりません。 音声をオンにするには、 +  または  +  を押します。

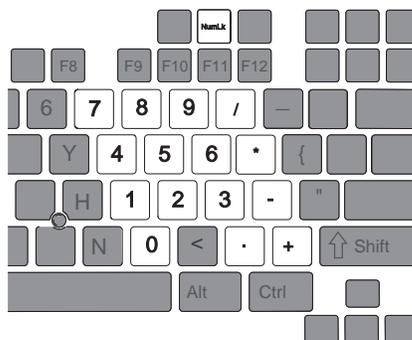


ThinkPad がサスペンド・モードのときに、ファンクション・キーを押さずに  キーを単独で押した場合は、ThinkPad は通常の操作状態に戻ります。

数値キーパッド

ThinkPadのキーボードの一部は、数値キーパッドのテン・キーのように使用することができます(ただし、外付けキーボードまたは数値キーパッドが接続されているときは、キーボード上のこの数値キーパッド機能は使用できません)。

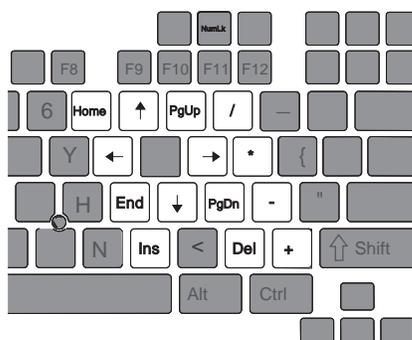
数値キーパッドとして使用するには、**Shift** キーを押しながら **NumLk** キーを押して、ナム・ロック機能をオンにしてください。



この状態で、数値キーパッドとして使用しているときに、**Shift** キーを押しながら数値キーパッドの各キーを押すと、一時的にマウス・ポインター制御キーや画面制御キーとして使用することができます。



マウス・ポインター制御キーおよび画面制御キーの機能は、キーには印刷されていません。



ウルトラスリムベイ

ThinkPad 600E には、ウルトラスリムベイ が装備されています。



ウルトラスリムベイ

ウルトラスリムベイには、次のデバイスのいずれかを取り付けることができます。

- ウェイト・セーバー・ベゼル
- ディスケット・ドライブ
- DVD ドライブ
- CD-ROM ドライブ
- LS-120 ドライブ
- セカンド・ハードディスク・ドライブ・アダプター
- セカンド・バッテリー

これらのデバイスの詳細については、それぞれのデバイスに付属の資料を参照してください。

ウルトラスリムベイ・デバイスの交換 ➡ 88ページの『ウルトラスリムベイ・デバイスの交換』。

ディスク・ドライブの外付け接続 ➡ 55ページの『ディスク・ドライブの外付け接続』。

ThinkPad ユーティリティ・プログラム

ThinkPad には、次のユーティリティが用意されており、簡単に構成できるようになっています。

- Easy-Setup
- 「ThinkPad 機能設定」プログラム

ここでは、これらのユーティリティ・プログラムの概要について説明します。

Easy-Setup

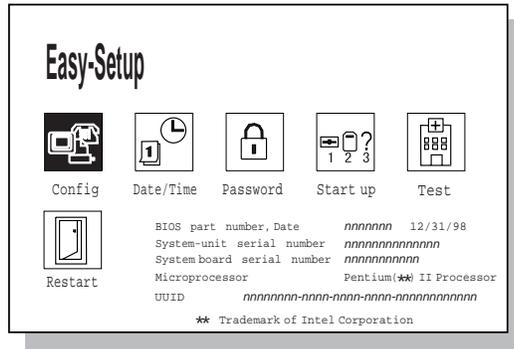
ThinkPad には、各種のセットアップ・パラメーターを選択するための *Easy-Setup* と呼ばれるプログラムが内蔵されています。

- 「**Config**」：ご使用の ThinkPad の構成を設定します。
- 「**Date/Time**」：日付と時刻を設定します。
- 「**Password**」：パスワードを設定します。
- 「**Start up**」：始動デバイスの優先順位を設定します。
- 「**Test**」：システムをテストします。
- 「**Restart**」：システムを再始動します。

Easy-Setup を始動する手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、ディスク・ドライブにディスクが入っている場合はそれを取り出します。
- 2** **[F1]** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで、**[F1]** キーを押し続けます。

パスワードが設定してある場合は、「Easy-Setup」メニューが表示されるのは、パスワードを入力してからになります。



3 トラックポイントを使って選択したいアイコンをクリックするか、矢印キーを使って選択したいアイコンを反転させ **Enter** キーを押します。

サブメニューが表示されます。

4 変更したい項目を変更します。

5 サブメニューを終了するには、「Exit」または「OK」をクリックするか **Esc** キーを押します。

6 「Easy-Setup」メニューを終了するには、「Restart」アイコンをクリックするか、「Restart」アイコンを反転させて **Enter** キーを押します。

ThinkPad が再起動します。



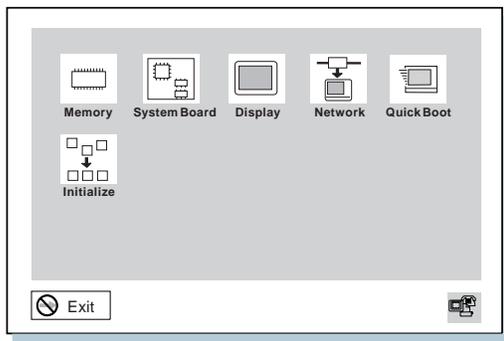
画面の配色の変更

「Easy-Setup」メニュー画面の配色を変更するには、**Ctrl** + **Pgup** キーまたは **Ctrl** + **PgDn** キーの組み合わせを使用します。

元の配色に戻すには、**Ctrl** + **Home** キーを押してください。



「**Config**」アイコンをクリックすると、次のような「Config」サブメニューが表示されます。



「**Memory**」アイコンによって、取り付けられているメモリーのサイズと使用できるメモリー容量が表示されます。



「**System Board**」アイコンによって、取り付けられているシステム・ボードについての情報が表示されます。



「**Display**」アイコンによって、画面の出力先を「**Single**」(1つのディスプレイ)にするか、「**Multiple**」(複数のディスプレイ)にするかを設定します。



「**Network**」アイコンを使用すると、Wake-on-LAN 機能 (オプション) または Flash-over-LAN 機能 (オプション) を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。これらの機能が使用できるのは、拡張ユニットを接続している場合だけです。



「**Quick Boot**」アイコンによって、シンプル・ブート・フラグ機能を 使用可能または使用不可にします。



シンプル・ブート・フラグ機能

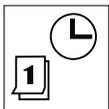
この機能では、BIOS およびオペレーティング・システムの動作とブート・パフォーマンスを、インストールされているオペレーティング・システムと以前のブートに基づいて自動的に最適化します。

この機能が使用可能になっている場合は、プラグ・アンド・プレイ対応可能なオペレーティング・システム (たとえば、Windows 98 など) がインストールされると、システム割り込み、メモリー・ウィンドウ、およびシステム内のすべての装置に関する入出力ポート範囲などといった、ハードウェア・リソースをシステム BIOS が構成することはありません。

プラグ・アンド・プレイ対応でないオペレーティング・システムを使用する場合は、この機能を使用不可にして、**BIOS** がハードウェア・リソースを構成するようにします。

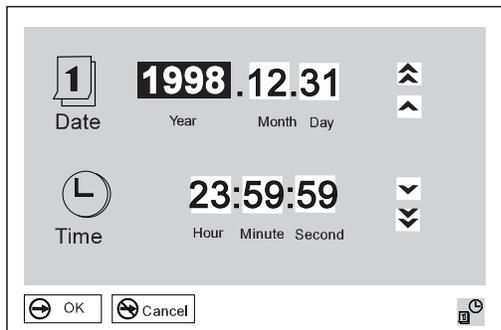


「**Initialize**」アイコンによって、デバイスの設定をすべて初期値に戻します。



Date/Time

「**Date/Time**」アイコンをクリックすると、次のような「Date and Time」サブメニューが表示されます。これは、現在の日付と時刻を設定するときに使用します。



日付と時刻を変更する手順は、次のとおりです。

- 1 カーソルを変更したいフィールド (年、月、日、時、分または秒) に移動し、日付や時刻を入力します。



入力する代わりに、マウス・ポインターを矢印アイコン(▲、▲、▼、または ▼)のどれかに合わせて日付や時刻を調節することもできます。
二重矢印アイコンをクリックすると、数字をさらに速くスクロールできます。

- 2 変更内容を保管するには「OK」をクリックし、それらを取り消す場合は「Cancel」をクリックします。



現在の日付と時刻の設定は、ThinkPad にインストールされているオペレーティング・システムの機能を使用して行うこともできます。



Password

「Password」アイコンをクリックすると、次のような「Password」サブメニューが表示されるので、これを使用してパスワードを設定することができます。



このアイコンを選択すると、始動 (**Power-On**) パスワードを設定するサブメニューが表示されます。



このアイコンを選択すると、ハードディスク・ドライブ (**HDD**) パスワードを設定するメニューが表示されます。

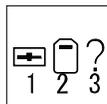


このアイコンを選択すると、スーパーバイザー (**Supervisor**) パスワードを設定するサブメニューが表示されます。

パスワードに関する詳細 → 92ページの『パスワードの使用』



かぎのアイコンのロックが開いたままの場合は、パスワードがまだ設定されていないことを示しています。



Start up

「**Start up**」アイコンをクリックすると、「**Start up**」サブメニューが表示されます。このサブメニューを使って、始動または起動に使用するデバイスの優先順位を変更できます。

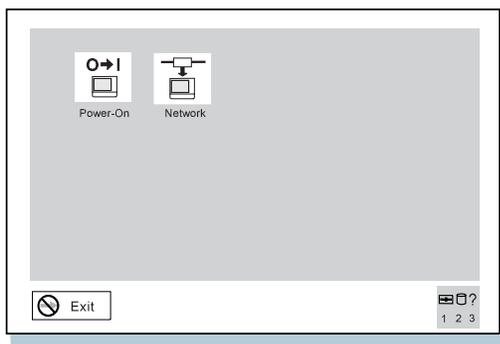
たとえば、着脱式ハードディスク・ドライブや PC カードなど複数のデバイスにオペレーティング・システムがインストールされている場合は、それらのデバイスのどれかからシステムを始動することができます。

始動優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

- 1 「Easy-Setup」メニューで「**Start up**」アイコンをクリックします。「**Start up**」サブメニューが表示されます。

重要

始動優先順位を変更した後は、ドライブ名の割り当てが変わることがありますので、コピー、保管、フォーマット操作などで誤ったデバイスを指定しないよう、細心の注意が必要です。デバイスを誤って指定すると、データやプログラムが消されたり、上書きされたりすることがあります。



注:



電源スイッチでオンにするときは、「**Power-On**」アイコンで始動優先順位を設定します。

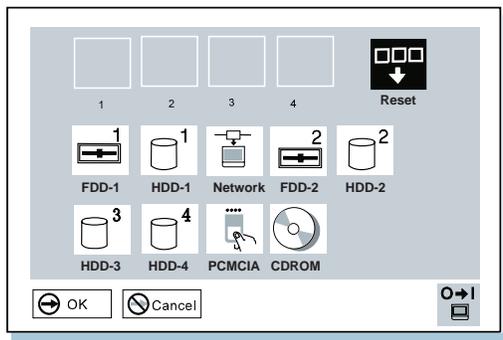


Wake on LAN を始動するときは、「**Network**」アイコンで始動優先順位を設定します。Wake on LAN は、通常、LAN 管理者が組織内ネットワークの中で ThinkPad にリモート・アクセスする場合に使用します。この機能が使用できるのは、拡張ユニット (オプション) を接続している場合だけです。

- 2 「**Power-On**」または「**Network**」をクリックします。

これらのオプションに関する説明については、24ページの『「Power-On」サブメニュー』および27ページの『「Network」サブメニュー』を参照してください。

- 3** カーソルを「Reset」アイコンに移動して、クリックするか **スペース** キーを押します。
- 4** 始動優先順位を1番にするデバイスを選択してから、そのアイコンをクリックするか **スペース** キーを押します。
デバイスを4つまで設定することができます。
- 5** 「OK」をクリックするか、**Enter** キーを押して、変更内容を保管します。



「FDD-1」アイコンは、ウルトラスリムベイ 内のディスク・ドライブを表します。ウルトラスリムベイ 内にディスク・ドライブがなく、拡張ユニットにディスク・ドライブが付いている場合は、そのディスク・ドライブが「FDD-1」となります。ディスク・ドライブをもう 1 台取り付けている場合は、そのドライブは「FDD-2」となります。

次の表に、FDD-1 と FDD-2 に対応するディスク・ドライブを示します。

表 1 (1/2). サポートされるディスク・ドライブの組み合わせ			
ケース	ウルトラスリムベイ のディスク・ ドライブ	拡張ユニット内のディ スクレット・ドライブ	外付けディスク・ ドライブ
ケース 1	FDD-1	なし	なし
ケース 2	なし	なし	FDD-1
ケース 3	なし	FDD-1	なし
ケース 4	FDD-1	なし	FDD-2

表 1 (2/2). サポートされるディスク・ドライブの組み合わせ			
ケース	ウルトラスリムベイ のディスク・ ドライブ	拡張ユニット内のディ スケット・ドライブ	外付けディスク・ ドライブ
ケース 5	FDD-1	FDD-2	なし
注: ThinkPad にセクタベース 600 (ポートリプリケータ機能)を接続し、外付けディスク・ドライブを接続したときに使用するポートは、拡張ユニット内のディスク・ドライブが使用するポートと同じです。したがって、両方にディスク・ドライブを接続して使用することはできません。ウルトラスリムベイ 内のディスク・ドライブは、常に使用可能なので、一度に接続可能なディスク数は 2 つになります。			

「**HDD-1**」～「**HDD-4**」アイコンは、次の優先順位でそれぞれのハードディスク・ドライブに割り当てられます。

1. 1 次ハードディスク・ドライブ (ThinkPad のハードディスク・ベイ内に装備されています)
2. ウルトラスリムベイ 内のハードディスク・ドライブ
3. 拡張ユニットのウルトラスリムベイ トレイ内のハードディスク・ドライブ
4. 拡張ユニットのデバイス・ベイのハードディスク・ドライブ
5. SCSI コネクタで ThinkPad に接続されたハードディスク・ドライブ

たとえば、ThinkPad のウルトラスリムベイ にはハードディスク・ドライブがないが、拡張ユニットにハードディスク・ドライブが付いている場合は、そのハードディスク・ドライブが「**HDD-2**」になります。

トークンリング・カードまたはその他のネットワーク・カードを使用して、リモート・プログラム・ロード (**RPL**) システムを行っている場合は、次の手順に従ってください。

1. 「**Network**」を選択して、クリックします。「Speed」メニューが表示されず。
2. トークンリング・カードを使用している場合は、使用するネットワークの速度 (「4」または「16」) を選択し、クリックしてから、**Enter** キーを押します。

トークンリング・カード以外のネットワーク・カードを使用している場合は、ネットワーク速度を指定する必要はありません。**Esc** キーを押して、このメニューを終了してください。

たとえば、PC カード型 HDD またはフラッシュ・メモリー・カードを表す「**PCMCIA**」を選択し、システムを始動することができなかった場合は、セカンダリー IDE デバイスのどれかを使用不可にしてから、システムを再始動します。カードによっては、システム上の IDE デバイスと機能が入れ換るために CD-ROM ドライブや DVD ドライブが使用できなくなる場合があります。

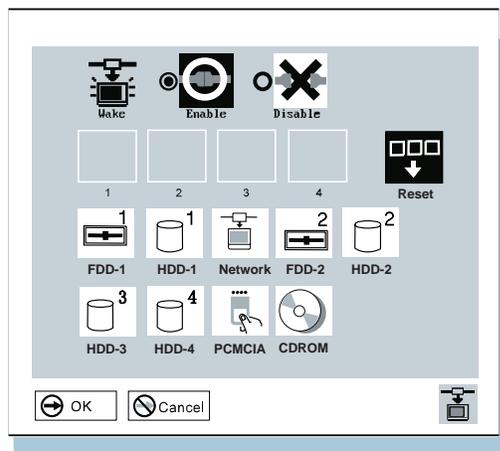
「**CDROM**」アイコンは、ウルTRASリムベイ 内の CD-ROM ドライブに割り当てられます。ウルTRASリムベイ 内には CD-ROM ドライブがないが、拡張ユニットに CD-ROM ドライブが付いている場合は、その CD-ROM ドライブが「**CDROM**」になります。CD-ROM ドライブがウルTRASリムベイ と拡張ユニットの両方に付いている場合は、ウルTRASリムベイ 内の CD-ROM ドライブが「**CDROM**」になります。

「Network」サブメニュー



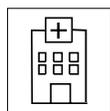
この機能が使用できるのは、拡張ユニット (オプション) を接続している場合だけです。

「**Network**」サブメニューでは、Wake-on-LAN 機能を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。



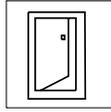
Wake on LAN が使用可能になっている場合は、ネットワーク管理者は、リモート・ネットワーク管理ソフトウェアを使用して、LAN 内に接続されているリモート・マシンの電源をオンにすることができます。使用している ThinkPad がネットワーク管理者のシステム管理のもとにない場合は、この機能を使用不可にしてください。

詳細情報 → [ステップ・アップ・ガイド](#)



Test

「**Test**」アイコンをクリックすると、「Test」サブメニューが表示されます。これは、ThinkPad のハードウェア・エラーを検査する診断テストを実行するときに使用します。詳細情報 → [157ページの『ThinkPad のテスト』](#)



Restart

「Restart」アイコンをクリックすると、Easy-Setup プログラムを終了し、ThinkPad を再起動します。

「ThinkPad 機能設定」プログラム

重要

「ThinkPad 機能設定」プログラムの具体的な詳細を情報を見たい場合は、「ヘルプ」ボタンをクリックします。

「ThinkPad 機能設定」プログラムを使うと、ThinkPad の内蔵デバイスを必要に応じてセットアップしたり、カスタマイズすることができます。たとえば、ポートを使用可能または使用不可にしたり、表示先を ThinkPad の LCD と外付けディスプレイとで切り替えたり、省電力機能を設定したりすることができます。

ここでは、「ThinkPad 機能設定」プログラムの始動方法について説明します。



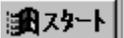
Windows 98 の場合:

Windows 98 で「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」ボタン () をクリックします。
2. マウス・ポインターを「設定」に移動します。次に「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロール パネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「ThinkPad 機能設定」アイコンをダブルクリックします。



また、次のうちいずれかの手順に従って、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動することもできます。

- 「スタート」 () ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。
- タスクバー **1** の右側に「ThinkPad」アイコンが表示されていることを確認して、そのアイコンをダブルクリックします。



次のウィンドウが表示されます。



- 1** 「ディスプレイ・デバイス」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、表示出力先を LCD 単独、CRT ディスプレイ単独、または LCD と CRT ディスプレイ両方のどれかに設定します。
- 2** 「電源設定」ボタン。電源設定を変更します。
- 3** 「デバイス・マネージャを開く」ボタン。「システム・プロパティ」ウィンドウを表示します。このウィンドウでデバイスを使用可能または使用不可にできます。
- 4** 「システム・リソース一覧表示」ボタン。「システム・リソース一覧」ウィンドウが表示されるので、メモリー・アドレスとその割り当ての設定を確認することができます。
- 5** 「ヘルプ」ボタン。オンライン・ヘルプを表示します。
- 6** 「デバイス」ボタン。ウィンドウから各デバイス用のボタンをクリックします。デバイスが使用可能な場合は、ボタンの横の赤いインジケーターがオンになります。このインジケーターが点灯しているときは、そのデバイスは使用できません。

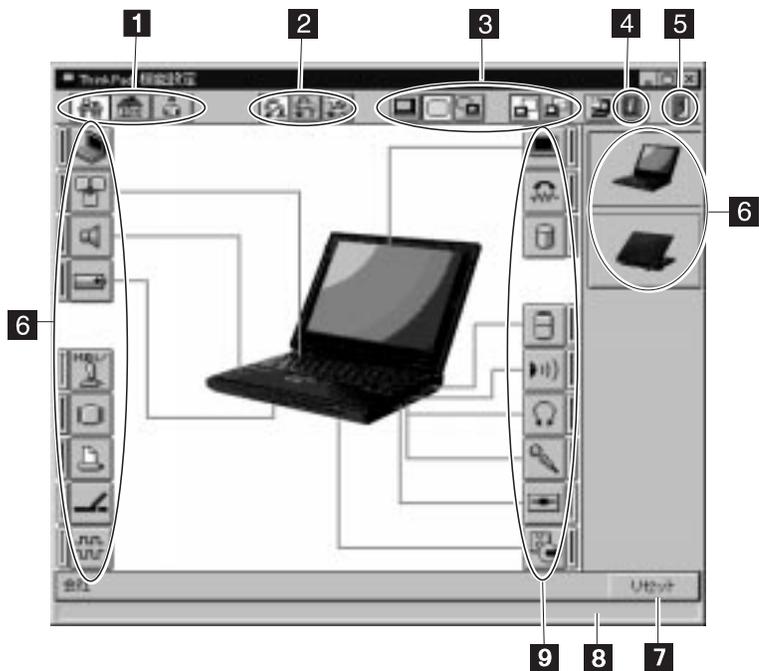


Windows NT の場合:

Windows NT で「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動する手順は、次のとおりです。

- 1 画面の下隅にある「スタート」ボタンをクリックします。
- 2 マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- 1 「ワンタッチ設定」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、システム構成を設定します。
- 2 「パワー・モード」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、パワー・モードを「ハイ・パフォーマンス・モード」、「オート・モード」、または「カスタマイズ・モード」のどれかに設定します。

- 3** 「ディスプレイ・デバイス」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、表示出力先を LCD、外付けディスプレイ、または LCD + 外付けディスプレイのどれかに設定します。プレゼンテーションを行う場合は、「プレゼンテーション」ボタンをクリックして、ディスプレイ・タイマーや省電力モード・タイマーなどのシステム・タイマーを使用不可にし、プレゼンテーション中に画面が消えることのないように設定できます。
- 4** 「ヘルプ」。オンライン・ヘルプを表示します。
- 5** 「終了」ボタン。このボタンをクリックすると、変更を保管して、「ThinkPad 機能設定」が終了します。
- 6** 「描写方向」ボタン。「前面表示」ボタンまたは「背面表示」ボタンをクリックすると、ハードウェアの位置が表示されます。
- 7** 「リセット」ボタン。このボタンをクリックすると、各オプションに対して初期値を設定し、変更した値を取り消します。
- 8** 「ステータス」バー。各デバイス・ボタンにマウス・ポインターを合わせると、ボタンが示すデバイスの名前と状態がこのステータス・バーに表示されます。
- 9** 「デバイス」ボタン。ウィンドウから各デバイス用のボタンをクリックします。次に、表示されるウィンドウからそのデバイスのオプションを設定します。デバイスが使用可能な場合は、ボタンの横の赤いインジケーターがオンになります。このインジケーターがオフのときは、そのデバイスは使用できません。

画面の右上隅にある最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウの上部のみが表示されます。

ソフトウェアの再設定

オペレーティング・システムやサポート・ソフトウェアを再インストールしたり、ソフトウェアの不具合に対処したりするために、ThinkPad には次の機能があります。

- 導入済みアプリケーション CD
- Product Recovery CD-ROM
- 「ディスクット・ファクトリー」プログラム
- ConfigSafe
- 最近のソフトウェアの提供

導入済みアプリケーション CD の使用

この CD-ROM は、おもに初期インストール済みの ThinkPad 用サポート・ソフトウェアおよびデバイス・ドライバーを再インストールする場合に使用します。また、Windows NT など他のオペレーティング・システムを使用する場合のサポート・ソフトウェアおよびデバイス・ドライバーも含まれています。

Product Recovery CD-ROM の使用

誤ってハードディスクの内容を削除または損傷してしまった場合は、Product Recovery CD-ROM (以下、リカバリー CD) を使って、初期インストールされているハードディスクの内容を購入時の状態に回復 (リカバリー) することができます。

詳細情報 → *ステップ・アップ・ガイド*。

ディスクット・ファクトリーの使用

「ディスクット・ファクトリー」プログラムには、ThinkPad 用のいくつかのサポート・ソフトウェアが入っています。このプログラムを使用して、いくつかのサポート・ソフトウェアを作成することができます。

Windows 3.1、OS/2、および DOS 用のデバイス・ドライバー →
<http://www.ibm.co.jp/pc/home/download.html>

新しいオペレーティング・システム (Windows NT など) やデバイス・ドライバーのインストールに関する詳細情報 → *ステップ・アップ・ガイド*。

ConfigSafe

ConfigSafe とは、Windows 98、Windows 95、または Windows NT 用のアプリケーションの 1 つです。これは、システム設定情報を定期的に一時保存するものです。たとえば、新しいデバイス・ドライバやソフトウェアのインストール後に ThinkPad が正しく作動しなくなったときに、ConfigSafe を使用すると、インストール前のシステム設定情報のバージョンが復元されます。この状態で ThinkPad を設定し、もう一度起動させることが可能です。

最新のソフトウェアの入手先

IBM では次のインターネット Web ページやパソコン通信で、最新のハードウェア・デバイス・ドライバおよびシステム BIOS を提供しています。

<http://www.ibm.co.jp/pc/home/download.html>

最新のソフトウェアの入手方法 ➡ ステップ・アップ・ガイド。

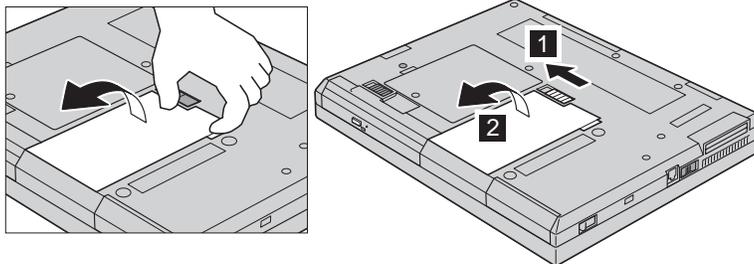
バッテリー・パックの交換

バッテリー・パックを交換する手順は、次のとおりです。

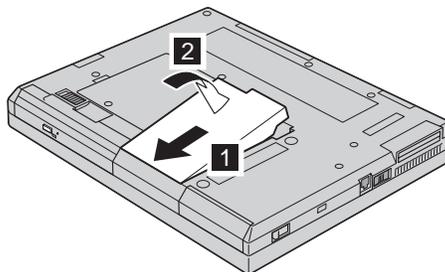


バッテリー・パックは、ThinkPad の電源がオフになっているかハイバネーション・モードに入っているときに交換できます(ThinkPad がサスペンド・モードのときは交換できません)。ただし、PC カードを使っている場合は、ThinkPad がハイバネーション・モードにならない場合があります。その場合は、ThinkPad の電源をオフにしてください。

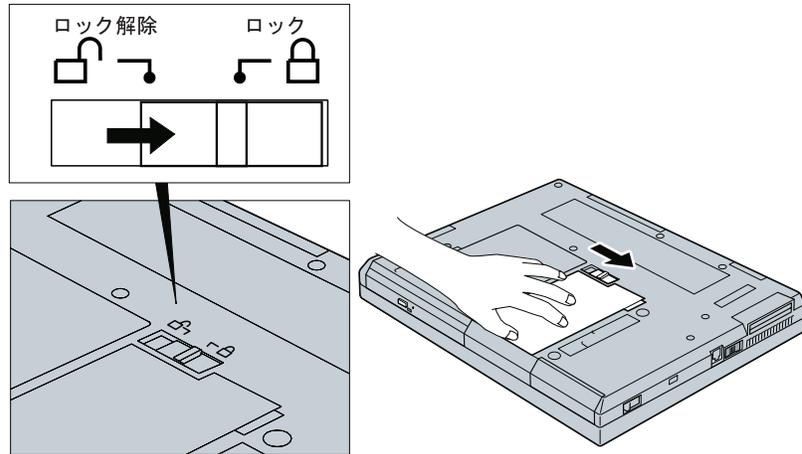
- 1 ThinkPad の電源をオフにするか、ハイバネーション・モードに入ります。
- 2 AC アダプターやその他のケーブル類を取り外します。
- 3 LCD を閉じ、ThinkPad を裏返します。
- 4 バッテリー・パック・ラッチをスライドさせてロック解除の位置にし **1**、バッテリー・パックを取り外します **2**。



- 5 フル充電した予備のバッテリー・パックの前の部分を ThinkPad のバッテリー・スペースの前の部分に合わせ **1**、バッテリー・パックを正しい位置に入れます **2**。



- 6** バッテリー・パックの後ろの部分轻轻一押ししてバッテリー・スペースに入れ、
バッテリー・パック・ラッチをロック位置にスライドします。



これで、バッテリー・パックの交換が完了しました。

サービス体制

記録用紙

オプション・リスト

ご使用の ThinkPad の機能に該当する項目を次のリストに記載してください。デバイスが 2 つ以上ある場合は、それぞれについて記入してください。たとえば、DIMM が 2 枚ある場合は、「DIMM」のチェックボックスにチェック・マークをつけて、「128 MB x 2」と記入します。

DIMM _____MB

PC カード

ハードディスク・ドライブ _____MB

外付けディスク・ドライブ

バッテリー・パック

DVD/CD-ROM ドライブ

ID 番号

製造番号のラベルは、ThinkPad 本体の底面にあります。下の枠内に機種および製造番号 (**S/N**) を記入してください。

IBM 製品名	ThinkPad 600E
機種	2645- _____
製造番号	_____

ThinkPad の製造番号の調べ方 → 4ページ参照。

問題記録用紙

- ThinkPad の情報:

機種: _____

製造番号: _____

購入日: __/__/__

- 問題のタイプ:

継続する問題 一時的な問題

- エラー・コード:

- オペレーティング・システムとバージョン番号 (ご存じの場合):

Windows 98 バージョン _____

Windows 3.1 バージョン _____

Windows 95 バージョン _____

OS/2 バージョン _____

Windows NT バージョン _____

DOS バージョン _____

- 問題発生時に実行していたアプリケーション・プログラム:

- 問題の症状:

問題の内容を具体的に書いてください。

- 問題を再現できましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのようにして再現しましたか？

第2章 トラックポイントの設定とオプションの使用

本章では、拡張トラックポイント機能の設定とオプションの使用方法について説明します。外付けデバイスを接続して ThinkPad を使用したり、メモリーを増設したりすることができます。

トラックポイントの設定	40
メモリーの増設	45
DIMM の取り付け	46
DIMM の取り外し方法	51
ハードディスク・ドライブのアップグレード	52
ディスク・ドライブの外付け接続	55
外付けディスク・ドライブのウォーム接続を使用可能にするには	56
外付けディスク・ドライブ取り付けキットからディスク・ドライブを取り外すには	57
マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続	58
マウスまたは数値キーパッドの接続	58
外付けキーボードとマウスの接続	60
トラックポイントの使用不可	62
外付けディスプレイの接続	63
ThinkPad への TV の接続	67
マルチモニタ機能の使用	69
マルチモニタ機能を使用不可にするには	70
考慮事項	72
PC カードの取り付け	74
PC カードの取り外し	76
拡張ユニットの使用	77
ThinkPad の電源をオフにしてのドッキング (コールド・ドッキング)	78
ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング) (ホットまたはウォーム・アンドッキング)	81
リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定	83
拡張ユニットの IDE ドライブの使用	84
ウルトラスリムベイ・デバイスの交換	88
ウルトラスリムベイのデバイスのウォーム・スワップ	89

トラックポイントの設定

トラックポイントを設定する手順は、次のとおりです。

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
- 2 「トラックポイント」アイコン () をクリックします。
- 3 「トラックポイントのプロパティ」をクリックします。
「トラックポイントのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウで、次の機能を設定できます。
 - プレス・セレクト
 - 感度
 - スクロールまたは拡大表示

「プレス・セレクト」の設定



「プレス・セレクト - オン」のボックスにチェック・マークを付けてプレス・セレクトを使用可能にすると、トラックポイントのスティックを、左クリック・ボタンまたは右クリック・ボタンと同じように機能させることができます。

- 「ドラッグ - オン」にチェック・マークを付けると、トラックポイントのスティックを軽く押すことで、トラックポイントで選択したアイコンをドラッグできるようになります。

- 「リリース・セレクト・オン」にチェック・マークを付けると、トラックポイントからすばやく指を離すだけで、簡単にクリックできるようになります。マウス・ポインターをアイコン上に移動した後、トラックポイントからすばやく指を離した瞬間にクリックが入力されます。続けてトラックポイントをもう一度押すと(プレス・セレクト)ダブルクリックと同様の効果が得られます。
- 「プレス・セレクトへの割り当て」プレス・セレクトに左ボタン、右ボタンのどちらの機能をもたせるかを選択します。たとえば、「左ボタン」を選択すると、マウス・ポインターをプログラムのアイコンに合わせ、トラックポイントのスティックを2回軽く押すことにより、そのプログラムを始動できるようになります。

スティックを押すタイミングの調節アイコンは、「クリックの速さ」で設定します。



クリックの速さの設定を遅くし過ぎた場合は、意図しないクリック、マウス・ポインターの遅れ、またはドラッグの遅れなどが起こることがあります。また、設定を速くし過ぎた場合は、プレス・セレクトの操作が困難になります。

「感度」の設定



この機能は、マウス・ポインターとプレス・セレクトの両方の感度を同時に調節します。「重く」の方にスライドさせると、マウス・ポインターの動きは鈍くなり、プレス・セレクトは、より強く押さなければ入力できなくなります。また、「軽く」の方にスライドさせると、マウス・ポインターの動きは軽くなり、プレス・セレクトは弱く押すだけで入力できるようになります。

「スクロールまたは拡大表示」の設定



「スクロール機能」タブをクリックすると、トラックポイントのスクロールのプロパティを設定できます。

- 「スクロール機能の切り替え」
次のラジオ・ボタンのいずれかを選択します。
 - － 「スクロール」
この機能を選択すると、トラックポイントを押すだけで、長い文書や大きなスプレッドシートを簡単にスクロールすることができます。スクロールするには、スクロール・バーを使わずに、センターボタンを押しながら、トラックポイントを使用します。
 - － 「拡大表示」
この機能を選択すると、ディスプレイの一部を拡大することができます。また、拡大表示されたウィンドウを通してクリックを入力することもできます。センターボタンを押しながら右クリック・ボタンを押すと、拡大表示されたウィンドウのサイズを変更できます。また、センターボタンを押しながら左クリック・ボタンを押すと、その拡大率を変更することができます。センターボタンを押してから、トラックポイントを動かすと、拡大表示されたエリアを移動させることができます。

- 「オフ」
これを選択すると、スクロール機能も拡大表示機能も使用不可にします。
- 「スクロール方法」
次のラジオ・ボタンのいずれかを選択します。
 - 「センターボタンを押しながらトラックポイント」
このオプションを選択すると、センターボタンを押しながら、トラックポイントを動かして、スクロール機能または拡大表示機能を制御することができます。センターボタンが押されていない状態では、トラックポイントは通常の動作、つまり、マウス・ポインターの制御を行います。
 - 「外付けのマウスを使う」
このオプションを選択すると、外付けで接続されているマウスで上下左右にスクロール(または拡大表示されたウィンドウを移動) させることができます。この場合、トラックポイントは単にマウス・ポインターの制御を行います。
 - 「トラックポイント」
このオプションを選択すると、センターボタンを押さずにトラックポイントで上下左右にスクロールするように設定できます。マウスを外付け接続しマウス・ポインターとして使用します。外付けで接続されているマウスでは、マウス・ポインターの制御を行います。

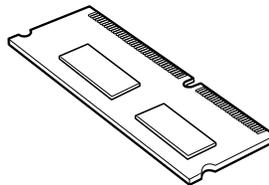
センターボタンを押しながら、トラックポイントを動かすと、通常どおりマウス・ポインターの制御を行います。



「外付けマウスを使う」および「トラックポイント」ラジオ・ボタンは、マウスを外付けで接続している場合のみ選択できます。

メモリーの増設

メモリーの増設は、プログラムの実行速度を速くするのに効果的な方法です。ThinkPad のメモリー容量は、オプションのメモリー・モジュール(DIMM)を取り付けて増やすことができます。



数種類の容量の DIMM (1 枚あたり最大 128 MB) を取り付けられます。DIMM は、ThinkPad の底面のメモリー・スロットに直接取り付けることができます。ThinkPad のメモリー容量は、最大 288 MB まで (32 MB の基本メモリーに加えてオプションの 128 MB の DIMM を 2 枚使用) 拡張することができます。ThinkPad に 64 MB の基本メモリーが装備されている場合は、購入時に取り付けられていた増設済みの 32 MB の DIMM を取り外してから、128 MB の DIMM を 2 枚取り付けます。

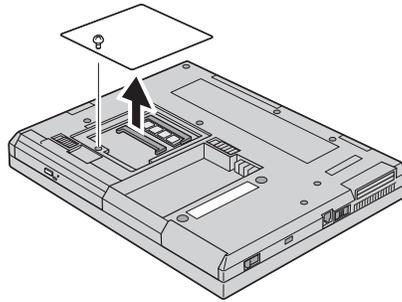
重要

ご使用の ThinkPad でサポートするのは、SDRAM (Synchronous Dynamic Random Access Memory) カードだけです。EDO DRAM (Extended Data Output Dynamic Random Access Memory) カードはサポートされません。ThinkPad でサポートされていない DIMM を取り付けただ場合は、システムの起動時に、エラー・コード 225 が表示される可能性があります。適切なメモリー・オプションは、IBM 特約店または IBM 営業員を通じてお求めになれます。

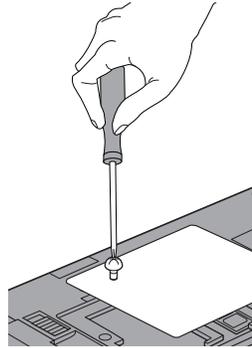
DIMM の取り付け

DIMM を取り付ける手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターやケーブル類をすべて取り外します。
- 2** LCD を閉じ、ThinkPad を裏返して、バッテリー・パックを取り外します。(→ 35 ページ。)
- 3** メモリー・スロット・カバーのネジを緩め、カバーを取り外します。



重要：ドライバーの取り扱い



- ねじに合ったドライバーを使用します。
- ドライバーは、ねじ頭に垂直に当てて使用します。

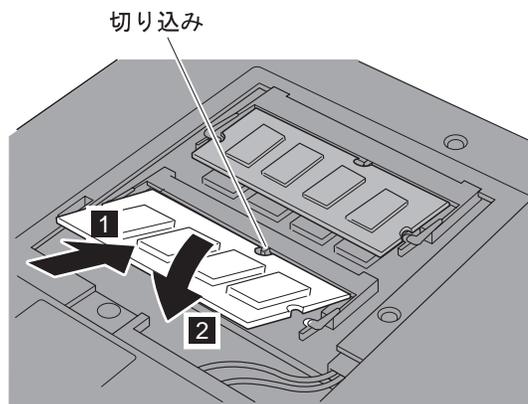
ドライバーは正しく使用してください。そうしないと、ねじを損傷する場合があります。

重要

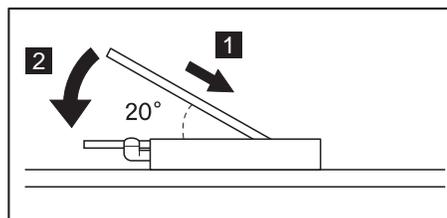
DIMM の損傷を避けるため、DIMM の接点部分には手を触れないでください。

- 4 DIMM の側面に切り込みがあることを確認します。
- 5 DIMM の切り込みのある端をソケットの右側に向けて、DIMM を約 20° の角度でソケットに差し込んでから、しっかりと押し込みます **1**。
- 6 カチッと音がして正しい位置に収まるまで DIMM を手前に倒します **2**。

DIMM を 2 枚取り付ける場合は、増設済みの 32 MB DIMM を取り外し (→ 51 ページ)、手順 4 ~6 を繰り返して 2 枚目を取り付けます。

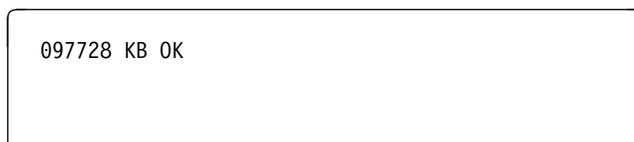


側面図



- 7** 最初にメモリー・スロット・カバーの後ろ側を合わせてから、カバーを元通りにメモリー・スロットの上に取り付け、ねじで締めます。
- 8** バッテリー・パックを元に戻します。(→ 35 ページ。)
- 9** ThinkPad を表に向けてから、電源をオンにします。
- 10** 画面の左上隅に新しいメモリー・サイズが表示されるかどうか確認します。

たとえば、64 MB のメモリーが標準装備されている ThinkPad に 32 MB の DIMM を取り付けた場合は、次のように表示されるはずですが。(合計メモリー・サイズを計算する方法については、次のページを参照してください。)



これで、DIMM の取り付けは完了しました。すべてのケーブルを元通りに接続してください。



1. 次のような状況が生じた場合は、ThinkPad の電源をオフにし、46 ページに戻って DIMM を取り付け直し、Easy-Setup でメモリー・テストを実行します (157 ページを参照してください)。

- メモリー・カウントの下にエラー・コード 201 が表示された場合。

```
097728 KB OK  
201
```

- メモリー・サイズの合計が、計算したサイズと違う場合。
2. エラー・コード 225 が表示されるのは、取り付けたメモリーが ThinkPad でサポートされていない場合です。
3. ThinkPad のメモリー容量を変更した場合は、次のようにして、ハイバネーション・ファイルを作成し直す必要があります。

- a) Autoexec.bat ファイル内に次の 1 行があるかどうか確認します。

```
C:¥THINKPAD¥PS2 HFILE C > nul
```

ある場合は、次のように行頭に"rem"を入力します。

```
rem C:¥THINKPAD¥PS2 HFILE C > nul
```

- b) ThinkPad の電源をオフにします。
- c) 追加した DIMM を取り外します。
- d) ThinkPad の電源をオンにし、ハイバネーション・モードを使用不可にします。
- e) ThinkPad の電源をオフにします。
- f) 再度 DIMM を取り付けます。
- g) ThinkPad の電源をオンにし、ハイバネーション・モードを使用可能にします。

ハイバネーション・モードを使用不可および使用可能にする方法
ステップ・アップ・ガイド。 ➡



メモリー・サイズの合計の計算方法

メモリー・サイズは、基本メモリー・サイズ (64960 KB) に DIMM のメモリー・サイズを加えて、キロバイト (KB) 単位で計算します。

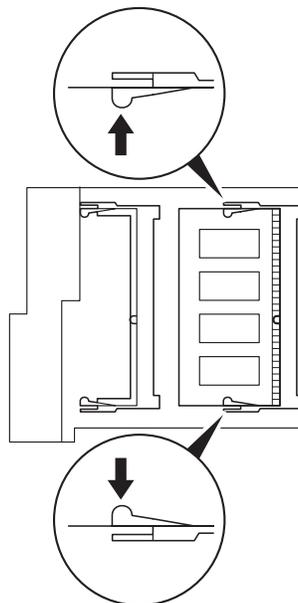
たとえば、64 MB の基本メモリーが装備されている ThinkPad に 32 MB の DIMM を取り付けた場合は、メモリーの合計サイズは次のように計算されます。

注: 1 MB=1024 KB

$$32 \times 1024(\text{KB}) + 64960(\text{KB}) = 97728(\text{KB})$$

DIMM の取り外し方法

- 1 ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターおよびケーブル類をすべて取り外します。
- 2 LCD を閉じて ThinkPad を裏返し、バッテリー・パックを取り外します。
- 3 メモリー・スロット・カバーのねじを緩めて、カバーを取り外します。
- 4 ソケットの両端の切り込み部分を同時に外側に押します。



- 5 DIMM を取り外します。
DIMM は安全な場所に保管しておいてください。
- 6 メモリー・スロット・カバーを取り付けてから、ねじを元通り締めます。
- 7 バッテリー・パックを元に戻します。
- 8 ThinkPad を元通りにしてから、取り外した AC アダプターやケーブル類を接続し直します。

ハードディスク・ドライブのアップグレード

ThinkPad に標準装備されている組み込み式のハードディスク・ドライブをオプションのハードディスク・ドライブと交換すると、ThinkPad の記憶容量を増やすことができます。オプションのハードディスク・ドライブは、IBM 特約店または IBM 営業員を通じてお求めいただけます。



ハードディスク・ドライブの交換は、アップグレードや修理の目的でのみ行ってください。本機のハードディスク・ドライブは、たびたび交換するようには設計されていません。

重要

ハードディスク・ドライブの取り扱い

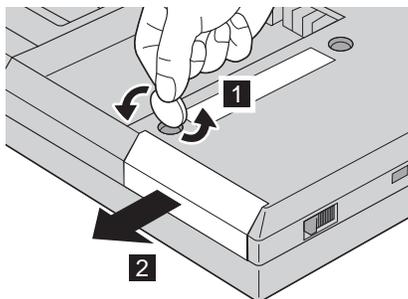
- 落としたり、物理的な衝撃を与えないでください。
- カバーに圧力をかけないでください。
- コネクターには触れないでください。

このドライブは、非常にデリケートです。取り扱いを誤ると、重大な損傷やハードディスク内のデータの損失の原因となります。ハードディスク・ドライブを取り外す前に、ハードディスク内のすべての情報のバックアップ・コピーを作成してください。システムの作動中やサスペンド・モード中、あるいはハイバネーション・モード中には、ハードディスク・ドライブを絶対に取り外さないでください。

ハードディスク・ドライブを交換する手順は、次のとおりです。

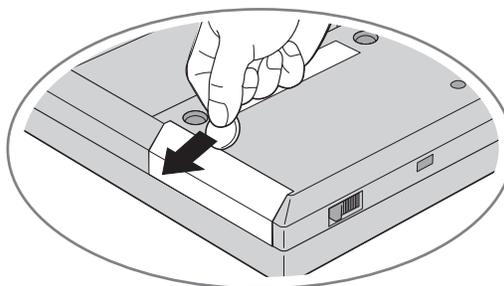
- 1** ThinkPad の電源をオフにしてから、AC アダプターおよびすべてのケーブル類を ThinkPad から抜きます。次に、LCD を閉じてから ThinkPad を裏返します。
- 2** バッテリー・パックを取り外します (→ 35 ページ)。

- 3** **1** で示すように、コインを用いてマイナスねじを左回りに回して外してから、ハードディスク・ドライブ・カバーを取り外します **2**。

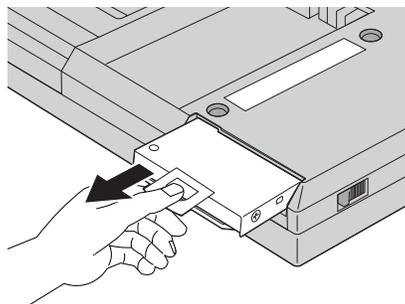


注意

つめでハードディスク・ドライブ・カバーを開けないでください。つめを痛める恐れがあります。ハードディスク・ドライブ・カバーを開く場合は、コインを使用してください。



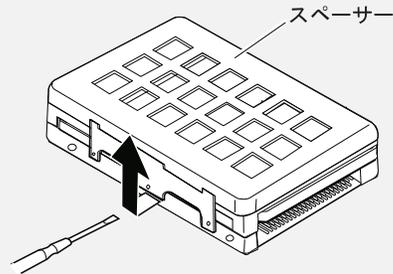
- 4** ハードディスク・ドライブのストラップを引っ張って、ハードディスク・ドライブを取り外します。



5 新しいハードディスク・ドライブをベイに挿入します。ドライブがしっかりと接続されていることを確認してください。



- ハードディスク・ドライブをベイに差し込むときは、無理に力を加えないようにします。コネクタはデリケートなので、損傷する恐れがあります。
- 取り付けるハードディスク・ドライブにスペーサーが付いている場合は、小型のドライバーなどを使ってスペーサーを外します。



6 ハードディスク・ドライブ・カバーを元通りにし、ねじを取り付けます。



マイナスねじをセキュリティねじに交換すると、ハードディスク・ドライブを簡単に取り外せないようにすることができます。詳細情報 → 108ページの『セキュリティねじの使用』。

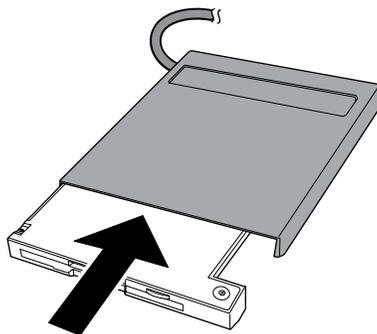
7 バッテリー・パックを元に戻します。(→ 35 ページ。)

8 ThinkPad を元通りにして、電源をオンにします。

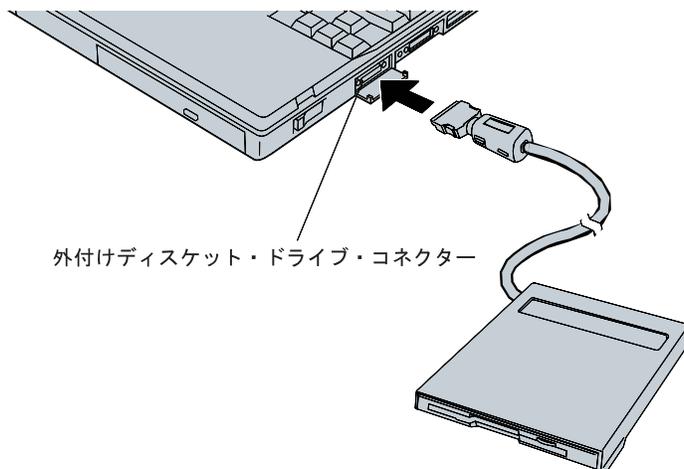
ディスク・ドライブの外付け接続

ディスク・ドライブは、外付けディスク・ドライブ・コネクタに接続して、外付けディスク・ドライブとして使用することができます。ディスク・ドライブを外付けで接続する方法は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにします。
- 2** ディスク・ドライブを外付けディスク・ドライブ取り付けキットに差し込み、しっかりと接続します。



- 3** ケーブルを外付けディスク・ドライブ・コネクタに接続します。



- 4** ThinkPad の電源をオンにします。



外付けディスク・ドライブと拡張ユニットのディスク・ドライブは、ポートを共有します。3 箇所 (外付けディスク・ドライブ、拡張ユニット、ウルトラスリムベイ) に同時に取り付けることができるディスク・ドライブは 2 つです。サポートされるディスク・ドライブの組み合わせの説明については、24 ページの表1 を参照してください。

外付けディスク・ドライブのウォーム接続を使用可能にするには

ThinkPad の出荷時には、ディスク・ドライブは、ウルトラスリムベイに対してウォーム・スワップ可能デバイスになっています。(ウォーム・スワップの説明 → 89 ページ。)ただし、通常はディスク・ドライブを外付けで使用する場合は、ThinkPad に外付けでウォーム接続できるように、ディスク・ドライブの構成を設定することができます。

ウォーム接続を使用可能にする場合は、DOS プロンプトで PS2 FDD External と入力します。これで ThinkPad を再起動すれば、ディスク・ドライブを ThinkPad にウォーム接続することができます。

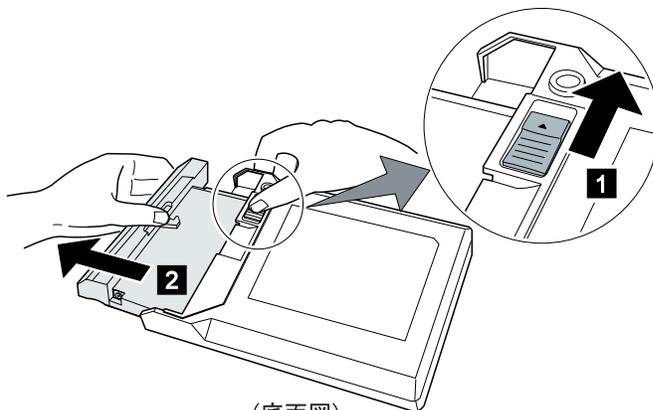
ただし、その後は、ディスク・ドライブはウルトラスリムベイに取り付けるためのウォーム・スワップ可能デバイスとは見なされなくなります。以前の構成を復元する場合は、DOS プロンプトで PS2 FDD Internal と入力します。これで ThinkPad を再起動すれば、ディスク・ドライブは、ウルトラスリムベイに取り付けるためのウォーム・スワップ可能デバイスと見なされることとなります (外付けディスク・ドライブとは見なされなくなります)。

外付けディスク・ドライブ取り付けキットからディスク・ドライブを取り外すには

重要

外付けディスク・ドライブ取り付けキットはディスク・ドライブ専用設計されているので、それ以外のドライブを取り付けないようにします。

外付けディスク・ドライブ取り付けキットには、底にロックが付いています。ディスク・ドライブを取り付けキットから取り外す場合は、このロックをロック解除位置に入れた状態で取り外します。

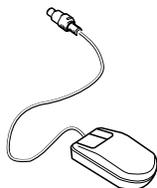


マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続

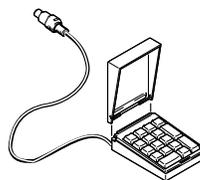
ここでは、ThinkPad にマウス、数値キーパッド、および外付けキーボードを接続する手順について説明します。

マウスまたは数値キーパッドの接続

マウスまたは数値キーパッドを、ThinkPad 背面の外付け入力装置コネクタ () に外付けで接続することができます。

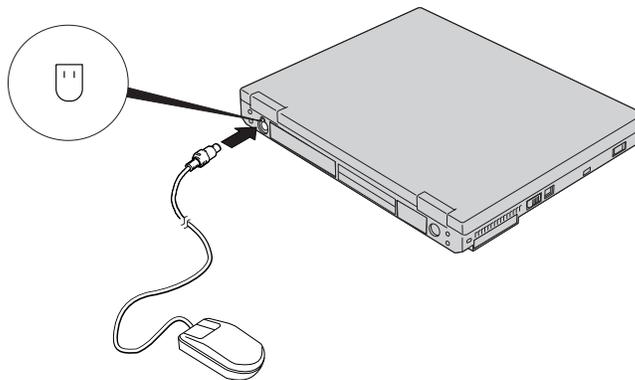


マウス



数値キーパッド

マウスを接続する場合は、図のように外付け入力装置コネクタに直接接続します。

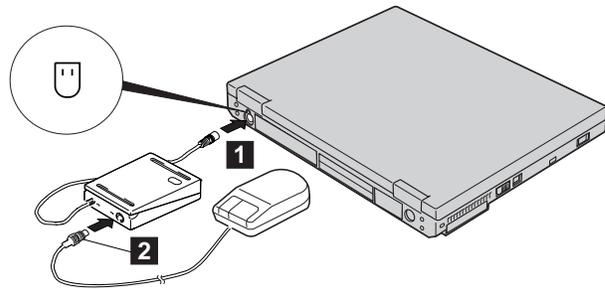


重要

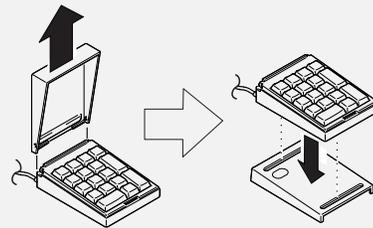
ポインティング・デバイスとして IBM ミニーマウスとトラックポイントを同時に使うことができます。IBM PS/2 ミニーマウス以外のマウスの接続

➔ 62ページの『トラックポイントの使用不可』

数値キーボードとマウスの両方を同時に使用する場合は、まず数値キーボード・ケーブルを ThinkPad 本体に接続し **1**、次にマウス・ケーブルを数値キーボードの背面にあるコネクタに接続します **2**。



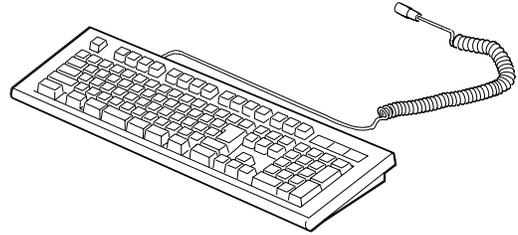
数値キーボード・カバーを取り外し、数値キーボードのスタンドとして使用できます。



外付けキーボードとマウスの接続



マウス



外付けキーボード

ThinkPad に外付けキーボードを接続する場合は、次のどちらかを使用してください。

- オプションのキーボード/マウス・コネクタ (オプション)
- セレクタベース 600 (ポートリプリケータ機能)(オプション)

外付けキーボードは、**ThinkPad** 本体の外付け入力装置コネクタに直接接続しても、作動しません。

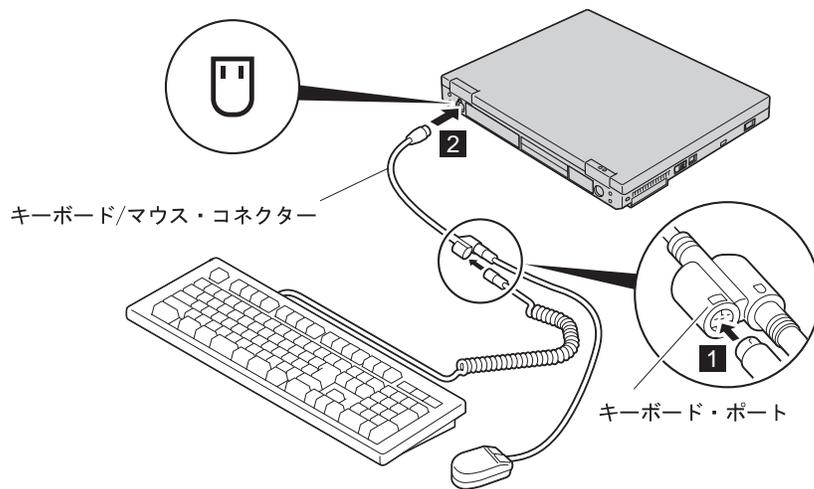
外付けキーボードを接続すると、次のキーが使用できなくなります。

- ThinkPad 本体のキーボード上の数値キーパッド
- 外付けの数値キーパッド

代わりに、外付けキーボードの数値キーパッドを使用してください。

キーボード/マウス・コネクタを接続する場合は、ThinkPad の電源をオフにし、外付けキーボードをキーボード/マウス・コネクタのキーボード・ポートに接続してから **1**、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad に接続します **2**。

マウスは、キーボード/マウス・コネクタのマウス・ポートに接続します。



トラックポイントの使用不可

トラックポイントは、システムに接続された別のポインティング・デバイス (たとえば、マウスなど) と同時に使用できるように設計されていますが、マウスの種類によっては、使用する前にトラックポイントを使用不可にする必要があります。次のようなマウスはこれに該当します。

- 外付け入力装置コネクタに接続された、PS/2 マウスと完全には互換性がないマウス
- シリアル・コネクタに接続されたマウス
- USB コネクタに接続されたマウス

トラックポイントを使用不可にする手順は、次のとおりです。

1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。

28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』を参照してください。

2 「トラックポイント」() アイコンをクリックします。

3 トラックポイントの「自動使用不可」を選択します。

この設定では、ThinkPad の始動時にマウスが外付け入力装置コネクタに接続されたときに、自動的にトラックポイントが使用不可になります。使用不可になっているトラックポイントを使用可能に戻す場合は、マウスを取り外してから、ThinkPad を再起動させてください。始動時にマウスを外付けで接続していない場合は、トラックポイントは使用可能になります。



マウスをシリアル・コネクタまたは USB コネクタに接続して使用している場合は、「自動使用不可」ではなく、「使用しない」を選択する必要があります。

外付けディスプレイの接続

ここでは、ThinkPad の LCD と外付けディスプレイ (CRT) の使用方法について説明します。

ThinkPad の LCD には、*TFT* (Thin-Film-Transistor) テクノロジーが採用されています。この LCD では、XGA (1024x768 の解像度) ビデオ・モード、約 1,677 万色で出力を表示します。

VGA (640x480 の解像度)モードよりも高解像度をサポートする外付けディスプレイを接続すれば、最大 1280x1024 の解像度で表示できます。

外付けディスプレイを接続する手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにします。
- 2** 外付けディスプレイ (CRT) を、ThinkPad 背面の外付けディスプレイ・コネクタ () に接続してから、電源コンセントに接続します。
- 3** 外付けディスプレイ (CRT) と ThinkPad の電源をオンにします。
- 4** 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』を参照してください。

- 5 「LCD と CRT ディスプレイ両方」** () ボタンまたは「**CRT ディスプレイ単独**」 () ボタン(Windows 98 の場合は、画面の **左上** にあり、Windows NT の場合は、画面の **上部中央** よりやや **右寄り** にあります) をクリックして、表示先を変更します。

重要

- ムービーの再生中やゲームのプレイ中など、動画の作動中は、ディスプレイの表示モードを変更しないでください。アプリケーションをいったん終了してからディスプレイの表示モードを変更してください。
- VGA モード (640x480 の解像度) のみをサポートする外付けディスプレイを接続している場合は、「**LCD と CRT ディスプレイ両方**」を選択しないようにします。選択すると、外付けディスプレイの画面が乱れ、出力が表示されなくなることがあります。さらに、画面が損傷する場合があります。必ず「**CRT ディスプレイ単独**」を使用します。



Fn + **F7** キーを押して、表示出力先を変更することもできます。

- 6** 次のようにして、ディスプレイのタイプと解像度、色数、およびリフレッシュ・レートを設定します。



サポートされる色数および解像度の説明 → 65ページの『解像度、色数、およびリフレッシュ・レート』。

- a) 「スタート」ボタンをクリックします。
- b) マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- c) 「画面」をダブルクリックします。
- d) 「設定」タブを選択します。
- e) 「詳細」をクリックします。
- f) 「モニタ」タブをクリックします。
- g) 「変更」ボタンをクリックします。

「デバイス・ドライバーの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。画面の指示に従って、「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、ディスプレイ・リストからディスプレイのタイプを選択し、新しい解像度、色数、およびリフレッシュ・レートをクリックします。

7 ThinkPad を再起動して、新しい設定を有効にします。



ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときは、外付けディスプレイを取り外すことがないようにします。**ThinkPad** が通常の操作状態に戻ったときに外付けディスプレイが接続されていないと、**LCD** には何も表示されません。この制限事項は、いずれの解像度でも同様です。

解像度、色数、およびリフレッシュ・レート

次の表は、ThinkPad または外付けディスプレイで表示可能な解像度、色数、およびリフレッシュ・レートを示しています。この表を使用して、表示出力先（「**LCD** 単独」、「**CRT** ディスプレイ単独」、または「**LCD** と **CRT** ディスプレイ両方」）を設定します。



オペレーティング・システムのインストール時には、ThinkPad に付属の XGA モードを使用するためのディスプレイ・ドライバーをインストールする必要があります。

- 出力を LCD、または LCD と外付けディスプレイの両方に表示する場合（「**LCD 単独**」または「**LCD と CRT ディスプレイ両方**」）

解像度	サポートされる色数
640x480 (VGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色
800x600 (SVGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色
1024x768 (XGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色
1280x1024 (SXGA)	256 (仮想画面)



仮想画面 機能を使用して、ThinkPad で生成される高解像度画面イメージを表示することができます。隠れている部分は、トラックポイントや他のポインティング・デバイスを動かすことで見ることができます。

- 出力を外付けディスプレイに表示する場合（「**CRT ディスプレイ単独**」）

解像度	サポートされる色数	リフレッシュ・レート
640x480 (VGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色	60 Hz、75 Hz、または 85 Hz
800x600 (SVGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色	60 Hz、75 Hz、または 85 Hz
1024x768 (XGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色	60 Hz、70 Hz、75 Hz、または 85 Hz
1280x1024 (SXGA)	256 色	60 Hz



外付けディスプレイ (CRT) によっては、解像度やリフレッシュ・レートが制限されていることがあります。

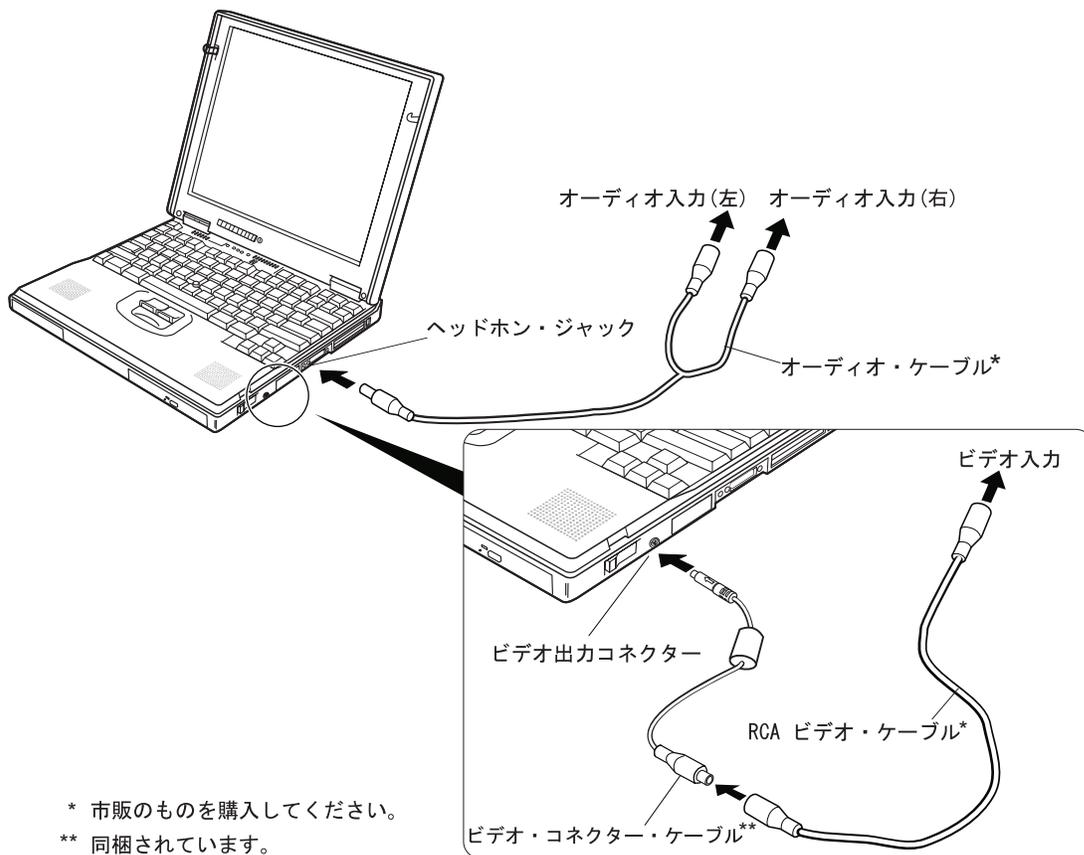
ThinkPad への TV の接続

この項は、ビデオ出力コネクタが付いているモデルにのみ該当します。TV を使用する場合の考慮事項 → 72 ページ。

ThinkPad 本体に TV (NTSC または PAL 型式) を接続し、ThinkPad の出力を表示させることができます。ThinkPad の出力を TV で表示させる手順は、次のとおりです。

1 ThinkPad と TV の電源をオフにします。

2 ビデオ・コネクタ・ケーブルをビデオ出力コネクタに接続し ()、次にその他の必要なケーブルを TV に接続します。



* 市販のものをご購入ください。

** 同梱されています。

3 ThinkPad 本体のヘッドホン・ジャックにオーディオ・ケーブルを接続し、次にそのケーブルをビデオ装置のオーディオ入力コネクタに接続します。

ビデオ装置にオーディオ入力コネクタが 1 つしかない場合は、オーディオ・ケーブルの左オーディオ・コネクタを使用します。

4 次のようにして、ビデオ出力コネクタ (TV 出力) を使用可能にします。

- a) 「スタート」ボタンをクリックします。
- b) マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- c) 「画面」をダブルクリックします。
- d) 「設定」タブを選択します。
- e) 「詳細」ボタンをクリックします。
- f) 「**NeoMagic**」タブを選択します。
- g) 「**TV**」チェックボックスにチェック・マークを付けます。
- h) スライダーをクリックして、640x480 と 800x600 のどちらかの TV 解像度を選択します。
- i) 「**Advanced Settings**」をクリックします。
- j) 「**TV Option**」タブを選択します。
- k) 「**TV Output Standard**」フィールドで NTSC または PAL のどちらかを選択します (日本では NTSC を選んでください)。
- l) 「**Output Selection**」フィールドで「**S Video**」(S 端子) または「**Composite**」(ビデオ端子) のどちらかを選択します。
- m) 「**OK**」をクリックして、ウィンドウをクローズします。
- n) 「**OK**」をクリックして、変更を適用します。
- o) 「**OK**」をクリックします。



Windows NT を使用している場合は、手順4d、4e、および 4o は省略してください。

マルチモニタ機能の使用

Windows 98 では、マルチモニタ機能をサポートしており、ThinkPad は Windows 98 環境で マルチモニタ機能をサポートします。この機能があるため、Windows 98 のデスクトップでは、LCD と CRT ディスプレイの組み合わせ、または LCD と TV のディスプレイの組み合わせ (ただし、ThinkPad にビデオ出力コネクタが装備されている場合) に出力を表示することができます。それぞれのディスプレイに別のデスクトップ・イメージを表示することができます。

ThinkPad への TV の接続 → 67 ページ。

マルチモニタを使用可能にする手順は、次のとおりです。

- 1** 外付けディスプレイ (CRT) または TV を ThinkPad に接続します。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックします。
- 3** マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- 4** 「画面」をダブルクリックします。
- 5** 「設定」タブを選択します。
- 6** 「詳細」ボタンをクリックします。
- 7** 「NeoMagic」タブを選択します。
- 8** 「デュアルディスプレイ設定」チェックボックスにチェック・マークを付け、「OK」をクリックします。

「システム設定変更」ウィンドウが表示され、オペレーティング・システムの再始動を指示するプロンプトが出されます。
- 9** 「はい」をクリックして、ThinkPad を再起動します。
- 10** コントロール パネルの「画面」をダブルクリックして、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウを開きます。
- 11** 「設定」タブを選択します。

番号が割り当てられた 2 つのディスプレイのイメージが表示されます。

- 12** 「モニタ 2」アイコン (セカンダリ モニタである CRT または TV を表します) をクリックします。
- 13** 「はい」をクリックして、モニタ 2 を使用可能にします。
- 14** 「モニタ 1」アイコン (プライマリ モニタである LCD を表します) をクリックします。
- 15** プライマリ モニタの色数および解像度を選択します。
- 16** 「モニタ 2」アイコン (セカンダリ モニタである CRT または TV を表します) をクリックします。
- 17** セカンダリ モニタの色数および解像度を選択します。
- 18** それぞれのディスプレイのアイコンをドラッグして、相対位置を設定します。



ディスプレイの相対位置は任意に設定できますが、アイコンは相互に接触している必要があります。

- 19** 「OK」をクリックして、変更を適用します。

マルチモニタ機能を使用不可にするには

- 1** 「スタート」ボタンをクリックします。
- 2** マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- 3** 「画面」をダブルクリックします。
- 4** 「設定」タブを選択します。
- 5** 「モニタ 2」アイコン (セカンダリ モニタである CRT または TV を表します) をクリックします。

6 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」チェックボックスのチェック・マークを消します。

セカンダリ モニタ (モニタ 2) は使用不可になりましたが、手順 12 (70ページ) 以降を実行すれば、再度使用可能にすることができます。

マルチモニタ機能全体を使用不可にする場合 (パフォーマンスの向上または一部の制限を取り除くため) は、次の手順を続けます。

7 「詳細」ボタンをクリックします。

8 「NeoMagic」タブを選択します。

9 「デュアルディスプレイ設定」チェックボックスをクリックして、チェック・マークを外します。

10 「OK」をクリックします。

「システム設定変更」ウィンドウが表示され、オペレーティング・システムの再始動を指示するプロンプトが出されます。

11 「はい」をクリックして、ThinkPad を再起動します。

考慮事項

- プライマリ モニタは常に ThinkPad の LCD であり、セカンダリ モニタは CRT または TV のどちらかです。
- CRT または TV のどちらかであるセカンダリ モニタには、最大 65,536 色を選択することができます。
- セカンダリ モニタには、最大 1024x768 の解像度が選択できます。
- プライマリ モニタ (LCD) の解像度を 1024x768 に、色数を約 1,677 万色に指定した場合は、マルチモニタを設定することはできません。
- 次は、サポートされ ない 設定です。

プライマリ モニタ (LCD)	セカンダリ モニタ (CRT または TV)
1280x1024の256色表示	1024x768の65,536色表示
1024x768の65,536色表示	1024x768の65,536色表示
800x600の約1677万色表示	1024x768の65,536色表示

- 次の表には、TV を使用する場合のディスプレイ・モードが示してあります。

解像度	色数	TV のディスプレイ・モード
640x480	256、65,536	イメージ全体が画面に表示されます。
800x600	256、65,536	イメージ全体が画面に表示されます。
1024x768	256、65,536	イメージは仮想画面として表示されます。(LCD では、イメージ全体が画面に表示されます。)
1280x1024	256	イメージは仮想画面として表示されます。



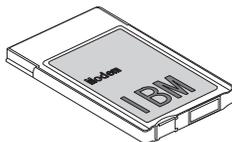
- TV では約 1,677 万色は使用できません。TV だけの表示はできません。TV と LCD の同時表示になります。
- TV は、LCD と一緒に使用できますが、外付けディスプレイ (CRT) と一緒に使用することはできません。

- CRT をセカンダリ モニタに設定していて、DOS 全画面を表示したい場合は、プライマリ (LCD) もセカンダリ (CRT) も DOS 全画面モードになります。
- TV で DOS 全画面 (VGA モード) を使用すると、画面には何も表示されません。

- ビデオ・クリップ (AVI または MPEG ファイル) を再生する場合に、LCD と TV を同時に使用するとイメージはオーバーレイ・モードになりますが、マルチモニタ機能を使用すると、オーバーレイ・モードの画面は LCD にのみ表示され、CRT および TV ではオーバーレイ・モードにならず、ソフトウェア描画で表示されます。
- ビデオ・クリップ (AVI または MPEG ファイル) を再生している場合に、ウィンドウ上にカーソルを移動すると、マウス・ポインターがイメージの下なり表示されなくなります。
- DirectDraw または Direct3D を使用するアプリケーションを全画面モードで再生すると、プライマリ モニタ (LCD) にしか表示されません。
- マルチモニタ・モードの場合、またはイメージを TV と LCD で同時に表示している場合は、**Fn** + **F7** (ディスプレイ切り替え) 機能は使用できません。
- TV をセカンダリ モニタまたは同時表示として使用しながら、この機能を使用するには、ThinkPad を起動するたびに、TV の設定を使用可能にする必要があります。
- TV がセカンダリ モニタまたは同時表示として使用されている場合は、TV の縦横比 (画面の形状) によって、最も小さい解像度を設定した場合でも、イメージの端が切れてしまうので注意してください。

PC カードの取り付け

ここでは PC カードの取り付け方法について説明します。PC カード・ソフトウェアの使用法の説明 → *ステップ・アップ・ガイド*



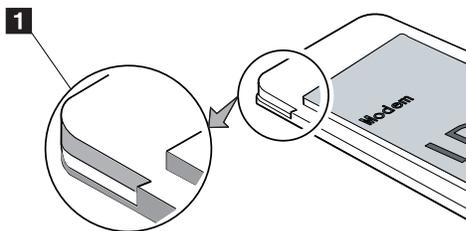
重要

ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときは、PC カードを取り付けないようにします。取り付けると、システムが停止する場合があります。

ThinkPad には 2 つの PC カード・スロット (上段スロットと下段スロット) があり、次のタイプのカードをサポートします。

- PC カード (タイプ I、タイプ II、およびタイプ III)
- CardBus カード
- ZV (Zoomed Video)

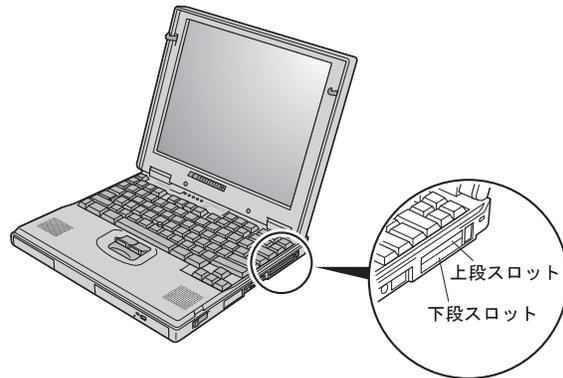
1 PC カードの切り込み **1** のある側を探します。



2 PC カードのタイプに応じて、正しい PC カード・スロットに PC カードを差し込みます。



- タイプ I またはタイプ II の PC カードは、上段スロットまたは下段スロットのどちらかに差し込んでください。
- タイプ III の PC カードは、下段スロットに差し込んでください。



3 PC カードをコネクタにしっかりと差し込みます。



• Windows 98 の場合

PC カード・ドライバーをインストールしていない場合は、Windows 98 でその PC カード・ドライバーのインストールが開始します。

• Windows NT の場合

ThinkPad には CardWizard という PC カード・サポート・ソフトウェアがあります。これにより、PC カードを ThinkPad に取り付けるとすぐにそのカードが使用可能になります。「SystemSoft CardWizard」ウィンドウが表示され、新しいカードの情報を知らせます。

PC カードの取り外し

重要

ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイパネーション・モードになっているときは、PC カードを取り外さないようにします。取り外すと、通常の操作に戻ったときにシステムが停止するおそれがあります。

ハードディスク PC カード、フラッシュ・メモリー PC カード、または SRAM PC カードなどのストレージ PC カードを PC カード・スロットから取り外す場合は、その前に PC カードを停止しておく必要があります。そうしないと、PC カード上のデータが破壊されたり失われたりする場合があります。

1 カードを停止します。

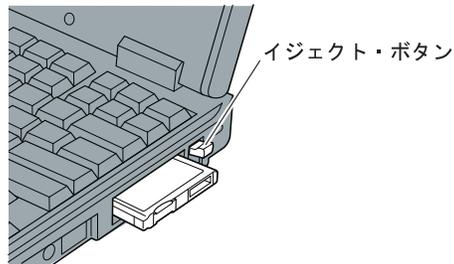
PC カードの停止方法 → ステップ・アップ・ガイド



CardSoft モードにあるとき、またはカードがすでに停止されている場合は、「停止」オプションは灰色で表示されます。

2 PC カード・イジェクト・ボタンを押して、ボタンを飛び出させます。このボタンをもう一度押して、PC カードを取り出します。

3 PC カードを取り出し、安全な場所に保管します。



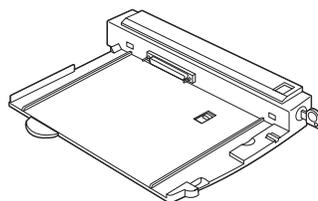
PC カードの使用に関する詳細情報 → ステップ・アップ・ガイド

拡張ユニットの使用

ThinkPad の本体をセクタベース 600 (ポートリプリケーター機能) に接続し、次に拡張ユニットに接続することによって、ThinkPad の機能を拡張することができます。

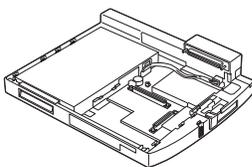


ポート・リプリケーターはオプションで、外付けのキーボード、マウス、プリンター、CRT などを取り付ける場合に便利な方法です。もちろん、これらのデバイスは、ThinkPad 本体に直接接続することもできます。

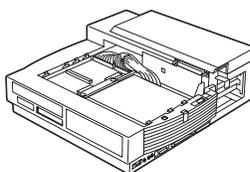


セクタベース 600 (ポートリプリケーター機能)

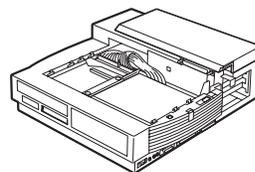
ThinkPad とセクタベース 600 (ポート・リプリケーター) を次の拡張ユニットのどれかに接続 (ドッキング) することができます。



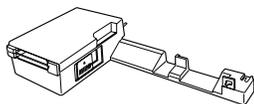
セクタドック I



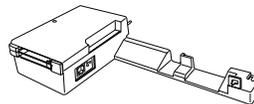
セクタドック II



セクタドック III



セクタベース PC カード・イネーブラー



セクタベース PC カード・イネーブラー
(EtherJet 機能付)

ThinkPad は 次 に示すような状態で拡張ユニットにドッキングすることができます。

- ThinkPad の電源がオフになっている場合 (コールド・ドッキング)
- ThinkPad がサスペンド・モードの場合 (ウォーム・ドッキング)
- ThinkPad が稼働している場合 (ホット・ドッキング)



- ハードウェア構成やオペレーティング・システムによっては、ウォーム・ドッキングやホット・ドッキングがサポートされない場合があります。ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする方法については、拡張ユニットやセレクトベース 600 (ポート・リプリケーター機能) に付属のユーザー・ガイドを参照してください。
- セレクトベース 600 (ポートリプリケーター機能) 経由でセレクトドック I にドッキングすると、奥行きサイズの違いにより、状況インジケータの読み取りやウルトラスリムベイ へのアクセスが困難になる場合があります。
- Windows 95、Windows NT、Windows 3.1、または DOS 環境では、ThinkPad を拡張ユニットにドッキングした 後で、PC カード・サポート・ソフトウェアをインストールする必要があります。PC カード・サポート・ソフトウェアをすでにインストール済みの場合は、いったんそれをアンインストールし、ThinkPad を拡張ユニットに接続した後で再インストールします。

ThinkPad の電源をオフにしてのドッキング (コールド・ドッキング)

次のような場合は、ThinkPad と拡張ユニットの両方の電源をオフにしてドッキング (コールド・ドッキング) しなければなりません。

- 初めて ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする場合

または

- デバイスの取り付けや取り外しなど、拡張ユニットのデバイス構成を変更した場合

コールド・ドッキングは、ThinkPad に記録されていた拡張ユニットのデバイス状況をリセットします。その後は、いつでも ThinkPad を拡張ユニットにドッキングできるようになります。

ThinkPad を初めて接続する手順は、次のとおりです。

1 拡張ユニットに新しいデバイスを取り付けます。

2 拡張ユニットに AC アダプターを接続します。

セレクトアドック I またはセレクトアドック II 拡張ユニット を使用する場合は、セレクトベース 600 (ポートリプリケーター機能) に AC アダプターを接続し、拡張ユニットに AC ケーブルを接続します。

セレクトアドック III 拡張ユニットを使用する場合は、AC ケーブルを拡張ユニットに接続します。

セレクトベース PC カード・イネーブラーまたはセレクトベース PC カード・イネーブラー (EtherJet 機能) を使用する場合は、AC アダプターはセレクトベース 600 (ポートリプリケーター機能) に接続します。

3 拡張ユニットに ThinkPad をドッキングします。

ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする方法については、該当の拡張ユニットに付属のユーザズ・ガイドを参照してください。セレクトアドック I、セレクトアドック II、またはセレクトアドック

III を使用している場合は、ドッキング状況マーク () が拡張ユニット状況インジケータに表示され、ThinkPad が正しくドッキングされていることを示します。

重要

ディスプレイ・ドライバーのインストールを指示するプロンプトが表示された場合は、「キャンセル」をクリックしてそのウィンドウを終了します。構成情報を作成したら、ThinkPad を再起動し、ディスプレイ設定をカスタマイズする必要があります。

4 ThinkPad の電源をオンにします。

Windows 98 または Windows 95 では、拡張ユニットの状況のチェックを開始し、2 回ほど再起動します。画面の指示に従ってください。

Windows 98 または Windows 95 では、この操作中に、「Dock X」という名前で拡張ユニットに関する構成情報を作成します。



- X は、1 ~ 3 のどれかの数字です。
- 「バージョンが異なります」というメッセージが表示される場合があります。「このファイルを保存しますか?」というプロンプトに対しては、「はい」と応答してください。
- 「Texas Instruments PCI-1250 Card BUS Controller」ドライバを要求された場合は、C:\%Windows%\Options\CABS のディレクトリーに入っているのを、インストールしてください。

5 Windows 98 または Windows 95 で「マイ コンピューター」、「コントロール パネル」、「システム」、「ハードウェア プロファイル」タブを順にクリックします。

6 新しい構成情報、「Dock X」が作成されていることを確認します。また、「デバイス マネージャ」タブをクリックして、新しいデバイスが「装置一覧」に新たに表示されていることも確認します。

Dock X が作成されていない場合は、ステップ 1 からやり直してください。

デバイスの横に「!」マークまたは「x」マークが表示されている場合、リソースの競合が発生している可能性があります。ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」の項を参照して、問題を解決します。

新しい構成情報の「Dock X」が作成された後であれば、ThinkPad の電源をオンにしたままで、ThinkPad を拡張ユニットに接続したり (ドッキング)、拡張ユニットから取り外したり (アンドッキング) することができます。

ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング) (ホットまたはウォーム・アンドッキング)



拡張ユニットにドッキングされている ThinkPad がサスペンド・モードにならない場合は、次の手順を実行します。

1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
2. 「省電力」 () ボタンをクリックします。
3. 「サスペンド/レジューム・オプション」タブをクリックします。
4. 「ドッキング中にサスペンド/ハイバーネーションする」のチェックボックスにチェック・マークを付けます。

これで、ThinkPad はドッキング中にサスペンド・モードに入ることができます。

ThinkPad を稼働時 (ホット・アンドッキング) またはサスペンド・モード時 (ウォーム・アンドッキング) に拡張ユニットからアンドッキングする場合は、次の手順を実行します。

- 1 Windows 98 または Windows 95 で「スタート」ボタンをクリックし、次に「取り出し」をクリックします。ThinkPad の LCD 画面がいったんオフになってから、オンになります。



または

拡張ユニットのセキュリティー・キーを「取り出し」位置まで回してから、キーを放します。

取り出し要求がオペレーティング・システムに出されます。この取り出し操作は、終了するまでに時間がかかる場合があります。



この取り出し操作が完了したかどうかを確認する場合は、もう一度「スタート」ボタンをクリックして、「取り出し」アイコンがまだ表示されるかどうかを調べてください。このアイコンがまだ表示されている場合は、その表示が消えるまで待ちます。

- 2 ビープ音が 1 回鳴ったら、セキュリティー・キーをもう一度奥へ回してください。これで、拡張ユニットから ThinkPad を取り外すことができます。



オペレーティング・システムが取り出し要求を拒否した場合は、画面にメッセージが表示されます。このような場合は、コールド・アンドocking (電源がオフのときに拡張ユニットから ThinkPad を取り外すこと) を試してください。

リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定

Windows 98 または Windows 95 のプラグ・アンド・プレイ機能によって、拡張ユニットに取り付けたデバイスは、ThinkPad 本体の電源をオンにした直後から使用することができます。取り付けたデバイスが使えない場合は、システム・リソースの競合が発生している可能性があります。競合を避けるために、次を実行してください。

PCI アダプターまたは内蔵 SCSI デバイスの場合：

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「拡張ユニット」
 ボタンをクリックします。
- 2 少なくとも 1 つの IRQ 値を割り当てます。省略時の設定は IRQ 9 です。

ISA アダプター・カードの場合：

- 1 Windows 98 または Windows 95 の「デバイス マネージャー」をオープンし、新しいカード用に使用可能なリソースをチェックします。
- 2 AC アダプターと AC ケーブルをすべて取り外します。
- 3 セレクタベース 600 (ポートリプリケーター機能)をセレクタドック I II III 拡張ユニットから取り外します。
- 4 アダプター・カードのジャンパーまたは DIP スイッチを設定します。

IDE デバイス (ハードディスク・ドライブまたは CD-ROM ドライブなど) の場合：



次のステップに進む前に、84ページの『拡張ユニットの IDE ドライブの使用』をお読みください。

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「拡張ユニット」
 アイコンをクリックします。
- 2 「IDE デバイス」タブをクリックします。

- 3 「拡張ユニット中のウルトラ・ベイ IDE デバイス」リスト・ボックスの「使用する」を選択し (まだ選択していない場合)、ThinkPad を再起動します。
- 4 「デバイス マネージャ」をクリックして、新しい IDE デバイスと ThinkPad 内の他のデバイスとの間にリソースの競合が発生していないことを確認します。リソースの競合が生じている場合は、[ステップ・アップ・ガイド](#) を参照してください。

拡張ユニットの IDE ドライブの使用

拡張ユニットに IDE デバイス (ハードディスク・ドライブまたは CD-ROM ドライブなど) を取り付けた場合、そのデバイスが使用可能になるよう、ThinkPad の設定を変更する必要があります。省略時には、ThinkPad は、プライマリー IDE チャンネルを主ハードディスク・ドライブ (プライマリー・マスター) 用として使用し、セカンダリー IDE チャンネルをウルTRASリムベイ 内のデバイス (セカンダリー・マスター) 用として使用します。省略時の値である 2 チャンネルの初期値 IDE モードでは、IDE デバイスを拡張ユニットで使用することはできません。

拡張ユニットの IDE デバイスを使用可能にする場合は、省略時の設定を次のどちらかに変更する必要があります。

- 3 チャンネルの IDE モード。このモードでは、ウルTRASリムベイ 内のデバイスに対して、ホット・スワップおよびウォーム・スワップ機能を使用することができます。3 番目の IDE チャンネル用の追加 IRQ が必要です。
- 2 チャンネルの IDE モード。このモードでは、追加 IRQ を割り当てる必要はありません。ただし、ウルTRASリムベイ 内のデバイスに対して、ホット・スワップおよびウォーム・スワップ機能を使用することはできません。



IDE チャンネル構成を変更した場合は、ドライブ名の割り当ても変わる場合があります。

3 チャンネルの IDE モードへの設定

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
- 2 「拡張ユニット」 () ボタンをクリックします。
「拡張ユニット」ウィンドウが表示されます。

- 3 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「コンピュータ」をクリックしてから、「プロパティ」ボタンをクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブの画面の現在の設定を確認して、IRQ 11 または 15 以外の選択可能な IRQ 値 (推奨値は IRQ 9 です) を決めます。使用可能な IRQ 値がない場合は、「デバイス マネージャ」タブの画面で現在使用していないデバイスの名前と、「削除」ボタンをクリックして、該当のデバイスを削除します。
- 6 「OK」をクリックして、「システム プロパティ」ウィンドウをクローズします。
- 7 「拡張ユニット」ウィンドウに戻って、「PCI ステアリング用 IRQ ホルダー」タブをクリックします。
- 8 「第 1 IRQ」の IRQ 値をステップ 5 で決めた使用可能な値に変更します。
- 9 「IDE デバイス」タブをクリックします。
- 10 「拡張ユニット中のウルトラ・ベイ IDE デバイス」リスト・ボックスの「使用する」を選択します。
- 11 「IDE チャネル」リスト・ボックスの「サード」を選択します。
- 12 「OK」をクリックして、「拡張ユニット」ウィンドウをクローズします。
- 13 「警告」ダイアログ・ボックスの「OK」をクリックして、システムを再始動します。

2 チャネルの IDE モードへの設定

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムをオープンします。
- 2 「拡張ユニット」() ボタンをクリックします。
「拡張ユニット」ウィンドウが表示されます。

- 3** 「デバイス マネージャー」 ボタンをクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 4** 「コンピュータ」 をクリックしてから、「プロパティ」 ボタンをクリックします。
- 5** 「リソースの表示」 タブの画面の現在の設定を確認して、IRQ 11 以外の選択可能な IRQ 値を決めます。使用可能な IRQ 値がない場合は、「デバイス マネージャー」 タブの画面で、現在は使用されていないデバイスの名前と、「削除」 ボタンをクリックして、該当のデバイスを削除します。
- 6** 「OK」 をクリックして、「システム プロパティ」 ウィンドウをクローズします。
- 7** 「拡張ユニット」 ウィンドウに戻って、「PCI ステアリング用 IRQ ホルダー」 タブをクリックします。
- 8** 「第 1 IRQ」 の IRQ 値をステップ 5 で決めた使用可能な値に変更します。
- 9** 「IDE デバイス」 タブをクリックします。
- 10** 「拡張ユニット中のウルトラ・ベイ IDE デバイス」 リスト・ボックスの「使用する」 を選択します。
サード IDE が自動的に選択されます。
- 11** 「IDE チャネル」 リスト・ボックスの「セカンド」 を選択します。
- 12** 「警告」 ダイアログ・ボックスの「デバイスを使用不可にする」 ボタンをクリックします。
- 13** 「OK」 をクリックして、ダイアログ・ボックスをクローズします。
- 14** 「警告」 ダイアログ・ボックスの「OK」 をクリックして、システムを再起動します。

次の表にデバイスと IRQ 値の間の関係が示してあります。

デバイス	2 チャンネルの IDE 省略時モード	3 チャンネルの IDE モード	2 チャンネルの IDE モード
ハードディスク ・ドライブ	IRQ 14、P-M	IRQ 14、P-M	IRQ 14、P-M
ウルトラスリム ベクトル	IRQ 15、S-M	IRQ 15、S-M	IRQ 14、P-S
拡張ユニット	使用不可	IRQ 11、T-M および T-S	IRQ 15、S-M および S-S

略語の意味：

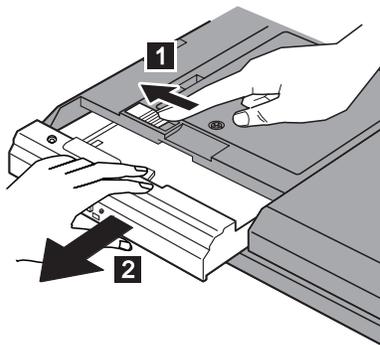
1. P-M: プライマリー - マスター
2. P-S: プライマリー - スレーブ
3. S-M: セカンダリー - マスター
4. S-S: セカンダリー - スレーブ
5. T-M: サード - マスター
6. T-S: サード - スレーブ

ウルトラスリムベイ・デバイスの交換

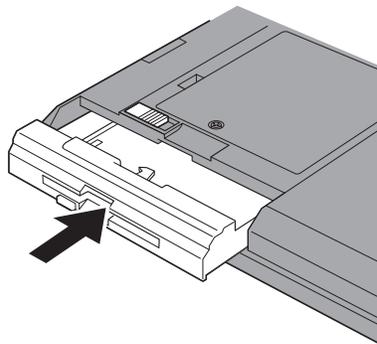
ウルトラスリムベイには、ストレージ・デバイスを一つ取り付けることができます。

次の手順では、DVD ドライブをディスク・ドライブに交換する方法について説明しています。その他のストレージ・デバイスをウルトラスリムベイに取り付ける場合も、この手順に従います。

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターとケーブル類を取り外してから、ThinkPad を裏返します。
- 2** ウルトラスリムベイのデバイス・ロックを押して、ロック解除の位置にしてから **1**、DVD ドライブを取り外します **2**。



- 3** ディスク・ドライブを差し込みます。



ウルトラスリムベイのデバイスのウォーム・スワップ

ウォーム・スワップとは、ThinkPad のサスペンド・モード時に、デバイスを取り外したり、再度接続したりすることを意味します。ThinkPad では、省略時にウォーム・スワップが使用可能になっています。

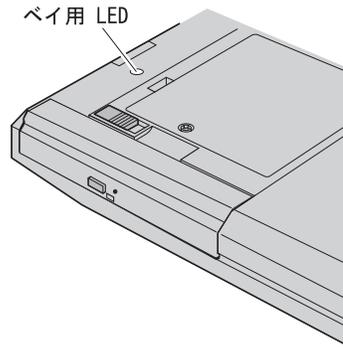
ウォーム・スワップが使用可能かどうか確認する手順は、次のとおりです。

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
→ 28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』。
- 2 「ウルトラベイ」() をクリックします。
- 3 「IDE デバイスのホット/ウォーム・スワップで使用する」を選択しているかどうか確認します。

ウルトラスリムベイのデバイスをウォーム・スワップするには、まず ThinkPad をサスペンド・モードにしてから、デバイスをスワップします。

重要

ウルトラスリムベイのデバイスを取り外す場合は、ベイ用 LED がオフになっていることを確認します。



(底面図)



1. ウルトラスリムベイにセカンド・ハードディスク・ドライブを取り付ける場合は、ウォーム・スワップを行うことは **できません**。ThinkPad の電源をオフにしてから、デバイスのスワップを行います。
2. ウルトラスリムベイのディスクレット・ドライブと外付けディスクレット・ドライブは、サスペンド中に入れ換えることは **できません**。ディスクレット・ドライブをウルトラスリムベイから取り外して、外付けディスクレット・ドライブ・コネクターに取り付ける場合、またはその逆を行う場合は、まず ThinkPad の電源をオフにする必要があります。ディスクレット・ドライブの外付け接続の説明 → 55ページの『ディスクレット・ドライブの外付け接続』。
3. ディスクレット・ドライブが外付けで接続されている場合は、別のディスクレット・ドライブをウォーム・スワップでウルトラスリムベイに取り付けることは **できません**。

本章では、ThinkPad の盗難または不正使用を防ぐ方法について説明します。また、名前、住所などのパーソナル・データをパスワード・プロンプト画面に表示する方法についても記述します。

パスワードの使用	92
パスワードの入力	93
パスワードの設定	94
パスワードの変更または消去	96
始動パスワードおよびハードディスク・ドライブ・パスワードの場合	96
スーパーバイザー・パスワードの場合	98
スーパーバイザー権限による始動パスワードの消去	101
パーソナライゼーション・エディターの使用	103
パーソナル・データの入力	103
パーソナル・データの削除	106
ロック機能の使用	107
セキュリティーねじの使用	108

パスワードの使用

ThinkPad には、使用許可を受けていない人が勝手にアクセスできないようパスワード設定機能が付いています。パスワードを設定すると、ThinkPad の電源をオンにするたびに、画面にプロンプトが表示されます。パスワードを入力しなければなりません。正しいパスワードが入力されないと、ThinkPad を使うことはできません。

ThinkPad には、次のパスワードを設定することができます。

- 始動パスワード
始動パスワードは、使用許可を受けていない人が勝手に ThinkPad を使うのを防ぐためのものです。始動パスワードは、始動時とサスペンド・モードからの通常の操作状態に戻るときに必要です。
- ハードディスク・ドライブ・パスワード
ハードディスク・ドライブ・パスワードは、セキュリティ機能の追加機能です。たとえ始動パスワードを設定していたとしても、その ThinkPad のハードディスク・ドライブを取り外し、別の ThinkPad に取り付ければ、ハードディスク内のデータにアクセスすることができます。しかし、ハードディスク・ドライブ・パスワードを設定していれば、そのパスワードを知らない人は、ハードディスク・ドライブ上のデータにアクセスできなくなります。ハードディスク・ドライブ・パスワードには次のセキュリティ機能があります。
 - 始動時にハードディスク・ドライブ・パスワードを入力する必要があります。
 - ハードディスク・ドライブが他の ThinkPad に移動されていても、ハードディスク・ドライブ・パスワードを始動時に入力しなければなりません。そのため、たとえハードディスク・ドライブが ThinkPad から取り外されても、使用許可を受けていない人はハードディスクにアクセスできないこととなります。
 - スーパーバイザー・パスワードを設定していない場合は、ThinkPad がサスペンド・モードから通常の操作状態に戻るときにハードディスク・ドライブ・パスワードが必要となります。
- スーパーバイザー・パスワード
スーパーバイザー・パスワードはシステム管理者用のツールで、多くの ThinkPad を管理するために使われます。スーパーバイザー・パスワードはシステム管理者によって設定されるものであり、ユーザーには必要ありません。ユーザーは、スーパーバイザー・パスワードを知らなくても ThinkPad を起動することができます。ただし、Easy-Setup にアクセスするときだけは、スーパ

ーバイザー・パスワードが必要です。このパスワードには次のセキュリティー機能があります。

- － システム管理者のみが Easy-Setup にアクセスできます。スーパーバイザー・パスワードが設定されていると、Easy-Setup を始動しようとするたびにパスワード・プロンプトが表示されます。
 - － スーパーバイザー・パスワードと同時に、使用許可を受けていない人からデータを保護するために始動パスワードを使うことができます。
 - － たとえ始動パスワードが設定されている ThinkPad であっても、システム管理者であればスーパーバイザー・パスワードを使ってその ThinkPad にアクセスできます。スーパーバイザー・パスワードが始動パスワードよりも優先されるからです。
 - － スーパーバイザー・パスワードは、ハードディスク・ドライブ・パスワードとして上書きされます。ハードディスクをスーパーバイザー・パスワードで保護し、使用許可を受けていない人がハードディスク内のデータにアクセスできないようにすることができます。
 - － システム管理者は、同一のスーパーバイザー・パスワードを複数の ThinkPad に設定し、管理しやすくすることができます。
- その他のパスワード
「ThinkPad 機能設定」プログラムの「省電力」アイコンをクリックし、「詳細」タブを選択します。「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」チェックボックスにチェック・マークを付けると、サスペンド・モードからレジュームする場合は、Windows 98 ログオン・パスワードを使用する必要があります。
一部の Microsoft のオペレーティング・システムでは、独自の Windows 用パスワードを提供しています。これらのパスワードの設定方法、変更方法、使用方法については、オペレーティング・システムのユーザーズ・ガイドを参照してください。

パスワードの入力

パスワードを設定すると、画面の左上隅にパスワード・プロンプトが表示されます。このプロンプトは、ThinkPad の電源をオンにするたびに、またはサスペンド・モードから通常の操作状態に戻るたびに表示されます。

ただし、ThinkPad が設定されているタイマーまたはモデム着信による呼び出しによって通常の操作状態に戻る場合は、パスワード・プロンプトは表示されません。パ

スワード・プロンプトを表示させるには、任意のキーを押すか、ポインティング・デバイスを動かしてください。

パスワードを入力する手順は、次のとおりです。

1 パスワードを入力します。

キーを押すたびに“•”の記号が表示されます。パスワードを入力するときは指をキーからすばやく離してください。1つのキーを長く押し続けると、同じ文字が繰り返し入力されてしまいます。

2 **Enter** キーを押します。

正しいパスワードを入力すると「OK」が表示され、誤ったパスワードを入力すると「X」が表示されます。正しいパスワードの入力を3回間違えた場合は、ThinkPadの電源をオフにし、5秒以上待ってから電源をオンにして再度入力します。

パスワードの設定

パスワードを設定する手順は、次のとおりです。

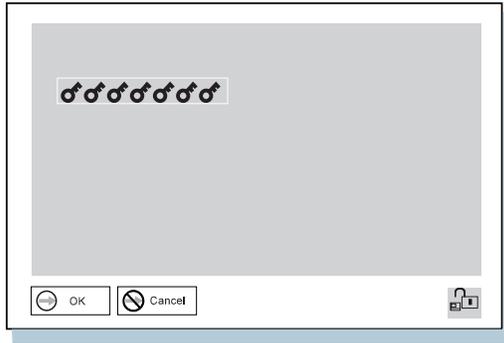
1 Easy-Setup を始動します。

- a) **F1** キーを押しながら、ThinkPadの電源をオンにします。
- b) 「Easy-Setup」メニューが表示されるまで **F1** キーを押し続けます。

2 「Easy-Setup」メニューの「Password」アイコンをクリックします。「パスワード」サブメニューの詳細 → 17ページの『Easy-Setup』

3 「Power-On」（始動）、「HDD」（ハードディスク）、または「Supervisor」（スーパーバイザー）のうち、設定したいパスワードのアイコンをクリックします。

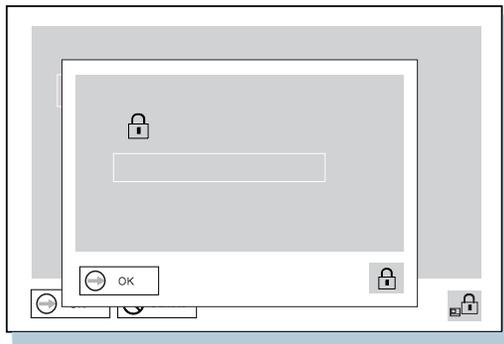
4 任意のパスワードを入力します。



英字 (A~Z) と数字 (0~9) を組み合わせて、7 文字以内の任意の文字を使用できます。大文字と小文字 (たとえばA と a) は、同じ文字として扱われ
ません。

パスワードを誤って入力してしまった場合は、**Backspace** キーを使用して消去し、パスワードを正しく入力し直してください。

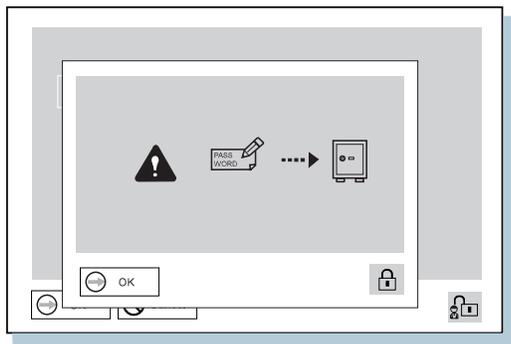
5 **Enter** キーを押します。次のパスワード確認用のウィンドウが表示されま
す。



6 確認のため、もう一度パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。



ハードディスク・ドライブ・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードを
設定した場合は、次のようなウィンドウが表示されます。これは、パスワードを
メモして安全な場所に保管しておくことを指示するものです。



これで、パスワードが設定されました。



パスワードを忘れないでください。

ハードディスク・ドライブ・パスワードやスーパーバイザー・パスワードを忘れた場合、パスワードを再設定することも、ハードディスクからデータを復元することもできません。IBM 特約店または IBM 販売店に ThinkPad をお持ちいただき、ハードディスクまたはシステム・ボードを交換していただくこととなります。このサービスを受けるには、購入を証明するものが必要であり、有料になります。IBM 代理店や IBM 営業担当員でも、ハードディスク・ドライブを使用可能にすることはできません。

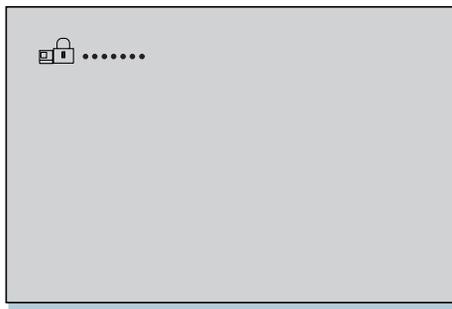
パスワードの変更または消去

この機密保護機能は、他人が勝手にパスワードを消去し、ThinkPad を使用することを防いでいます。パスワードを変更または消去する手順は、次のとおりです。

始動パスワードおよびハードディスク・ドライブ・パスワードの場合

- 1 ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにします。
パスワード・プロンプトが表示されます。

2 現在のパスワードを入力します。

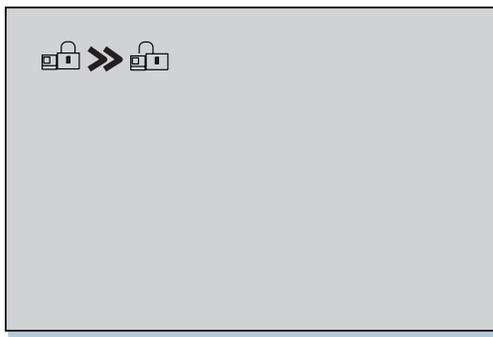


3 **スペース** キーを押します。

パスワードを変更する場合は、ステップ 4 に進みます。

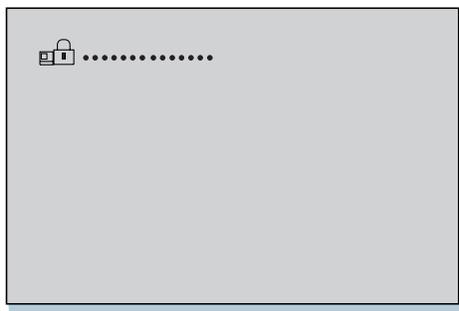
パスワードを消去する場合は、**Enter** キーを押します。

次のウィンドウが表示され、システムが再起動します。

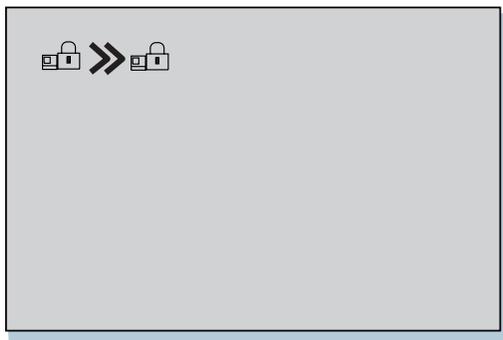


これで、パスワードは消去されました。残りのステップは省略してください。

- 4** パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。



- 5** 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
次のウィンドウが表示され、システムが再起動します。

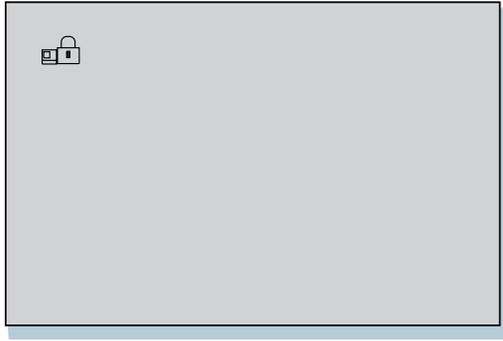


パスワードはメモし、安全な場所に保管しておいてください。

これで、パスワードが変更されました。

スーパーバイザー・パスワードの場合

- 1** Easy-Setup を始動します。
- a) **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。
 - b) パスワード・プロンプトが表示されるまで、**F1** キーを押し続けます。



2 スーパーバイザー・パスワードを入力します。

「Easy-Setup」メニューが表示されます。

3 メニューの「**Password**」を選択します。

4 「**Supervisor**」を選択します。

パスワードを変更する場合は、ステップ 8 に進みます。

5 パスワードを消去する場合は、現在のパスワードを入力してから、

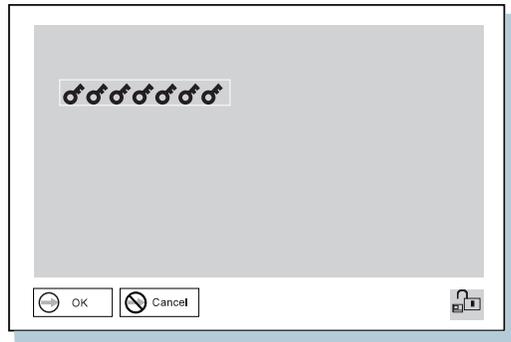
スペース キーを押します。

6 **Enter** キーを 2 回押します。

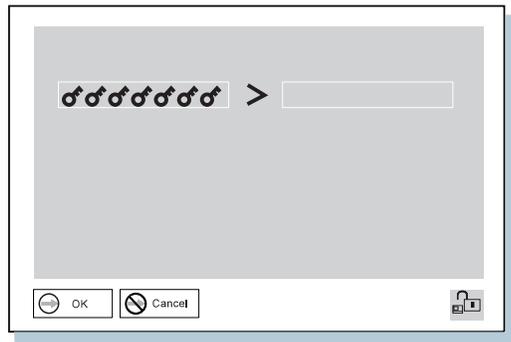
7 「**Exit**」をクリックし、次に「**Restart**」をクリックします。

これで、スーパーバイザー・パスワードは消去されました。ThinkPad が再起動します。残りのステップは省略してください。

8 現在のパスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。



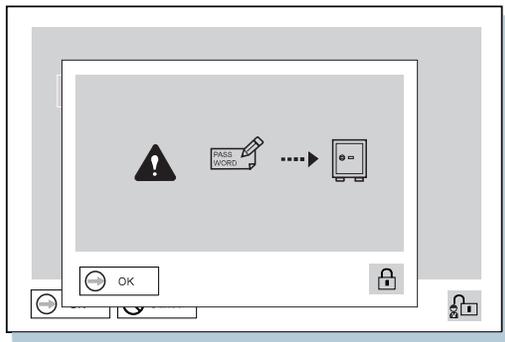
9 新しいパスワードを入力してから、**Enter** キーを押します。



10 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。



次のようなウィンドウが表示されます。これは、パスワードをメモして安全な場所に保管しておくことを指示するものです。



11 もう一度 **Enter** キーを押します。

12 「Exit」をクリックし、次に「Restart」をクリックします。

これで、スーパーバイザー・パスワードは変更されました。ThinkPad が再起動します。

スーパーバイザー権限による始動パスワードの消去

スーパーバイザー・パスワードを知っていれば、(始動パスワードを知らなくても) 始動パスワードを消去することができます。

1 **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。

パスワード・プロンプトが表示されます。

2 スーパーバイザー・パスワードを入力します。

「Easy-Setup」メニューが表示されます。

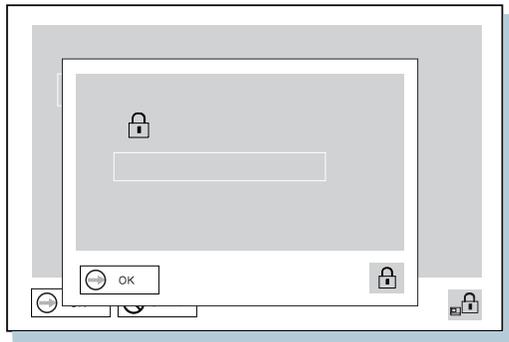
3 メニューの「Password」を選択します。

4 メニューの「Power on」を選択します。

5 スーパーバイザー・パスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。

6 **Enter** キーを押します。

「パスワード確認」ウィンドウが表示されます。



7 もう一度 **Enter** キーを押します。

8 「Exit」をクリックし、次に「Restart」をクリックします。

ThinkPad が再起動します。これで、始動パスワードは消去されました。

パーソナライゼーション・エディターの使用

パーソナライゼーション・エディターを使うと、ThinkPad の電源をオンにするたびに、名前や住所などの個人情報を表示できます。この機能は、複数の ThinkPad が使用されている場所で個々の ThinkPad を識別したり、盗難から防止するのに役立ちます。

パーソナル・データの入力

パーソナライゼーション機能によるパスワード・プロンプト画面には、パーソナル・データ領域 **1** と背景のビットマップ領域 **2** の 2 つの領域があります。



「パーソナライゼーション・エディター」で名前、住所、および会社名を登録する手順は、次のとおりです。



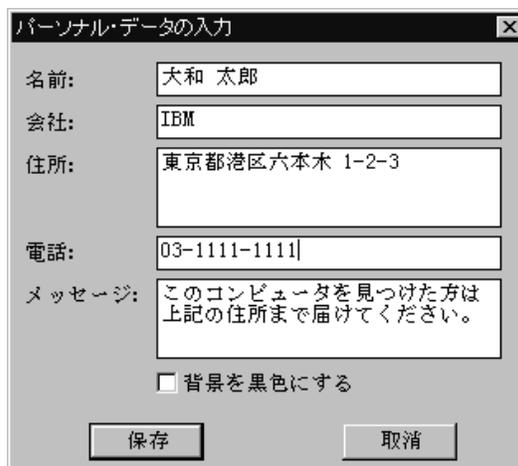
この情報を表示するには、始動パスワードをあらかじめ設定しておく必要があります。

- 1 ThinkPad の電源をオンにします。
- 2 ディスケット・ファクトリーを使って、「ユーティリティー・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」を作成します。(詳細情報
→ 33ページの『ソフトウェアの再設定』)
- 3 「ユーティリティー・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」をディスク・ドライブに入れます。
- 4 次の手順で、「パーソナライゼーション・エディター」をオープンします。
 - a) 「スタート」ボタンをクリックします。
 - b) マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「パーソナライゼーション・エディター」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- 5 「パーソナル・データ」をクリックし、ボックス内に必要な情報を入力します。「OK」をクリックして、データを保管します。



背景のビットマップを変更する場合は、ステップ 6 に進みます。変更しない場合は、ステップ 10 (106ページ) に進みます。

- 6 「パーソナライゼーション・エディター」ウィンドウで「背景」を選択します。

Windows の「ペイント」が自動的にオープンします。

- 7 イメージを作成したり、背景に色を付けたりします。

ビットマップ・サイズは、160x100 ピクセルにしてください。サイズを変更するには、「変形」を選択してから、「キャンパスの色とサイズ」を選択します。「幅」を 160 に、「高さ」を 100 に、「単位」をピクセルに指定し、「OK」を押します。

- 8 「ファイル」から「名前を付けて保存」を選択し、作成した図形を「ユーティリティ・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」に、ファイルの種類を 16 色のビットマップに指定して保存します。



画面の全画面の大きさを確認したい場合は、「プレビュー」を選択してください。

- 9** **Enter** キーを押して、直前のウィンドウに戻ります。
- 10** システムを終了させ、ThinkPad の電源をオフにします。
- 11** 「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」をディスクレット・ドライブに入れ、ThinkPad の電源をオンにします。
- 12** 「メイン・メニュー」画面で「パーソナライゼーション・データの更新」を選択し、画面の指示に従います。
これで設定したパーソナル・データは「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」から ThinkPad の不揮発性メモリーに格納されます。
- 13** データを保管したら、ThinkPad の電源をオフにします。
- 14** パスワードが設定されていない場合は、設定してください。
詳細については、「ヘルプ」をクリックしてください。

入力した情報は、次に ThinkPad の電源をオンにしたときから表示されます。

パーソナル・データの削除

パーソナル・データを削除し、初期値のパスワード・プロンプトに戻す手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにします。
- 2** 「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」のバックアップ・コピーをディスクレット・ドライブに入れ、ThinkPad の電源をオンにします。
- 3** 「メイン・メニュー」画面で「パーソナライゼーション・データの削除」を選択し、画面の指示に従います。
- 4** データを更新したら、ThinkPad を再起動します。

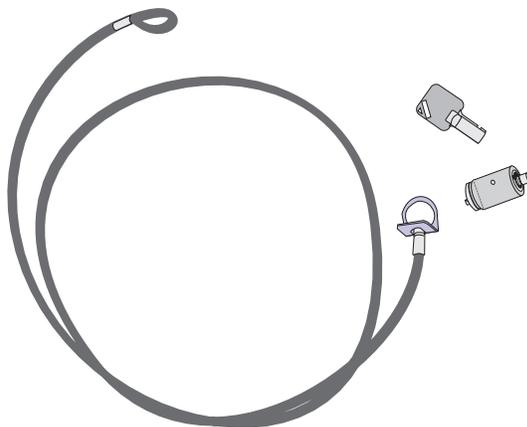
ロック機能の使用

ThinkPad の不正使用防止のため、ThinkPad に市販のセキュリティー・システム・ロックを取り付けることができます (セキュリティー・システム・ロックは付属していません。ThinkPad に対応したものをご用意ください)。

ロックの鎖を安全で動かない物体に固定し、次にセキュリティー・システム・ロックを ThinkPad のキーホールにつなぎます。セキュリティー・システム・ロックに付属の説明書を参照してください。

キーホールの位置の説明

→ 4 ページ。



セキュリティー・システム・ロック装置とセキュリティー機能の評価、選択、実装は、お客さまの責任で行っていただきます。IBM では、その機能性、品質、性能についての言及、評価、保証は行いません。

セキュリティーねじの使用

ThinkPad に付属のセキュリティーねじを使用して、ハードディスク・ドライブなどのデバイスを簡単に取り外せないようにすることができます。



セキュリティーねじ

コイン型ねじをセキュリティーねじに取り替える手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにしてから、AC アダプターやケーブル類をすべて ThinkPad から取り外します。
- 2** コインを用いてコイン型ねじを取り外し、セキュリティーねじを取り付け、2.5 mm の六角レンチで締めます (六角レンチは付属していません。別途ご用意ください)。
- 3** AC アダプターを接続し、ThinkPad の電源をオンにします。

ヒントおよび制限事項	111
ハードディスク・ドライブの使用	115
拡張ユニットの使用	115
拡張ユニットへのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング (Windows 95 および Windows 98 の場合のみ)	115
拡張ユニットでの PC カードの使用	116
汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用	116
DVD ドライブの使用	116
PC カードの使用	116
2 枚目の CardBus カードの使用	117
マイクロホンの使用	118
問題判別ガイド	119
問題判別表	120
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	122
エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題	129
入力装置の問題	129
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	131
液晶ディスプレイ (LCD) の問題	134
インジケータの問題	135
バッテリーの問題	135
ハードディスク・ドライブの問題	136
CD-ROM ドライブの問題	137
DVD ドライブの問題	138
赤外線通信の問題	139
オーディオまたは電話機能の問題	141
汎用シリアル・バス (USB) の問題	142
PC カードまたは内蔵モデムの問題	142
その他の PC カードの問題	143
拡張ユニットまたはセレクトベースの問題	147
プリンターの問題	148
外付けディスプレイの問題	149
TV の問題	152
その他のオプションの問題	153
ソフトウェアの問題	155

その他の問題	156
ThinkPad のテスト	157

ヒントおよび制限事項

ここではヒントおよび制限事項について説明します。



Windows 98 の場合 :

- Windows 98 では、サスペンド・モードに入る時間および通常の操作に戻る時間が、Windows 95 の場合よりも長くかかります。このパフォーマンスの差は、Windows 98 の設計によるものであり、ThinkPad の設計によるものではありません。
- 本書には、スタンバイ・モード、サスペンド・モード、およびハイバネーション・モードの3つのパワー・モードについて説明してあります。これらのモードに入る場合は、それぞれ次のキーの組み合わせを使用します。

- **Fn** + **F3** スタンバイ・モード
- **Fn** + **F4** サスペンド・モード
- **Fn** + **F12** ハイバネーション・モード

ThinkPad は、上記以外の方法でもサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードに入ることができます。たとえば、「**Windows 98**」の画面の左下にある「スタート」ボタンをクリックして、「**Windows** の終了」メニューで「スタンバイ」を選択しても、サスペンド・モードに入ることができます。また、「省電力のプロパティ」ウィンドウで「システム・スタンバイ・タイマー」を設定して、サスペンド・モードに入る場合のタイムアウトを指定することもできます。



Windows 98 の画面の「スタンバイ」という用語は、本書で使用されている「スタンバイ・モード」という用語とは意味が異なります。

詳細情報 → [ステップ・アップ・ガイド](#)



Windows 95 の場合 :

- ウルトラスリムベイ へのドライブの取り付け時に、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブのプロパティ設定値のため、「ThinkPad 機能設定」プログラム内で指定したタイムアウト期間の終了後も、サスペンド・モードまたはハイバネ

ーション・モードに入れない場合があります。サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードを使用する場合は、次の手順に従って CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブのプロパティを変更してください。

1. 「スタート」ボタンをクリックしてから、マウス・ポインターを、「設定」、「コントロール パネル」の順に移動します。その後、「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「システム」をダブルクリックします。
3. 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「**CD-ROM**」をダブルクリックします。
4. 「**CD-ROM**」の下の CD-ROM ドライブ名または DVD-ROM ドライブ名をクリックしてから、「プロパティ」ボタンをクリックします。
5. 「設定」タブをクリックし、「オプション」の中の「自動挿入」のチェック・ボックスをクリックして、チェック・マークを外します。
6. 「OK」をクリックして、ThinkPad を再起動します。



Windows NT の場合：

- Windows NT 4.0 の場合、ドライブが NTFS 形式でフォーマットされていると、ハイバネーション・モードはサポートされません。
- PC カードを PC カード・スロットに差し込んだ場合は、「コントロール パネル」の「PC カード[PCMCIA]デバイス」ウィンドウのカード情報のリストに「X」マークが付いていることがあります。ただし、「X」がいずれかの機能に影響することはありません。



Windows 3.1 の場合：

- メモリー不足またはメモリー・エラーが発生した場合は、次のようにしてください。
 1. CONFIG.SYS ファイルから不必要なドライバーを削除します (たとえば、プリンターを使用していない場合は、プリンター・ドライバーを削除します)。
 2. DEVICEHIGH 構文を使って、UMB (アップパー・メモリー・ブロック) を再構成します。
 3. DOS の複数 CONFIG 機能を使用します (DOS に付属の説明書を参照)。

DOS コマンドの MEM /C を使って、DOS のメモリー使用状況を定期的に調べます。

- 256 MB を超えるメモリーを取り付けている場合は、SYSTEM.INI ファイルの [386Enh] セクションを確認し、次のどちらかを実行します。
 - PageOverCommit 行がファイルにある場合は、その値が 3 であるかどうか確認します (3 でない場合は、3 に変更します)。
 - PageOverCommit 行がファイルにない場合は、PageOverCommit=3 を追加します。



PageOverCommit 値が 2 または 1 である可能性があります。

この値を変更または追加したら、Windows 3.1 を終了し、ThinkPad の電源をオフにします。その後 5 秒以上待ってから、ThinkPad の電源を再度オンにします。

PageOverCommit 値の詳細情報 → Windows 3.1 の資料



OS/2 Warp の場合 :

- HPFS (ハイパフォーマンス・ファイル・システム) 形式を使ってドライブをフォーマットし、システムに合計 64 MB を超えるメモリーが装備されている場合、ハイパーネーション・モードはサポートされません。
- 「ThinkPad 機能設定」プログラムを使って COM ポートを正しく設定したにもかかわらず COM ポートが作動しない場合は、次の手順に従ってください。
 1. 「システム設定」をオープンします。
 2. 「ハードウェア・マネージャ」を選択します。
 3. メニューからフォルダーを選択します。
 4. 「プロパティ」を選択します。
 5. 省略時のプルダウン・メニューから「ハードウェアを検出しない」を選択します。選択済みである場合は、設定値を変更します。
 6. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
 7. COM ポートを希望の値に設定します。
 8. ThinkPad を再起動します。

- 着信 FAX またはメールを受信する場合は、FAX アプリケーションのモデム設定値を次のどれかに設定する必要があります。

- ハードウェア FIFO 使用可能
- ハードウェア・フロー制御オン
- UART 16550A モデム

たとえば、OS/2 FaxWorks では、「ユーティリティ」、 「設定」、 「モデム・タイプ」、 および「**HW FIFO (16550A)** を使用」の順で選択します。

これらの設定値のどれかにモデムを設定していない場合は、サスペンド・モードで FAX や着信呼び出しを受けることができません。

- OS/2 用の PC カード・デバイス・ドライバーがなくても DOS 用の PC カード・デバイス・ドライバーがあれば、その PC カードは VDM (仮想 DOS マシン) 環境で使用できることがあります。



DOS の場合：

- メモリー不足またはメモリー・エラーが発生した場合は、次のようにしてください。
 1. Windows 3.1 に対する処置と同じ処置を試みます。
 2. WIN.INI ファイルから不必要なプログラムを削除します (たとえば、AC 動作のための FUELWIN など)。
- DOS 用の「ThinkPad 機能設定」プログラムは、DOS プロンプトから使用します。

DOS プロンプトに PS2 ? と入力すると、「ThinkPad 機能設定」のオンライン・ヘルプ画面が表示されます。

```
C:\>PS2 ?

(C) Copyright IBM Corp. 1993,1998. All rights reserved.
US Government Users Restricted Rights - Use, duplication
or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract
with IBM Corp.

構文: PS2 [Parameter1] [Parameter2] [パラメーター3]

[Parameter1]のリストを以下に示します。
'PS2 ? [Parameter]'とタイプすると、パラメーターの詳しい説明が表示されます。

1.省電力関係
```

次のようなバッチ・ファイルを作成して、自分の操作環境に合わせることもできます。次のバッチ・ファイルの例では、バッテリー動作時間が長くなるように設定しています。

```
@Echo Off

Rem サンプル:バッテリー使用時間を長くするためのパラメーターの設定。

Rem =====

PS2 PMode Custom DC           > Nul
PS2 LCd 3                     > Nul
PS2 DISK 3                    > Nul
PS2 POver 5                   > Nul
PS2 SPeed Fixed Slow          > Nul
PS2 IR Disable                > Nul
PS2 SErial OFF                > Nul
```

ハードディスク・ドライブの使用

Windows 3.1 または DOS 環境で使用できるハードディスク容量は、最大でも 7.9 GB までです。容量がそれよりも大きいハードディスク・ドライブを取り付けても、すべての容量を使用できるわけではありません。

拡張ユニットの使用

拡張ユニットを使用する場合の USB コネクタに関する考慮事項については、116 ページの『汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用』を参照してください。

拡張ユニットへのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング (Windows 95 および Windows 98 の場合のみ)

セレクトドック拡張ユニットに特定の PCI カード、PnP ISA カード、および PC カードが取り付けられているときは、ThinkPad をその拡張ユニットにホット・ドッキングしたりウォーム・ドッキングしたりすることができない場合があります。そのような場合は、システムを再起動してください。

拡張ユニットでの PC カードの使用

Windows 95、Windows NT、Windows 3.1、または DOS の環境で ThinkPad を使用している場合は、ThinkPad を拡張ユニットに接続した後で、PC カード・サポート・ソフトウェアをインストールする必要があります。すでに PC カード・サポート・ソフトウェアをインストール済みの場合は、いったんそれをアンインストールし、ThinkPad を拡張ユニットに接続してから、再インストールしてください。

汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用

ThinkPad をサスペンド・モードに入れようとして、その要求が拒否された場合、汎用シリアル・バス (USB) コネクタに接続されているデバイスが使用不可になる場合があります。このような場合は、汎用シリアル・バス (USB) デバイスのホット・アンプラグおよびホット・プラグを行ってください。

セレクトドック III 拡張ユニットの PCI カードについて

ThinkPad の汎用シリアル・バス (USB) コネクタの設定を使用可能にしている (省略時の設定) 場合は、セレクトドック III 拡張ユニットで PCI ビデオ・カードと PCI ネットワーク・カードを同時に使用しないようにします。これらのカードが両方とも取り付けられていると、システムが起動できなくなります。

セレクトドック III 拡張ユニットの汎用シリアル・バス (USB) コネクタの設定について

セレクトドック III の汎用シリアル・バス (USB) コネクタは、使用不可にしないでください。これを使用不可にした場合は、ホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング、あるいはホット・アンドドッキングまたはウォーム・アンドドッキングの操作中に、システムが停止するおそれがあります。このような場合は、システムを再起動してください。

DVD ドライブの使用

DVD ムービーやビジネス・プレゼンテーションなど、ビデオ作品が収められている DVD の表示中は、表示先を LCD から外付けディスプレイ (CRT) に切り替えないようにしてください。再生するための MPEG ファイルをオープンする前に、表示先を変更する必要があります。

PC カードの使用

- ThinkPad がスタンバイ・モードから通常の操作に戻った後は、拡張ユニットのスロットに入っている一部のネットワーク PC カードは、ホット・プラグお

よびホット・アンプラグの操作が実行できなくなります。システムを再起動すれば、この問題は解決します。

- PC カード・モデムを使用して通信する場合、つまり PC カード・スロットに PC カードを挿入している場合は、ThinkPad をサスペンド・モードにしたり、ハイバネーション・モードにしたり、「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしたりしないようにしてください。

注: ThinkPad をサスペンド・モードに入れたい場合は、まず次の手順で「PC カード (PCMCIA) プロパティ」ウィンドウで、PC カードを停止します。

1. 「スタート」をクリックし、マウス・ポインターを「設定」に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「PC カード (PCMCIA)」をダブルクリックします。
3. 停止するカードをリストから選択します。
4. 「停止」ボタンをクリックします。

通信用 PC カードは、PC カード・スロットから取り出し、後で再度入れ直しても、正しく作動しない場合があります。この場合は、ThinkPad を再起動する必要があります。

- CD-ROM ドライブをディスクット・ドライブと交換したあとで、PC カードを取り付け、その後 CD-ROM ドライブを再度取り付けた場合は、PC カードはリソースの割り当てが失われて、作動できなくなる場合があります。CD-ROM ドライブ (セカンダリー IDE) には常に IRQ 15 が使用されますが、CD-ROM ドライブをディスクット・ドライブと交換すると、IRQ 15 が空きになり、Windows 95 または Windows 98 では、それを新しい PC カードに割り当てます。したがって、CD-ROM が再度取り付けられても、IRQ 15 をセカンダリー IDE に割り当てられないためです。

2 枚目の CardBus カードの使用

ThinkPad 内に CardBus カードがすでに構成されている場合は、デバイス・マネージャを使用して、2 枚目の CardBus カードを手動で構成する必要があります。デバイス・マネージャを表示するには、「コントロール パネル」の「システム」アイコンをクリックします。

マイクホンの使用

ThinkPad で外付けマイクホンを使用する場合は、ThinkPad に対応した市販のマイクホンを使用してください。コンデンサー・マイクホンなど、マイクホンによっては、バッテリーが必要です。そのマイクホンに付属の説明書を参照してください。

マイクホン/ライン入力ジャックは、次のタイプのマイクホンをサポートしません。

- ダイナミック・マイクホン
- 電池を使用するタイプのコンデンサー・マイクホン

コンデンサー・マイクホンを使用したい場合は、それ自体に電源を備えているタイプを使用する必要があります。

ThinkPad のマイクホン/ライン入力ジャックは、マイクホン入力とライン入力のどちらかをサポートしますが、両方を同時にはサポートしていません。次の手順で、使用しない機能をミュートにする必要があります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックします。
- 2 マウス・ポインターを、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」、「ボリューム コントロール」の順に移動します。
「Master Out」ウィンドウが表示されます。
- 3 マウス・ポインターを「オプション」メニューに移動してから、「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「表示するコントロール」リストで「**LINE IN**」または「**MIC**」のチェックボックスにチェック・マークを付けて、「**OK**」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウで選択したボリューム・コントロールが、「Master Out」ウィンドウに表示されます。
- 5 「**LINE IN**」と「**MIC**」のどちらか、使用しない方の「ミュート」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

問題判別ガイド

次の表で、問題の判別方法と解決方法を示します。

ピーブ音が鳴った場合、メッセージが表示された場合、または機能に関する問題が発生した場合:

- | | | |
|--|---|------------------------|
| 1 表から症状を見付け、問題の解決を試みます。 | ➔ | 120ページの『問題判別表』 |
| 2 問題を解決できない場合は、テストを実行し、ハードウェアとデバイス・ドライバーに問題がないことを確認します。 | ➔ | 157ページの『ThinkPad のテスト』 |
| 3 エラー・コードを記録して、ThinkPad の修理を依頼します。 | ➔ | 37ページの『サービス体制』 |

ThinkPad 内のソフトウェアを誤って消してしまったり、損傷してしまった場合:

- | | | |
|--|---|---|
| 導入済みアプリケーション CD、リカバリー CD、またはディスクット・ファクトリーを使用して回復します。 | ➔ | 33ページの『導入済みアプリケーション CD の使用』、33ページの『Product Recovery CD-ROM の使用』、および33ページの『ディスクット・ファクトリーの使用』 |
|--|---|---|

問題判別表

ThinkPad にエラーが発生すると、通常、電源をオンにしたときに、メッセージやエラー・コードが表示されたり、ビープ音が鳴ります。問題判別表から発生した問題を探し、その問題が見つかった場合は、対応するページに進み、指示されている処置を実行します。『問題判別表』では、問題全般を扱っているので、説明によってはご使用の ThinkPad に該当しない場合や、状況に適合しない場合があります。ご使用の ThinkPad の機能やオプションを本書または付属品チェックリストと照らし合わせてください。

問題判別表	ページ
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	122
エラー・コードや画面上のメッセージで表示されない問題	129
入力装置の問題	129
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	131
LCD の問題	134
インジケータの問題	135
バッテリーの問題	135
ハードディスク・ドライブの問題	136
CD-ROM ドライブの問題	137
DVD-ROM ドライブの問題	138
赤外線通信の問題	139
オーディオまたは電話機能の問題	141
汎用シリアル・バス (USB) の問題	142
PC カードまたは内蔵モデムの問題	142
その他の PC カードの問題	143
拡張ユニットまたはポート・リプリケータの問題	147
プリンターの問題	148
外付けディスプレイの問題	149
TV の問題	152
その他のオプションの問題	153

問題判別表	ページ
ソフトウェアの問題	155
その他の問題	156

エラー・コードまたは画面上のメッセージ

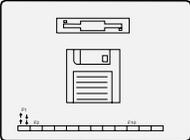
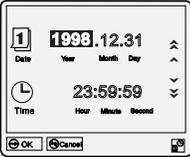
注: この表の中の x は、任意の文字を表します。

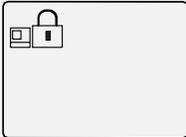
メッセージ	原因と処置
I9990301 I9990302 I9990305 (ハードディスク・ドライブを誤って接続すると、これらのエラー・コードが表示される場合があります。)	ThinkPad が始動ドライブを見付けることができません。次の処置をとってください。 <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad の電源をオフにします。2. [F1] キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにし、Easy-Setup を始動します。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで [F1] キーを押し続けます。3. 「Start up」アイコンを選択します。4. 「Power-on」アイコンを選択します。始動優先順位を設定できない場合は、ThinkPad の修理を依頼します。5. 始動優先順位ボックスの装置を調べます。始動優先順位ボックス内に省略時のドライブがありますか? 「いいえ」ステップ 5 に進んでください。 「はい」「Reset」アイコンを選択してください。6. オペレーティング・システムはインストールされていますか? 「はい」ステップ 8 に進んでください。 「いいえ」ThinkPad にオペレーティング・システムをインストールしてください。7. オペレーティング・システムのインストールが終わったら、ThinkPad の電源をオフにします。8. ThinkPad の電源をオンにします。 それでも同じ画面が表示される場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
I99xxxxx (上記の I999030x エラー以外のエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
111 (拡張ユニットのエラー)	ポート・リプリケーターまたは拡張ユニットを使用している場合は、それをいったん取り外してから、接続し直します。 それでも問題が解決しない場合は、ポート・リプリケーターまたは拡張ユニットに付属の資料を参照してください。

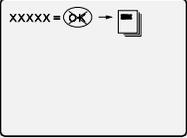
メッセージ	原因と処置
<p>158 (スーパーバイザー・パスワード・エラー)</p>	<p>ハードディスク・ドライブが別のスーパーバイザー・パスワードで取り付けられているか、ハードディスク・パスワードが設置されていません。</p> <p>エラーを生じているハードディスク・ドライブは、次のどれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad のメイン・ベイ • ウルトラスリムベイ • ThinkPad に接続された拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイ <p>問題の解決には、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エラーを生じていないハードディスク・ドライブが、ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ベイに取り付けられているかどうか確認します。 <p>ハードディスク・ドライブが拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイに取り付けられている場合は、ThinkPad の電源をオフにし、そのハードディスク・ドライブを ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ベイに取り付け直します。その上で、ThinkPad の電源を再度オンにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. Enter キーを押します。 3. 始動パスワード・プロンプトでスーパーバイザー・パスワードを入力します。 <p>00158 エラー・メッセージが再度表示された場合は、Enter キーを押して、Easy-Setup の「Password」サブメニューに進みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 「Supervisor」アイコンを選択してから、Enter キーを押します。 <p>スーパーバイザー・パスワードと同じパスワードが、メイン・ハードディスク・ベイのハードディスク・パスワードとして設定されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ThinkPad を再起動します。

メッセージ	原因と処置
159 (スーパーバイザー・パスワード・エラー)	<p>ハードディスク・パスワードがスーパーバイザー・パスワードと異なっています。エラーを生じているハードディスク・ドライブは、次のどれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ドライブ • ウルトラスリムベイ • ThinkPad に接続された拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイ <p>問題の解決には、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハードディスク・ドライブ・パスワードとスーパーバイザー・パスワードが異なっているかどうか確認します。 ハードディスク・ドライブが拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイに取り付けられている場合は、ThinkPad の電源をオフにし、そのハードディスク・ドライブを ThinkPad 本体のメイン・ベイに取り付け直します。ThinkPad の電源を再度オンにします。 2. ハードディスク・パスワード・プロンプトでハードディスク・パスワードをスーパーバイザー・パスワードに変更します。
16x または 17 x (未定義の日付または構成エラー)	画面の指示に従ってください。
174 (デバイスの構成エラー)	ハードディスク・ドライブおよびウルトラスリムベイ のデバイスが、しっかり取り付けられていることを確認します。それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
175、177、178 (EEPROM エラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
183 (無効なパスワードのエラー)	スーパーバイザー・パスワード・プロンプトで入力したパスワードが無効です。スーパーバイザー・パスワードを確認します。
184 (無効なパスワードのエラー)	<p>入力したパスワードは無効です。</p> <p>ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにして、正しいパスワードを入力してください。</p>
185 (始動優先順位エラー)	始動優先順位が無効です。ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにして、Easy-Setup で始動優先順位を設定し直します。
190 (極めて少量のバッテリー残量のエラー)	<p>バッテリー残量がほとんどなくなったため、ThinkPad の電源がオフになりました。</p> <p>ThinkPad に AC アダプターを接続しバッテリー・パックを充電するか、フル充電したバッテリー・パックに交換してください。</p>
192 (冷却ファンのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。

メッセージ	原因と処置
195 (ハイバネーションのエラー)	<p>ハイバネーション・モードに入ったときと出たときでシステム構成が異なっているため、ThinkPad は通常の操作状態に戻ることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad がハイバネーション・モードに入る前の状態に、システム構成を変更してください。 • メモリー・サイズが変更されている場合は、ハイバネーション・ファイルを作り直してください。 <p>拡張ユニットを使用している場合は、ハイバネーション・モードに入る前に、ThinkPad を拡張ユニットから取り外しておきます。</p>
196 (ハイバネーションのエラー)	<p>ThinkPad がハイバネーション・ファイルを読み取ることができません。</p> <p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
225 (サポートされていないメモリー)	<p>取り付けられた DIMM はサポートされていません。</p> <p>注: たとえば、EDO DRAM をサポートしていない ThinkPad に EDO DRAM を取り付けようとした場合に、このエラーは発生します。</p>
2xx (メモリーのエラー)	<p>DIMM オプションが正しく取り付けられているか確認してください。</p>
30x (キーボードのエラー)	<p>システム・キーボードまたは外付けキーボードの上に何も置かれていないことを確認してください。ThinkPad の本体および接続されているすべてのデバイスの電源をオフにしてください。まず、ThinkPad の電源をオンにしてから、次に、接続されているデバイスをオンにします。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、次の処置をとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外付けキーボードが接続されている場合は、次の処置をとってください。 <ul style="list-style-type: none"> – ThinkPad の電源をオフにし、外付けキーボードを外してから、ThinkPad の電源をオンにします。システム・キーボードが正しく作動するかどうかを確認します。正しく作動する場合は、外付けキーボードの修理を依頼します。 – 外付けキーボードが正しいコネクタに接続されていることを確認します。 • Easy-Setup の「Test」サブメニューから「Start」アイコンを選択して、ThinkPad をテストしてください。 <ul style="list-style-type: none"> – テスト中に ThinkPad が停止した場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
6xx (ディスクのエラー)	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
11xx (シリアル・ポートのエラー)	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

メッセージ	原因と処置
12xx (赤外線のエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
17xx (ハードディスクのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
1801 (サポートされていないポート・リプリケーターのエラー)	接続されているポート・リプリケーターがサポートされていません。
24xx (ビデオのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
808x (PC カード・スロットのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
860x (ポインティング・デバイスのエラー)	マウスまたは外付けキーボードが正しく接続されているかどうか確認します。正しく接続されている場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
「ディスク」プロンプトと「F1」プロンプト 	ハードディスク・ドライブが正しく取り付けられているかどうか確認します。 または、ディスク・ドライブに始動可能なディスクが正しく (ラベル面を上にし、金属シャッター部分を奥にして) 挿入されているかどうか確認します。 上記の項目が正しい場合は、 [F1] キーを押します。それでもこのプロンプトが消えない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
エラー 163 の後、「Date and Time」画面が表示される。 	ThinkPad に日付と時刻が設定されていません。 数字を入力するか、▲または▼をクリックして日付と時刻を設定し、「OK」をクリックしてください。 始動パスワードとスーパーバイザー・パスワードの両方が設定されている場合は、次の処置を行います。 <ol style="list-style-type: none"> ThinkPad の電源をオンにします。 エラー・コードの後にパスワード・プロンプトが表示されます。 始動パスワードではなく、スーパーバイザー・パスワードを入力します。 エラーの画面が表示されます。 「OK」をクリックするか、[Enter] キーを押します。 次に表示される画面で日付と時刻を設定して、[Enter] キーを押します。 システムが再起動します。 注: 始動パスワードが拒否された場合は、Easy-Setup を使用して始動パスワードを設定し直します。

メッセージ	原因と処置
<p>始動パスワード・プロンプト</p> 	<p>始動パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードが設定されています。ThinkPad を始動するには、正しいパスワードを入力して Enter キーを押してください (94 ページを参照)。</p> <p>始動パスワードが拒否される場合、スーパーバイザー・パスワードが設定されている可能性があります。スーパーバイザー・パスワードを入力して、Enter キーを押してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>ハードディスク・パスワード・プロンプト</p> 	<p>ハード・ディスク・パスワードが設定されています。ThinkPad を起動するには、正しいパスワードを入力して Enter キーを押してください (94 ページを参照)。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>「Test」サブメニュー</p> 	<p>「Start」アイコンを選択し、画面の指示に従ってThinkPad をテストしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テストを完了できなかった場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。 • テストでは問題が検出されなかったにもかかわらず、問題がある場合は、『問題判別表』にその問題の記載があるかどうか確認します。 • テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。
	<p>このメッセージは、IDE チャンネルを 2 から 3 へ変更したあとに ThinkPad を再起動すると表示されます。ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってから、電源を再度オンにします。</p>
<p>POST エラー・プロンプト</p> 	<p>POST 中にエラーが検出されました。Enter キーを押してから、「Test」メニューで「Start」を選択し、テストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

メッセージ	原因と処置
<p>エラー・プロンプト</p> 	<p>ThinkPad の電源をオフにして Easy-Setup を始動し、「Test」を選択して ThinkPad のテストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p> <p>[F1] キーを押せば、エラーを無視してオペレーティング・システムを起動することができます。</p>
<p>DOS 全画面が小さく見える</p> 	<p>640x480 の解像度 (VGA モード) のみをサポートする DOS アプリケーションを使用すると、画面イメージが多少ゆがんで見えたり、ディスプレイ・サイズより小さく見える場合があります。これは、ThinkPad が他の DOS アプリケーションとの互換性を保っているためです。画面イメージを拡大して実際の画面と同じサイズにするには、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「LCD」() をクリックしてから、「スクリーン・エクспанション」機能を選択します (イメージは多少ゆがんで見える場合があります)。</p> <p>注: 画面拡大機能を備えた ThinkPad の場合は、[Fn] + [F8] キーを使用して、これと同じ処置を実行することができます。</p>
<p>『問題判別表』にない画面やメッセージ</p>	<p>ThinkPad の電源をオフにして Easy-Setup を始動し、「Test」を選択して ThinkPad のテストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p> <p>Easy-Setup を始動できない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>xxxxx KB OKが表示されて、ThinkPad が停止する。</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題

問題	原因と処置
<p>画面に何も表示されず、ピープ音も鳴らない。</p> <p>注：ピープ音が鳴ったかどうか確かでない場合は、ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、もう一度オンにし、ピープ音が鳴るかどうか確認します。外付けディスプレイを使用している場合は、149ページの『外付けディスプレイの問題』に進んでください。</p>	<p>始動パスワードが設定されている場合は、任意のキーを押して始動パスワード・プロンプトを表示させ、正しいパスワードを入力してから Enter キーを押してください (94ページを参照)。</p> <p>始動パスワードが表示されない場合は、ThinkPad の輝度調節つまみが最小輝度に設定されている可能性があります。輝度を正しく調節してください。</p> <p>それでもなお画面に何も表示されない場合は、以下の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリー・パックは正しく取り付けられていますか。 • AC アダプターが ThinkPad に接続されており、電源コードがコンセントに差し込まれていますか。 • ThinkPad の電源がオンになっていますか。(確認のため、電源スイッチをもう一度オンにしてください。) <p>上記の項目に問題がないにもかかわらず画面に何も表示されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>画面に何も表示されず、ピープ音が鳴り続けるか、ピープ音が 2 回以上鳴る。</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>カーソルだけが表示される。</p>	<p>オペレーティング・システムをインストールし直してから、ThinkPad の電源をオンにしてください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

入力装置の問題

問題	原因と処置
<p>ThinkPad が省電力機能のどれかから通常の操作状態に戻ったとき、マウス・ポインターが動かない。</p>	<p>Windows を電源管理機能 (APM) オプション付きでインストールしたとき、別冊の <i>ステップ・アップ・ガイド</i> の指示どおり正しく行ったかどうかを確認してください。</p>

問題	原因と処置
ThinkPad のキーボードの全部または一部が作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad がサスペンド・モードから通常の操作状態に戻った直後にこの問題が発生した場合は、始動パスワードを入力してください。始動パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力が必要です。 • 外付けキーボードが接続されているときは、ThinkPad 本体のキーボードの数値キーパッドは作動しません。これは、故障ではありません。 • 数値キーパッドまたはマウスが外付けで接続されている場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. ThinkPad の電源をオフにします。 2. 外付け数値キーパッドまたはマウスを取り外します。 3. ThinkPad の電源をオンにし、もう一度キーボードを操作します。 • これでキーボードの問題が解決した場合は、数値キーパッド、外付けキーボード、またはマウスの接続をチェックします。 <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
ThinkPad の電源をオンにしたとき、または通常の操作状態に戻ったとき、マウス・ポインターがドリフト (浮動) する。	<p>通常の操作状態でトラックポイントを使わない場合に、マウス・ポインターがドリフトする場合があります。これは、トラックポイントの特性の 1 つであって、故障ではありません。ドリフトは、次の場合に数秒間発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad の電源をオンにしたとき。 • ThinkPad が通常の操作状態に戻ったとき。 • トラックポイントを長時間使用し続けたとき。 • 環境温度が変化したとき。
「トラックポイントのプロパティ」ウィンドウ内の設定を変更した後で、マウス・ポインターがしばらくの間動かなくなった。	<p>これは、マウス・ポインターの通常の特徴です。数秒間待てば、マウス・ポインターは通常の状態に戻ります。</p>
マウスまたはポインティング・デバイスが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> • 「ThinkPad 機能設定」プログラムでポインティング・デバイス・ケーブルが使用可能になっているかどうか確認します。 • マウスまたはポインティング・デバイスのケーブルが、ThinkPad にしっかりと正しい場所に接続されているか確認してください。 • トラックポイントを操作してみてください。トラックポイントが作動する場合は、マウスに問題がある可能性があります。 • IBM PS/2 マウスと互換性のないマウスを使用する場合は、「ThinkPad 機能設定」プログラムを使ってトラックポイントを使用不可にしてください。 <p>注: 詳細については、マウスに付属のマニュアルを参照してください。</p>
マウス・ボタンが作動しない。	<p>マウス・ドライバーをスタンダード PS/2 ポート・マウスに変更してから、PS/2 TrackPointをインストールし直してください。このドライバーのインストール方法については、<i>ステップ・アップ・ガイド</i>を参照してください。</p>
スクロールまたは拡大表示機能が働かない。	<p>「マウスのプロパティ」の「情報」タブをクリックして、「PS/2 トラックポイント」ドライバーがインストールされているかどうか確認します。</p>

問題	原因と処置
英文字を入力したのに数字が表示される。	ナム・ロック機能が有効になっています。ナム・ロック機能を解除するには、 Shift キーを押しながら NumLk キーを押してください。
数値キーパッドの全部または一部が作動しない。	数値キーパッドが ThinkPad に正しく接続されているか確認してください。
外付けキーボードの全部または一部が作動しない。	<p>外付けキーボードを使用する場合は、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad に接続する必要があります。次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キーボード/マウス・コネクタが ThinkPad に正しく接続されていますか。 • キーボード・コネクタがキーボード/マウス・コネクタの正しい側に接続されていますか。 <p>上記の項目に問題がない場合は、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad から取り外し、ThinkPad 本体のキーボードが正しく作動するかどうか確認します。ThinkPad 本体のキーボードが作動する場合は、キーボード/マウス・コネクタまたは外付けキーボードの修理を依頼してください。</p>

サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題

問題	原因と処置
ThinkPad が自動的にサスペンド・モードに入る。	プロセッサの温度が許容の温度を超えると、ThinkPad は自動的にサスペンド・モードに入ります。これは、故障ではありません。
POST の直後に ThinkPad がサスペンド・モードに入る (サスペンド・インジケータがオンになる)。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリー・パックは充電されていますか。 • 環境温度が許容される範囲内にありますか。付録 A を参照してください。 <p>上記の項目に問題がない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
エラー 190 の後、ThinkPad の電源がただちにオフになる。	バッテリー電源の残量が少なくなっています。ThinkPad に AC アダプターを接続するか、フル充電したバッテリー・パックに交換してください。
通常の操作状態に戻ったときに LCD に何も表示されません。	<p>ThinkPad がサスペンド・モードの間に、外付けディスプレイが取り外されなかったかどうか確認します。ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときに、外付けディスプレイを取り外さないでください。</p> <p>ThinkPad が通常の操作状態に戻ったときに外付けディスプレイが接続されていないと、LCD には何も表示されません。この制限事項は、いずれの解像度値も同様です。</p>

問題	原因と処置
ThinkPad がサスペンド・モードから戻らないか、サスペンド・インジケーターがオンになったままで、ThinkPad が作動しない。	<p>バッテリー・パックが空になると、ThinkPad は自動的にサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードに入ります。次のどちらかの処置をとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> フル充電したバッテリー・パックに交換してから、[Fn] キーを押します。 ThinkPad に AC アダプターを接続してから、[Fn] キーを押します。
ThinkPad が、サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードにならない。	<p>サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードを使用不可にするオプションを、Thinkpad で選択していないかどうか確認してください。詳細情報 ➡ ステップ・アップ・ガイド</p>
Windows 98 または Windows NT のもとでタイマーによる設定どおりに、ThinkPad がサスペンド・モードに入らない。	<p>Windows 98 の場合：</p> <p>Windows 98 の一般的な CD-ROM または DVD ドライバーは、3 秒ごとに内蔵 CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブにアクセスして、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブに CD-ROM が入っているかどうか確認します。これにより、ThinkPad がタイムアウト後にもサスペンド・モードに入ることができません。</p> <p>このようにならないようにするには、次の処置を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「スタート」ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 「システム」をダブルクリックします。 「デバイス マネージャ」タブをクリックします。 「CD-ROM」の「+」マークをクリックします。 CD-ROM 名または DVD 名をダブルクリックします。 「設定」タブをクリックします。 「自動挿入」のチェック・マークを外します。 <p>これで、Windows 98 が CD-ROM または DVD の挿入を自動的に検出することはなくなります。</p> <p>Windows NT の場合：</p> <p>CD-ROM AutoRun 機能を使用可能にした場合は、ThinkPad がタイマーによってサスペンド・モードに入ることはありません。この状態でタイマーを使用可能にするには、次のようにして、レジストリーの構成情報を編集します。</p> <pre>HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Cdrom\</pre> <p>Autorun: 0x1 → Autorun: 0</p>

問題	原因と処置
<p>ThinkPad が [Fn] キー+ [F12] キーの組み合わせでハイバネーション・モードにならない。</p>	<p>次の手順に従って、ハイバネーション・モードを使用可能にしてください。</p> <p>Windows 98 の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「省電力」 () をクリックします。 3. 「ハイバネーション」タブをクリックします。 4. 「ハイバネーションを使用可能にする」ボタンをクリックします。 5. 「すぐ作成する」ボタンをクリックします。 <p>IBM 通信 PC カードのいずれか 1 つを使用している場合は、ThinkPad はハイバネーション・モードに入ることができません。</p> <p>ハイバネーション・モードに入るには、通信プログラムを停止してから、PC カードを取り出すか、「コントロール パネル」を使用して PC カード・スロットを使用不可にします。</p> <p>Windows NT の場合：</p> <p>注: Windows NT でハイバネーション・モードを使うには、ハードディスクを FAT 形式でフォーマットする必要があります。Windows NT の省略時の形式である NTFS 形式でハード・ディスクをフォーマットすると、ハイバネーション・モードは使用できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「省電力」 () をクリックします。 3. 「サスペンド/レジューム・オプション」を () クリックします。 4. 「ハイバネーションを使用可能にする」をクリックします。 5. 「OK」をクリックします。 <p>IBM 通信 PC カードを使用している場合、ThinkPad はハイバネーション・モードに入ることができません。</p> <p>ハイバネーション・モードに入るには、通信プログラムを停止してから、PC カードを取り出すか、「コントロール パネル」を使用して PC カード・スロットを使用不可にします。</p>

液晶ディスプレイ (LCD) の問題

問題	原因と処置
画面が判読不能またはゆがんでいる。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ディスプレイ・デバイス・ドライバーが正しくインストールされているかどうか。• ディスプレイの解像度と色数は正しく設定されているかどうか。• ディスプレイのタイプが正しいかどうか。 <p>Windows 98 環境で確認する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動して、「コントロール パネル」をクリックします。2. 「画面」アイコンをダブルクリックします。3. 「設定」タブを選択します。4. 色数と解像度が正しく設定されているかチェックします。5. 「詳細」ボタンをクリックします。6. 「アダプタ」タブを選択します。 NeoMagic MagicMedia 256AV が表示されているかどうか確認します。7. 「モニタ」タブをクリックします。 情報が正しいかどうか確認します。
画面に間違っただ文字が表示される。	<p>オペレーティング・システムとアプリケーション・プログラムが正しくインストールされているか確認してください。</p> <p>インストールと構成が正しい場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
電源スイッチをオフにしても画面が消えない。	<p>ThinkPad の電源遮断スイッチをボールペンの先などで押して電源をオフにしてから、もう一度電源をオンにします。</p>
ThinkPad の電源をオンにするたびに、画面上に見えないドットや、色の違うドット、または明るいドットが表示される。	<p>これは TFT テクノロジーの本質的な特性の 1 つです。ThinkPad のディスプレイには、複数の TFT (Thin-Film Transistor) が使用されています。画面上には見えないドット、色が違うドット、または明るいドットが少量存在していることがあります。</p>

インジケータの問題

問題	原因と処置
バッテリー・パックが取り付けられているのに、バッテリー残量インジケータが消えている。	バッテリー・パック内の過電流保護装置が働いています。数時間待って、もう一度バッテリー・パックを使ってみてください。それでもインジケータが点灯しない場合は、バッテリー・パックを交換するか、ThinkPad の修理を依頼してください。
「ディスク・ドライブ使用中」インジケータが表示されたままである。	<ul style="list-style-type: none">• ドライブにディスクが入っている場合は、次の項目を確認してください。<ul style="list-style-type: none">– 内蔵または外付けディスク・ドライブが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。– ディスクに、システムを始動するために必要なファイルが入っていませんか。– アプリケーション・プログラムに問題はありませんか。– ディスクに問題はありませんか。– ディスクが、ディスク・ドライブに正しく (ラベル面を上、金属シャッター部分を奥に) 挿入されていますか。上記の項目に問題がない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。• ドライブにディスクが入っていない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。

バッテリーの問題

問題	原因と処置
電源オフの状態でもバッテリー・パックを 3 時間半充電してもフル充電にならない。	バッテリー・パックが過放電状態になっている可能性があります。次の処置をとってください。 <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad の電源をオフにします。2. 過放電状態と思われるバッテリー・パックが取り付けられていることを確認します。3. AC アダプターを ThinkPad に接続し、バッテリー・パックを充電します。 バッテリー・パックを 24 時間充電してもフル充電にならない場合は、新しいバッテリー・パックを使用してください。 オプションのクイック・チャージャーが使用可能であれば、それを使用して放電過剰になっているバッテリー・パックを充電します。

問題	原因と処置
バッテリー残量インジケータ ーが空になる前に ThinkPad の電源が遮断される。 -または- バッテリー残量インジケータ ーが空を示した後も ThinkPad を操作できる。	バッテリー・パックの放電と充電を最低 3 回繰り返してください。
フル充電したバッテリー・パ ックの動作時間が短い。	バッテリー・パックの放電と充電を 3 ~ 6 回繰り返します。それでも問題が解決し ない場合は、新しいバッテリー・パックを使用してください。
ThinkPad がフル充電したバ ッテリー・パックで作動しな い。	バッテリー・パック内の過電流保護装置が働いている可能性があります。ThinkPad の電源をオフにして、この機能がリセットするまで 1 分以上待ってから、もう一度電 源をオンにします。

ハードディスク・ドライブの問題

問題	原因と処置
ハードディスク・ドライブが 断続的にがたがた音を立て る。	<p>がたがたという音は、次のような場合に聞こえる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードディスク・ドライブがデータへのアクセスを開始するとき、または停止す るとき。 ハードディスク・ドライブを持ち運んでいるとき。 ThinkPad を持ち運んでいるとき。 <p>これは、ハードディスク・ドライブの通常の特性であり、故障ではありません。</p>

CD-ROM ドライブの問題

問題	原因と処置
CD-ROM ドライブが作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ThinkPad の電源がオンで、CD-ROM が CD-ROM ドライブの中央の回転軸に収まっていますか。(カチッという音がするはずです。)• CD-ROM ドライブ・コネクタが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。• CD-ROM ドライブ・トレイはしっかりと閉じていますか。• デバイス・ドライバーが正しくインストールされていますか。• 拡張ユニットの CD-ROM ドライブが作動しない場合は、以下の処置を行います。<ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックします。2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。3. 「拡張ユニット」()をクリックします。4. 「拡張ユニットの IDE デバイスを使用する」にチェック・マークを付けてあるかどうか確認します。<p>注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。</p><ol style="list-style-type: none">5. 「OK」をクリックします。
CD-ROM の回転時に、CD-ROM ドライブが音を立てる。	CD-ROM ドライブのカバーが変形している可能性があります。CD-ROM ドライブの修理を依頼してください。
CD-ROM イジェクト・ボタンを押しても CD-ROM トレイが出てこない。	非常用 CD-ROM 取り出し用穴にピン先の先などを入れて CD-ROM トレイを出してください。

問題	原因と処置
<p>CD-ROM のデータを読むことができない。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD-ROM が汚れていませんか。汚れている場合は、市販の CD-ROM クリーナー・キットで汚れを取り除いてください。 • CD-ROM に欠陥がありませんか。別の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れて確認してください。 • CD が正しい向き (ラベルのある側を上にする) でトレイにセットされていますか。(カチッという音がするはずです。) • その CD は、次に示すものと互換性のある形式ですか。 <ul style="list-style-type: none"> – 音楽 CD – CD-ROM または CD-ROM XA – マルチセッション・フォト CD – ビデオ CD

DVD ドライブの問題

問題	原因と処置
<p>DVD が作動しない。</p>	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad の電源がオンで、DVD または CD が DVD ドライブの中央の回転軸に正しく収まっていますか。(カチッという音がするはずです)。 • DVD ドライブ・コネクタが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。 • DVD ドライブ・トレイがしっかり閉じていますか。 • デバイス・ドライバーが正しくインストールされていますか。 <p>拡張ユニットの DVD ドライブが作動しない場合は、以下の処置を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「拡張ユニット」() をクリックします。 4. 「拡張ユニットの IDE デバイスを使用する」にチェック・マークを付けてあるかどうか確認します。 <p>注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 「OK」をクリックします。
<p>DVD の回転時に、DVD ドライブが音を立てる。</p>	<p>DVD ドライブのカバーが変形している可能性があります。DVD ドライブの修理を依頼してください。</p>

問題	原因と処置
DVD 取り出しボタンを押しても、DVD トレイが出てこない。	非常用取り出し用穴にボールペンの先などを差し込んで、DVD トレイを出します。
DVD が読み取れない。	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DVD が汚れていませんか。汚れている場合は、汚れを取り除いてきれいにします。 • DVD に欠陥はありませんか。欠陥がある場合は、別の DVD を DVD ドライブに入れて試してみます。 • DVD が、ラベル側を上にして、DVD ドライブの中央の回転軸に正しく収まっていますか。(カチッという音がするはずです。) • その DVD は次のものと互換性のある形式ですか。 <ul style="list-style-type: none"> - 音楽 CD - CD-ROM または CD-ROM XA - マルチセッション・フォト CD - ビデオ CD - DVD (DVD ビデオ)

赤外線通信の問題

問題	原因と処置
ThinkPad が赤外線ポートを使って他の装置と通信することができない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通信速度は同じですか。 • 赤外線ポートは汚れていませんか。 • ThinkPad と通信先デバイス間に障害物はありませんか。 • ThinkPad と通信先デバイス間の距離と角度は、指定された範囲内にありますか。 • 直射日光が当たる場所で操作していませんか。 • 赤外線ポートが通信先ポートと直接向き合っていますか。 • 通信が ThinkPad の LCD の光で妨げられていませんか。これを避けるため、LCD を広角度に開いてください。 • ThinkPad で実行している通信アプリケーションと通信先のコンピューターで実行されている通信アプリケーションは、互換性がありますか。詳細については、アプリケーションの説明書を参照してください。

問題	原因と処置
ThinkPad と通信先デバイスとの間で誤ったデータが送信される。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad と通信先デバイスの間の距離と角度は正しいですか。 • 通信速度は同じですか。 • ThinkPad や通信先デバイスの近くにリモコン装置やワイヤレス・ヘッドホンなど、赤外線を出す装置がありませんか。 • 直射日光が当たる場所で操作していませんか。 • ThinkPad や通信先デバイスの近くに蛍光灯がありませんか。
パラレル・ポートと赤外線ポートの両方に対する DMA チャンネルが使用できない。	<p>ECP を使用可能にしているパラレル・ポート用に DMA3 (初期値) を選択すると、赤外線ポート用の DMA を使用不可にするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。パラレル・ポートと赤外線ポートの両方に DMA チャンネルを使用する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「OK」をクリックして、赤外線ポートに対するDMA を使用不可にします。 2. パラレル・ポートの画面をクローズします。 3. 「赤外線」ボタンをクリックして、「赤外線」ウィンドウをオープンします。 4. 画面上で、赤外線ポートに対し DMA0 または DMA1 を選択します。 5. オーディオ・デバイスに対する DMA を使用不可にするかどうかを確認する画面が表示されたら、「OK」をクリックします。

オーディオまたは電話機能の問題

問題	原因と処置
WaveTable MidiSynth 装置の音量を制御できない。	「ボリューム コントロール」の「Master Out」ウィンドウで「 Serial In 」を使用して、音量を調節してください。
音声データ通信を介する音質が良くない。	ThinkPad モデムには限界があるため、音声データ通信によって送受信される音声の音質は、通常の電話回線による場合ほど良質ではありません。瞬間的な音声の途切れ、遅れ、はずみなどが発生する場合があります。
その他の問題	<p>他にも次の要因で問題が生じる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• ThinkPad モデム機能と拡張ユニットに取り付けられた他のアダプター・カードとの間に互換性がない場合。この問題がどのカードまたはデバイスによるかを判断するには、拡張ユニットのアダプター・カードを 1 枚ずつ取り外し、そのつど Easy-Setup の「Test」メニューを実行してください。• 電話ケーブルの配線が、使用しているアプリケーションに適していない場合。• 電話ケーブルが損傷している場合。• 電話機が故障している場合。• オーディオ・ケーブルの配線が、使用しているアプリケーションに適していない場合。• オーディオ・ケーブルが損傷している場合。• オーディオ機器が故障している場合。

汎用シリアル・バス (USB) の問題

問題	原因と処置
汎用シリアル・バス (USB) コネクタに接続したデバイスが作動しない。	<p>次の処置をとってください。</p> <ol style="list-style-type: none">汎用シリアル・バス (USB) デバイスが正しく接続されていることを確認します。「デバイス マネージャ」ウィンドウをオープンし、USB デバイスのセットアップが正しく行われ、ThinkPad のリソースの割り当ておよびデバイス・ドライバのインストールが正しく行われているか確認します。 <p>注: 「デバイス マネージャ」ウィンドウをオープンするには、「スタート」をクリックしてから、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。次に「システム」をダブルクリックします。続いて、「システム プロパティ」ウィンドウで「デバイス マネージャ」タブをクリックします。</p> <p>157ページの『ThinkPad のテスト』を参照し、USB コネクタの診断テストとして、Easy-Setup の「Test」サブメニューを実行します。</p>

PC カードまたは内蔵モデムの問題

問題	原因と処置
内蔵モデムが作動しない。	<p>オペレーティング・システムがモデムと同じ IRQ レベルを共用している可能性があります。このような状況では、ThinkPad モデムのソフトウェアが作動しない場合があります。モデムを使用するには、IRQ の共用を取り消す必要があります。</p> <p>IRQ 共用状態の取り消し ➡ ステップ・アップ・ガイド</p>
モデムのアプリケーションが、ThinkPad モデムで働かない。	<p>「デバイス マネージャ」ウィンドウをオープンして「モデム ウィザード」を実行するか、次の手順に従って「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動して、内蔵モデムが使用可能になっていることを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">「スタート」ボタンをクリックします。マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。「内蔵モデム」() をクリックします。「使用する」を選択します。「OK」をクリックします。

問題	原因と処置
PC カード・モデムが作動しない。	赤外線ポートが使用不可で、モデムが正しくセットアップされているかどうか、本書および PC カード・モデムに付属の資料の説明に従って確認します。

その他の PC カードの問題

問題	原因と処置
PC カードが「使用可」と表示されるが、正しく作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> PC カード用に確保されたシステム・リソースが、他のシステム・デバイスと競合していませんか。 ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合を回避する」を参照してください。 PC カード用に確保されたリソースの設定が、アプリケーション・プログラムでの設定と一致していますか。 モデム・カードを使用している場合は、COM ポート番号、入出力ポート・アドレス、および IRQ レベルを確認してください。ネットワーク・カードを使用している場合は、入出力ポート・アドレス、IRQ レベル、およびメモリー・ウィンドウ・アドレスを確認してください。PC カードに割り当てられているリソースを調べるには、「ThinkPad 機能設定」プログラムの「PC カード・スロット」と「割り当てられたリソース」タブをクリックします。
PCカード使用時に、システム・リソースの競合が起こる。	ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」を参照してください。
PC カード・サポート・ソフトウェアが PC カードを認識しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> PC カードの種類がモデム・カード、ATA カード、フラッシュ・カード、または SRAM カードのいずれでもない場合は、そのカード用の適切なクライアント・デバイス・ドライバがありますか。Windows 95 の場合、PC カードは、それに関連する INF ファイルが必要です。 PC カードは、PCMCIA リリース 2.0、2.01、または 2.10 をサポートします。PC カードに付属の説明書を参照してください。PC カードが、PCMCIA リリース 2.0、2.01、または 2.10 をサポートしない場合、PC カード・ディレクターは使用できません。PC カードの製造会社にご連絡ください。 PC カードに診断テストが付属している場合は、それを実行して作動するかどうか調べてください。

問題	原因と処置
<p>PC カードは PC カード・サポート・ソフトウェアに認識されるが、「使用不可」または「構成不可」のメッセージが表示される。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PC カード・イネーブラーがインストールされていますか。PC カードに付属の説明書を参照してください。 • PC カードの種類がモデム・カード、ATA カード、フラッシュ・カード、または SRAM カードのいずれでもない場合は、そのカード用の適切なクライアント・デバイス・ドライバーがありますか。Windows 95 の場合、PC カードは、それに関連する INF ファイルが必要です。 • PC カードに対するリソースが正しく確保されていますか。ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」を参照してください。
<p>システムが PC カードから始動できない。</p>	<p>PC カードから始動する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「ウルトラスリムベイ」() ボタンをクリックします。 3. 「ウルトラスリムベイ のホット/ウォーム・スワップを使用可能にする」チェックボックスをクリックして、チェック・マークを消します。 4. 「OK」をクリックします。 <p>PC カード用に正しいシステム資源が使用されていることを確認してください。</p> <p>ATA: IRQ 15 I/O 170–177h、376h</p> <p>注: セカンダリ IDE は使用不可にする必要があります。</p> <p>RPL (トークンリング): IRQ 9 メモリー : D6000–DBFFFh I/O A20–A23h</p> <p>RPL (イーサネット): IRQ 5 メモリー D2000–D7FFFh I/O 300–31Fh</p>

問題	原因と処置
<p>PC カードをインストールして構成しても、作動しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • モデム・カード: 「モデム コントロール」パネルと使用している通信アプリケーションの設定がすべて対応していて、正しいかを確認します。 • SCSI カード: SCSI カード用の正しいドライバーがインストールされているか確認します。 注: ThinkPad を操作中に SCSI カードを挿入することはできませんが、できるだけ起動時に挿入するようにしてください。 • ネットワーク・カード: すべてのネットワーク構成要素が正しくインストールされているか確認します。 • コンボ・カード: コンボ・カード用の正しいドライバーがインストールされているか確認します。システムを再始動してから、コンボ・カードを差し込みます。
<p>バッテリー操作で PC カードを使用してアクセスしようとすると ThinkPad がネットワークの接続が切断される。</p>	<p>ThinkPad では、バッテリー寿命を延ばすために、プロセッサの速度とバッテリー操作時間に制限がありますが、ネットワーク・カードによっては、プロセッサ制御ができないものがあります。次の手順を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「ThinkPad 機能設定」アイコンをダブルクリックします。 4. 「省電力」をクリックします。 「省電力のプロパティ」ウィンドウが表示されます。 5. 「パワー・モード」タブをクリックします。 6. 「電源」リスト・ボックスの「バッテリー」が選択されているかどうか確認します。選択されていない場合は、「バッテリー」を選択します。 7. 「カスタマイズ済み」ボタンをクリックします。 8. 「詳細設定」の下の「パワー・モード」リスト・ボックスの「最大化」を選択します。 9. 「OK」をクリックして、変更を適用します。

問題	原因と処置
<p>PC カード・タイプのインターフェースを使用する外付け CD-ROM ドライブやネットワークPCカードなど、共有メモリーを利用する PC カードを挿入すると、正常に Windows98 の終了または再起動ができない。</p>	<p>これは Windows 98 の問題です。 暫定的な対策として、次の変更を行うことで Windows の終了ができるようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」をクリックしてから、マウス・ポインターを「設定」、「コントロールパネル」の順に移動し、「コントロールパネル」をクリックします。 2. 「システム」をダブルクリックします。 3. 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。 4. 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。 5. 「ユニバーサル シリアルバス コントローラ」の左側の「+」をクリックし、「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller」をクリックして選択します。 6. 「プロパティ」ボタンをクリックします。 7. 「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller のプロパティ」ウィンドウが表示されます。 8. 「リソース」タブをクリックします。 9. 「自動設定を使う」をクリックしてチェックマークを外します。 10. 「I/O の範囲」をクリックして選択します。 11. 「設定の変更」ボタンをクリックします。 12. 「I/O の範囲 の編集」ウィンドウが表示されます。 13. 「競合の情報」に「競合デバイスなし」が表示されているのを確認しながら、「値」の右側の上下矢印のボタンをクリックして、「値」を現在設定されている I/O の範囲から別の範囲に変更します。 14. 「OK」をクリックして、「I/O の範囲 の編集」ウィンドウをクローズします。 15. 「OK」をクリックして、「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller のプロパティ」ウィンドウを閉じます。 16. 「変更不可の環境設定の作成」というメッセージが表示されます。 17. 「続行しますか？」に対して、「はい」をクリックします（途中、例外 OE 等のエラーが表示される事もありますが、Enter キーを押してください）。 18. 「閉じる」をクリックして、「システムのプロパティ」ウィンドウをクローズします。 19. 活動中のすべてのウィンドウをクローズします。 20. 「スタート」をクリックしてから、「Windows の終了」をクリックします。 21. 「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」をクリックして、Windows を終了します。途中でストップした場合は、電源スイッチで電源を切ります。

拡張ユニットまたはセクタベースの問題

問題	原因と処置
<p>拡張ユニットの IDE CD-ROM ドライブまたはハードディスク・ドライブが作動しない。</p>	<p>拡張ユニットの 2 次 IDE デバイスに対するシステム・リソースが、他のデバイスのシステム・リソースと競合していないか確認してください。次の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「拡張ユニット」() アイコンをクリックし、「IDE デバイス」タブの「拡張ユニット中のウルトラ・ベイ IDE デバイス」で「使用する」を選択します。 注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。 4. 「設定」をクリックします。
<p>拡張ユニットの MIDI コネクターが作動しない。</p>	<p>拡張ユニットの MIDI コネクターを使用可能にする場合は、「ThinkPad 機能設定」を使用します。次の手順によって、MIDI コネクターが使用可能になっているかどうか確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「MIDI/ジョイスティック・ポート」をクリックします。 3. MIDI ポートが使用可能になっているかどうか確認します。使用不可能になっている場合は、「使用する」をクリックしてから、「設定」をクリックします。 4. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを終了し、ThinkPad を再起動します。 <p>注: ThinkPad の再始動時に、MIDI ドライバーをインストールする必要がある場合があります。画面の指示に従い、ご使用のオペレーティング・システムに合ったデバイス・ドライバーをインストールしてください。</p>
<p>ThinkPad の電源をオンにしたとき、または通常の操作状態に戻ったときに ThinkPad がハング (停止) する。</p>	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本書の説明に従って、AC アダプターがセクタベースまたは拡張ユニットに接続されていますか。 • セクタベースまたは拡張ユニットの電源オン・インジケーターがオンになっていますか。 • ThinkPad がセクタベースにしっかり接続されていますか、または ThinkPad とセクタベースが拡張ユニットにしっかり接続されていますか。 <p>それでも問題が解決されない場合は、セクタベースおよび拡張ユニットに付属の資料を参照してください。</p>

問題	原因と処置
ポート・リプリケーターに取り付けられている PC カードが認識されず、PC カード・スロットが使用できない。	次の項目を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • AC アダプターがポート・リプリケーターに接続されていますか。 • ポート・リプリケーターの電源オン・インジケーターがオンになっていますか。 • ThinkPad がしっかりとポート・リプリケーターに接続されていますか。 この問題は、Windows 98 を再インストールしたとき、または Easy-Setup を使用してシステムの初期化をしたときに起こる可能性があります。

プリンターの問題

問題	原因と処置
プリンターが作動しない。	次の項目を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • パラレル・ポートが使用可能になっていますか。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、 「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「パラレル・ポート」 () をクリックします。 4. 「使用する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。 • プリンターの電源がオンで、印刷可能になっていますか。 • プリンターの信号ケーブルが ThinkPad の正しいコネクタに接続されていますか。 上記の項目に問題がないにもかかわらず、プリンターが作動しない場合は、プリンターの説明書に記載されているテストを実行してください。このテストでプリンターの問題が検出されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。

外付けディスプレイの問題

問題	原因と処置
外付けディスプレイに何も表示されない。	<p>次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 外付けディスプレイを他の ThinkPad に接続し、作動するかどうかを確認します。2. 外付けディスプレイを、ご使用の ThinkPad にもう一度接続します。3. 外付けディスプレイに付属の資料を参照して、サポートされている解像度をチェックします。4. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。5. 「ThinkPad 機能設定」プログラムのツールバーの「ディスプレイ装置」ボタンを選択します。<ul style="list-style-type: none">• 外付けディスプレイがサポートする解像度が、LCD の解像度と同じかそれ以上である場合は、「CRT ディスプレイ単独」または「LCD と CRT ディスプレイ両方」をクリックします。• 外付けディスプレイがサポートする解像度が、LCD の解像度より低い場合は、「CRT ディスプレイ単独」をクリックします。(「LCD と CRT ディスプレイ両方」をクリックした場合は、外付けディスプレイの画面はブラック (何も表示されていないかゆがんでいます。)

問題	原因と処置
<p>外付けディスプレイに現在の解像度よりも高い解像度を設定することができない。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の手順に従って、ディスプレイ・ドライバーが正しくインストールされていることを確認してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. (Windows 98) 「詳細」ボタンをクリックします。 (Windows NT) 「ディスプレイ タイプ」をクリックします。 「アダプタ」タブで、ThinkPad ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか確認します。 6. 「OK」をクリックします。 ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか不確かな場合は、再インストールしてください。 • 適切なディスプレイ・タイプは、次のようにして選択します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. 「詳細」ボタンをクリックします。 6. 「モニタ」タブをクリックします。 7. 「変更」ボタンをクリックします。 「デバイス・ドライバの更新ウィザード」が表示されます。 8. 「次へ」をクリックし、「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」、「すべてのハードウェアを表示」の順に選択して、画面の指示に従います。 9. ディスプレイの「製造元」と「モデル」を選択し、画面の指示に従います。 10. ドライバーの更新後、「OK」をクリックして、「プロパティ」ウィンドウをクローズします。 11. 「画面のプロパティ」ウィンドウで、「色」および「画面の領域」を設定します。 12. 「OK」をクリックします。

問題	原因と処置
<p>画面が判読不能またはゆがんでいる。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のようにして、ディスプレイ・ドライバーが正しくインストールされているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. (Windows 98) 「詳細」ボタンをクリックします。 (Windows NT) 「ディスプレイ タイプ」をクリックします。 「アダプタ」タブで、ThinkPad ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか確認します。もし違っている場合は、ディスプレイ・ドライバーをインストールしてください。 • 次のようにして、ディスプレイが正しく設定されているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」ボタンをクリックします。 2. 「モニタ」タブをクリックします。 正しいディスプレイが選択されているか確認してください。 違っている場合は、正しいモニタ・タイプを選択します。 3. 「OK」をクリックして、ウィンドウをクローズします。 • 次のようにして、リフレッシュ・レートが正しく選択されているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」ボタンをクリックします。 2. 「アダプタ」タブを選択します。 3. ディスプレイの正しいリフレッシュ・レートを選択します。正しいリフレッシュ・レートが不確かな場合は、「最適」を選択します。 • VGA (640 x 480 の解像度) 専用の外付けディスプレイを接続しているかどうか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> – Fn + F7 で CRT ディスプレイ単独表示に切り替えます。 <p>設定が正しい場合は、外付けディスプレイの説明書に記載されているテストを実行してください。このテストで外付けディスプレイの問題が検出されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>画面に間違った文字が表示される。</p>	<p>オペレーティング・システムとアプリケーション・プログラムが正しい手順でインストールされているか確認してください。</p> <p>正しくインストールされている場合は、外付けディスプレイの修理を依頼してください。</p>

TV の問題

問題	原因と処置
画面に何も表示されない。	<p>次のことを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none">• TV 設定を使用可能にしていますか。マルチモニタ機能でセカンダリ モニタとして TV を使用するために、ThinkPad を起動する場合は、そのつど TV 設定を使用可能にする必要があります。• 次のようにして、ビデオ出力コネクタ (TV 出力) を使用可能にしたかどうか確認します。<ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックします。2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。3. 「画面」をダブルクリックします。4. 「設定」タブを選択します。「設定」ウィンドウにディスプレイ・アイコンが 1 つしか表示されない場合は、それを使用可能にします ➡ 69ページの『マルチモニタ機能の使用』。 <p>手順で「TV Output Standards」および「Output Selections」を設定する必要がある場合は、「TV Output Standards」の下の該当するボタン、および「Output Selections」の下の「Composite」ボタンを、必ず選択します。 ➡ 67ページの『ThinkPad への TV の接続』。</p>

その他のオプションの問題

問題	原因と処置
取り付けただけの IBM 製オプションが作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• オプションは ThinkPad 用に設計されたものですか。• オプションが、オプションに付属の説明書または本書に従って正しく取り付けられていますか。• 取り付けられている他のオプションやケーブル類がしっかりと接続されていますか。• I/O アドレス、割り込み (IRQ) レベル、DMA チャネルの設定に競合はありませんか。システム・リソースの状況を確認するには、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動して、各装置のアイコンをクリックしてください。 <p>オプションのテスト・プログラムで問題が検出されなかった場合は、ThinkPad とオプションの修理を依頼してください。</p>
今まで動いていた IBM 製オプションが作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• オプションが ThinkPad にしっかりと接続されていますか。• そのオプションはその自己テストが正常に終了していますか。オプションにテスト・プログラムが付属していれば、その指示に従ってオプションをテストしてください。• システム資源の競合がない(→ ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」)。 <p>上記の項目に問題がなく、テスト・プログラムでも問題が検出されない場合は、ThinkPad とオプションの修理を依頼してください。</p>

問題	原因と処置
シリアル・ポートが作動しない。	<p>次の手順に従って、シリアル・ポートが使用可能になっていることを確認してください。</p> <p>Windows 98 の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「シリアル・ポート」 () をクリックします。 3. 「使用する」を選択します。 4. 「デバイス・マネージャ」をクリックします。 5. 「デバイス・マネージャ」ウィンドウでポートをチェックし、設定が正しいかどうか確認します。 6. 「OK」をクリックします。 <p>Windows NT の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「シリアル・ポート」 () をクリックします。 3. 「使用する」を選択してから、「COM1」、「COM2」、「COM3」、または「COM4」を選択します。 4. 「OK」をクリックします。

ソフトウェアの問題

問題	原因と処置
<p>アプリケーション・プログラムが正しく作動しない。</p>	<p>問題の原因がアプリケーションにあるかどうかを調べるために、次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • そのアプリケーションを使用するために最低限必要なメモリーが ThinkPad にありますか。アプリケーションに付属の説明書を参照してください。 • そのアプリケーションがオペレーティング・システムで実行できるように設計されていますか。 • 問題のアプリケーション以外は、ThinkPad で正しく実行されますか。 • 必要なデバイス・ドライバーがインストールされていますか。 ➡ ステップ・アップ・ガイド • 問題のアプリケーションは、別のコンピューターで正しく作動しますか。 <p>アプリケーション・プログラムを使用しているときにエラー・メッセージが表示された場合は、アプリケーション・プログラムに付属の説明書を参照してください。</p> <p>上記の項目に問題がないにもかかわらず、問題が解決されない場合は、アプリケーション・プログラムのお買い上げ店またはサービス技術員にご連絡ください。</p>
<p>「ThinkPad 機能設定」プログラムのメイン画面がゆがんでいる (Windows NT の場合のみ)。</p>	<p>「アクティブ デスクトップ」に Internet Explorer バージョン 4.0 を組み込んで、Windows NT にインストールすると、この問題が生じる可能性があります。次のどちらかの処置を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ デスクトップをアンインストールします。(アクティブ デスクトップを使用不可にするだけでは、この問題は解決しません。) • 「ThinkPad 機能設定」プログラムをいったんクローズし、あらためて始動します。(これは一時的な回復です。)
<p>MS-DOS ゲームが稼働しない、または停止する。</p>	<p>このような問題は、リアル・モード・アプリケーションと、リアル・モードと保護モードの両方を提供する SystemSoft PCMCIA ドライバーの間で異常が発生しているときに起こります。購入時のシステム構成を変更せずに、MS-DOS モードでシステムを始動すれば、異常が発生することはありません。したがって、MS-DOS ゲームのプレイに問題はありません。</p> <p>次のようにして、システムを MS-DOS モードで再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. 「Windows の終了」をクリックします。 「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。 3. 「MS-DOS モードで再起動する」をクリックします。 4. 「はい」をクリックします。 <p>システムが MS-DOS モードで再起動します。このモードでゲームを実行します。</p>

その他の問題

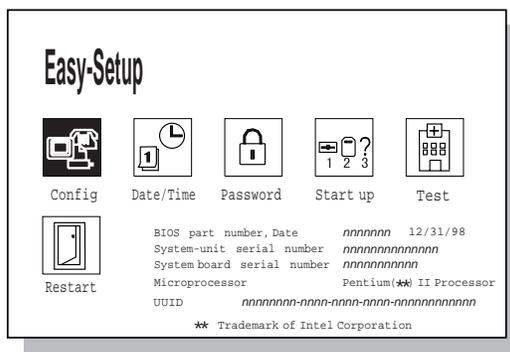
問題	原因と処置
ThinkPad がハングアップした、またはどんな入力もまったく受け付けない。	<ul style="list-style-type: none">• 通信操作をしているときにサスペンド・モードに入ると、ThinkPad がハングアップすることがあります。ネットワークに接続しているときは、サスペンド・タイマーを使用不可にしてください。• OS/2 Warp がインストールされている ThinkPad の電源をオンにする場合は、CD-ROM または DVD ドライブにディスクが入っていないかどうか確認します。入っている場合は、そのディスクを取り出し、ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、再度オンにします。• ThinkPad の電源をオフにするには、ボールペンの先などで電源遮断スイッチを押します。
電源スイッチをオフにしても ThinkPad の電源がオフにならない。	<p>バッテリー電源を使っていて、サスペンド・インジケーターがオンになっている場合は、バッテリーをフル充電されたものに交換するか、AC アダプターを接続してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ボールペンの先などで電源遮断スイッチを押して ThinkPad の電源をオフにしてください。</p>
ThinkPad をディスケットから始動できない。	ThinkPad がディスケット・ドライブから始動できるよう、Easy-Setup で始動優先順位が設定されているかどうか確認します (17ページの『Easy-Setup』を参照してください)。

ThinkPad のテスト

『問題判別表』の処置をとっても ThinkPad の問題が解決しない場合は、Easy-Setup の「Test」機能を使用して、ThinkPad をテストします。

ThinkPad をテストする手順は、次のとおりです。

- 1 スピーカーの音量調節が中間位置になっているかどうか確認します。
- 2 **[F1]** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにし、Easy-Setup を始動します。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで、**[F1]** キーを押し続けます。



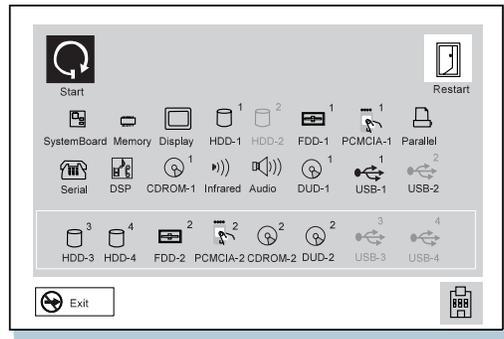
短いピーブ音が 1 回鳴ります。ピーブ音が鳴ったかどうか確かでない場合は、スピーカーの音量を調節します。ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、もう一度オンにします。それでもピーブ音が聞こえない場合は、スピーカーが作動していません。ThinkPad の修理を依頼してください。

- 3 「Test」アイコンを選択してから、「Start」アイコンを選択し、**Enter** キーを押します。



テスト中は、キーボードやポインティング・デバイスに触れないようにします。

次のようなウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示されているデバイスは、ご使用の ThinkPad の機能とオプションに対応しています。



- 次のメニューが表示されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
- エラーが検出されると、X という文字がアイコンの左に表示され、その下にエラー・コードが表示されます。エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。



オプションとしてセレクトドック I または II 拡張ユニットを ThinkPad で使用している場合は、セレクトドック拡張ユニットをテストするための診断ディスクを作成する必要があります。この診断ディスクは、既存のセレクトドック I またはセレクトドック II オプション・ディスクの診断部分に替わるものです。次の手順を実行します。

1. 導入済みアプリケーション CD の「ディスクット・ファクトリー」プログラムを使用して、セレクトドック I/II 診断ディスクを作成します。
2. ThinkPad をセレクトドック I または II 拡張ユニットに接続します。
3. セレクトドック I/II 診断ディスクで起動します。
画面の指示に従ってください。

ここでは、ThinkPad の機能と仕様について説明します。

機能

プロセッサ

- Intel モバイル Pentium® II プロセッサ

メモリー

- 標準装備：64 MB
- オプション：合計最大：288 MB まで増設可能

ストレージ・デバイス

- 2.5 インチのハードディスク・ドライブ

ディスプレイ

TFT テクノロジー使用のカラー・ディスプレイ

- 本体 LCD で最大 1024x768 までの解像度
- 外付けディスプレイで最大 1280x1024 までの解像度
- 輝度調節

キーボード

- 89 キー + **Fn**
- トラックポイント
- Fn キー機能

外付けディスク・ドライブ

高品質のディスク (IBM のディスクなど) をご使用になることをお勧めします。

- **2 DD 3.5**インチ・ディスク
- **2 HD 3.5**インチ・ディスク

外付けインターフェース

- シリアル・コネクタ (EIA-RS232D)
- パラレル・コネクタ (セントロニクス)
- 外付け入力装置コネクタ
- 外付けディスプレイ・コネクタ
- 外付けディスク・ドライブ・コネクタ
- 拡張コネクタ
- PC カード・スロット (タイプ I またはタイプ II の PC カードを 2 枚、またはタイプ III の PC カードを 1 枚使用可能)
- ヘッドホン・ジャック
- マイクロホン/ライン入力ジャック (ダイナミック・マイクロホンまたはバッテリー電源コンデンサー・マイクロホン)
- 赤外線ポート
- 汎用シリアル・バス (USB) コネクタ
- 電話用コネクタ

データ・モデム機能

- 非同期通信ポート・インターフェース (NS16550A UART 互換) 操作
- ITU-T V.34 (最大 33.6 Kbps) データ・モデム (データ転送速度は 2400、4800、7200、9600、12000、16800、19200、21600、24000、26400、31200、および 33600 bps)
- ITU-T V.32bis プロトコル (データ転送速度は 4800、7200、9600、12000、および 14400 bps)
- ITU-T V.32 プロトコル (データ転送速度は 4800 bps または 9600 bps 非コード化、および 9600 bps Trellis コード化)

- ITU-T V.21/V.22,V.22bis プロトコル (データ転送速度は 300 bps ~ 2400 bps)
- Hayes** AT コマンド・セットとの互換性
- 非同期エラー回復プロトコル
- Microcom Network Protocol (MNP**) プロトコル
 - MNP クラス 1 ~ 4 によるエラー訂正
 - MNP クラス 5 および V.42bis によるデータ圧縮
 - MNP クラス 5 (最大 2 倍までのデータ圧縮が可能)
- VoiceView (Windows 98 および Windows 95 の場合のみ)
- U.S. Robotics 56K Technology** プロトコル (データ転送速度は 56 Kbps) (Windows 98、Windows 95、および Windows NT の場合のみ)

ファクシミリ (FAX) モデム機能

- クラス 1 FAX モデム
- クラス 2 FAX モデム
- G3 転送
- ITU-T T.4 および T.30 操作
- ITU-T V.27ter -2400/4800 bps での送受信
- ITU-T V.29 -7200/9600 bps での送受信
- ITU-T V.17 -14400 bps での送受信

仕様

寸法

- 幅：300 mm
- 奥行き：240 mm
- 高さ：36.5 mm

環境

注:

バッテリー・パックを充電する場合、充電する環境の温度は最低でも 10°C 以上ある必要があります。10°C より低い環境で充電しても、フル充電されないことがあります。

- 温度 (高度 2,438 m 以下):
 - ディスケットが入っていない場合の動作時: 5° ~ 35°C (2,438 m 以下)、5° ~ 31.3°C (2,438 ~ 3,048 m)
 - ディスケットが入っている場合の動作時: 10° ~ 35°C (2,438 m 以下)、5° ~ 31.3°C (2,438 ~ 3,048 m)
 - 非動作時: 5° ~ 43°C
- 相対湿度:
 - ドライブにディスクが入っていない場合の動作時: 8% ~ 95%
 - ドライブにディスクが入っている場合の動作時: 8% ~ 80%
- 最大高度動作時: 圧力を受けない状態で 3,048 m

発熱量

- 1 時間当たり約 48 Kcal

電源 (AC アダプター)

- 50 ~ 60 Hz での正弦波入力が必要。
- AC アダプターの定格入力: 100 ~ 240 V AC、50/60 Hz

リチウム・イオン・バッテリー・パック

- 公称電圧: 10.8 V DC
- 容量: 3.2 AH

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

西暦 2000 年対応および説明

ある製品が 2000 年対応と言えるのは、その製品を、その製品の説明書と共に使用したときに、1999 年と 2000 年にまたがる日付データの処理、引き渡し、および受け取りが正しくできる場合です。ただし、その製品で使用される他のすべての製品（たとえば、ソフトウェア、ハードウェア、およびファームウェア）が、その製品と日付データを正確に交換できることが条件です。

この IBM PC ハードウェア製品は、1999 年と 2000 年にまたがる 4 桁の日付データを正しく処理するように設計されています。ご使用の IBM コンピューターが 1999 年から 2000 年に移る瞬間にオンになっている場合は、必ず、それをいったんオフにしてから、もう一度オンにするか、オペレーティング・システムを再起動し

て、内蔵クロックが新しい世紀に対応するためにリセットできるようにしてください。

この IBM PC 製品は、使用されているソフトウェアや、その製品とデータを交換しているソフトウェアが西暦 2000 年対応でない場合には、エラーの発生を防ぐことはできません。この製品に付属の IBM ソフトウェアは西暦 2000 年対応ですが、この製品に他社のソフトウェアが付属している場合もあります。IBM では、そのソフトウェアが西暦 2000 年に対応しているかについては、保証できません。西暦 2000 年に対応しているかの確認、制限事項の確認、またはソフトウェア更新について知りたい場合は、そのソフトウェア開発者に連絡してください。

IBM PC 製品と西暦 2000 年対応について詳しく知りたい場合は、IBM の Web サイト (<http://www.ibm.co.jp/ad2000>) にアクセスしてください。そこで提供されている情報とツールが、西暦 2000 年の移行計画 (特に、複数の IBM PC をお持ちの場合) の作成を手助けします。IBM では、そこで提供されている更新情報を定期的にチェックすることをお勧めします。

商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

IBM	PS/2
Operating System/2	RediSafe
OS/2	ThinkPad
	トラックポイント

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows 95 は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel®、Pentium®、および MMX™ は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標または登録商標です。

その他の会社名、製品名、およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

製品の注記要件

次の注意が該当するのは、DVD および TV 出力機能を備えた ThinkPad の場合です。

この装置は、米国特許番号 4631603、4577216、4819098、4907093、およびその他の知的所有権によって保護されています。この装置に組み込まれている Macrovision のコピー・プロテクト・テクノロジーの使用には、Macrovision による許可が必要であり、Macrovision の文書による許可がない限り、自家およびその他の限定有料使用 (1 回の表示ごとに料金を支払う) のみに限られます。リバース・エンジニアリングまたは逆アセンブルは禁じられています。

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

安全に正しくお使いいただくために xii
位置

正面図 2

底面図 4

背面図 4

インジケーター 6

問題 135

ウォーム・アンドッキング 81

ウォーム・スワップ 89

ウルトラスリムベイ 16

ストレージ・デバイスの交換 88

液晶ディスプレイ

問題 134

エラー・コード 122

エラー・メッセージ 122

オーディオの問題 141

オプション

拡張ユニット 77

入力装置、接続 58

ポート・リプリケーター 77

問題 153

PC カードの取り付け 74

オペレーティング・システムの再インストール 33

音声のミュート 14

音声をミュートにする 14

音量の調節 14

〔カ行〕

解像度 65

拡大モード、画面 14

拡張ユニット

ウォーム・アンドッキング 81

コールド・ドッキング 78

接続 (ドッキング) または取り外し (アンドッキング) 77

拡張ユニット (続き)

ホット・アンドッキング 81

問題 147

リソースの競合 83

IDE デバイスの使用 84

カスタマイズ

システム 33

内蔵デバイス 28

仮想画面機能 66

画面

拡大モードまたは通常モード 14

配色の変更 18

問題 129, 134

画面の配色の変更 18

キーボード

数値キーパッド 15

トラックポイント 9

キーボードの機能

Fn キー 12

記憶容量を増やす 52

機能設定

プログラム 28

コールド・ドッキング 78

構成

Easy-Setup 18

〔サ行〕

再設定 33

サスペンド・モード

サスペンド・モードに入る 13

問題 131

CD-ROM ドライブの使用 (Windows 95 の場合) 111

PC カードを使用する場合の制限 74

時刻の設定 20

システム状況インジケーター 7

問題 135

システム設定情報の一時保存 34

システム設定情報の復元 34

- 始動
 - 最適化 20
 - 優先順位の設定 22
- 始動パスワード 92
 - 消去 96
 - 設定 94
 - 変更 96
- 使用可能
 - ウォーム接続 56
 - キーボード上の数値キーボード 15
 - トラックポイント 62
- 消去
 - パスワード 96
- 使用不可
 - ウォーム接続 56
 - キーボード上の数値キーボード 15
 - トラックポイント 62
- シリアル・コネクタの問題 154
- シンプル・ブート・フラグ機能 20
- スーパーバイザー・パスワード 92
 - 消去 98
 - 設定 94
 - 変更 98
 - 忘れた場合 96
- 数値キーボード、設定
 - キーボード 15
 - 外付け 58
- スタンバイ・モードに入る 13
- ストレージ・デバイスの取り付け 88
- 制限
 - サスペンド・モード時の PC カードの取り外し 74
 - 外付けディスプレイの取り外し 65
 - 外付けマウスとトラックポイント 62
 - トラックポイントと外付けマウス 44, 62
 - ハイパーネーション・モードと PC カード 35
 - PC カード 26, 116
- 赤外線ポート
 - 問題 139
- セキュリティー
 - ねじ 108
- セキュリティー機能
 - セキュリティー・システム・ロック 107
 - パーソナライゼーション・エディター 103
 - パスワード 92
- セキュリティーねじの使用 108
- セキュリティー・システム・ロック 107
- セットアップ 17
- 外付けキーボード
 - 数値キーボードとの併用 60
 - 問題 129
- 外付けディスク・ドライブ取り付けキットの使用 57
- 外付けディスプレイ
 - 解像度 65
 - 設定 63
 - 取り外すときの制限 65
 - 表示出力先の変更 64
 - 問題 149
 - LCD への切り替え 14
- 外付けマウス
 - トラックポイントと併用する場合の制限 62
 - 問題 129
- ソフトウェアの問題 155

〔 夕行 〕

- 通常モード、画面 14
- データの保護、 34
- ディスク・ドライブ 55
 - ウォーム接続を使用可能にする 56
 - 取り付けキットの使用 55
 - 取り外し 57
- ディスク・ファクトリーの使用 33
- ディスプレイ
 - LCD と外付けディスプレイとの切り替え 14
 - 参照：外付けディスプレイ
 - 参照：LCD (液晶ディスプレイ)
- 電話機能の問題 141
- ドライバー
 - ディスク・ファクトリー 33
 - Web サイトからの入手 34
- トラックポイント 9
 - 拡大表示 43
 - 感度 42
 - キャップの交換 11
 - 使用可能 62
 - 使用不可 62
 - スクロール 43
 - 外付けマウスで使用する場合の制限 44
 - 外付けマウスと併用する場合の制限 62

トラックポイント (続き)
 プレス・セレクト 40
トラックポイント、拡大表示 43
トラックポイント、スクロール 43
トラックポイント、プレス・セレクト 40
 感度の調節 42
トラックポイントの感度 42
トラックポイントの自動使用不可 62
取り付け
 ウルトラスリムベイに取り付けるストレージ・デバイス 88
 メモリー 46
 PC カード 74
取り外し
 メモリー 51
 PC カード 76

〔ナ行〕

内蔵デバイスのセットアップ 28
入力装置の問題 129
ネットワーク管理を使用可能にするには 27

〔ハ行〕

パーソナライゼーション・エディター
 削除 106
 設定 103
ハードディスク
 アップグレード 52
 内容の回復 33
 問題 136
ハードディスクのアップグレード 52
ハードディスク・ドライブ・パスワード 92
 消去 96
 設定 94
 変更 96
 忘れた場合 96
ハイバネーション・モード
 ハイバネーション・モードに入る 13
 問題 131
 CD-ROM ドライブの使用 (Windows 95 の場合) 111
 HPFS 形式 (OS/2 の場合) 113
 NTFS フォーマット (Windows NT の場合) 112
 PC カードを使用する場合の制限 35

パスワード 92
 消去 96
 スーパーバイザー権限 101
 設定 94
 入力 93
 プロンプトの表示 93
 変更 96
 文字、設定 95
パスワードの変更 96
バックアップ
 ディスクットの作成 33
バッテリー
 交換 35
 残量のチェック 13
 問題 135
パワー・モードの変更 13
汎用シリアル・バス (USB)
 問題 142
日付の設定 20
表示
 出力先の変更 64
ブート
 最適化 20
 優先順位の設定 22
ファンクション・キーと Fn キー 12
プリンターの問題 148
フロッピー・ディスク・ドライブ
 参照：ディスクット・ドライブ
ポート・リプリケーターの問題 147
ポインター
 参照：トラックポイント
ホット・アンドッキング 81

〔マ行〕

マウス
 参照：トラックポイント
 参照：マウス
マウス・ポインター
 参照：トラックポイント
マウス・ポインターのドリフト (浮動) 10
メモリー 45
 サイズの計算 50
 増加 52
 取り付け 46
 取り外し 51

メモリー (続き)

不足

DOS の場合 114

Windows 3.1 の場合 112

メモリー・サイズの計算 50

モデムの設定、PC カードまたは組み込み式 (OS/2 の場合)

問題判別

インジケーターの問題 135

エラー・コード 122

エラー・コードが表示されない 129

エラー・メッセージ 122

オーディオの問題 141

拡張ユニットの問題 147

画面上のメッセージが表示されない 129

サスペンド・モードの問題 131

赤外線通信の問題 139

外付けディスプレイの問題 149

その他のオプションの問題 153

その他の問題 156

ソフトウェアの問題 155

電話機能の問題 141

入力装置の問題 129

ハードディスク・ドライブの問題 136

ハイバネーション・モードの問題 131

バッテリーの問題 135

汎用シリアル・バス (USB) の問題 142

プリンターの問題 148

ポート・リプリケーターの問題 147

モデムの問題 142

CD-ROM ドライブの問題 137

DVD ドライブの問題 138

LCD の問題 134

PC カードの問題 143

TV の問題 152

問題判別ガイド 119

〔ラ行〕

リソースの競合 83

リモート・オペレーションの使用可能化 27

C

CD-ROM ドライブ

プロパティの変更 111

問題 137

COM ポートの設定 113

ConfigSafe 34

CRT

参照: 外付けディスプレイ

D

DIMM

取り付け 46

取り外し 51

DVD

問題 138

E

Easy-Setup 17

テスト 157

パスワード 92

EDO DRAM 45

F

Fn キーの組み合わせ 13

L

LAN リモート・オペレーションを使用可能にする 27

LCD (液晶ディスプレイ)

外付けディスプレイへの切り替え 14

P

PC カード

サポートする PC カード 74

制限 26, 116

タイプ 75

停止 76, 117

取り付け 74

取り外し 76

モデムの使用

設定、OS/2 の場合 114

PC カード (続き)

問題 143

PC カードまたは内蔵モデム

問題 142

Product Recovery CD の使用 33

S

SDRAM 45

T

ThinkPad カスタマイズ CDの使用 33

「ThinkPad 機能設定」プログラム 28

DOS 用の 114

Windows NT のウィンドウ 31

Windows 98 のウィンドウ 30

ThinkPad Web サイト 34

TV

接続 67

問題 152

W

Wake on LAN を使用可能にするには 27

Web サイト 34

IBM

部品番号: 27L8093

Printed in Japan



27L8093